

蒐集シ被告人ヲシテ自ラ自白セサルヲ得サルニ至ラシムルヲ可トス

第九十四條 豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カラス

第九十五條 裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ録取シ被告人ニ之ヲ讀聞カス可シ

豫審判事ハ被告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第九十六條 被告人其供述ニ付キ變更増減ス可キコトヲ申立タルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ録取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印ス可シ

第九十七條 被告人ハ供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

第九十八條 豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコト、人違士キコト、其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ模様ヲ證スル爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人、證人又ハ其他ノ者ト對質セシムルコトヲ得

(註)被告人數名アレハ同時ニ之ヲ訊問セス各別ニ之ヲ爲シ證人ノ訊問モ亦被告人ノ面前ニ於テセサルヲ原則トス然レトモ場合ニ因リテハ共同被告人ヲ對質セサレハ事實ノ明了サセラルコトアリ又被告人ト證人トノ對質ヲ要スルコトアリ此等ノ場合ハ例外トシテ對質セシムルヲ得ルナリ蓋シ對質ハ往々不言不語ノ間ニ於テ若クハ尋常陳述ノ間ニ於テ双方ノ意思ヲ通シ不實ノ供述ヲ爲スコトアリ或ハ相互ニ其面前ニ於テ其不利ノ事實ヲ述フルヲ憚リ供述ヲ變スルコトアリ却テ事實ノ真相ヲ得難キノ恐アリテ時機ニ應シテ之ヲ施スニ非サレハ不可ナリ

第九十九條 書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ録取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第九十五條第九十六條ノ規定ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第一百條 被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ

被告人又ハ對質人國語ニ通セサルトキ亦同シ

第一百一條 通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ

書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之二署名捺印セシム可シ
第三百二十六條 第三百二十七條 第三百四十一條ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第五節 檢證、搜索及ヒ物件差押

第二百二條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミテ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

(註)檢證ハ豫審判事カ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミテ其地ノ狀況ヲ觀察シ或ハ犯罪ノ痕跡ヲ證明スル等證據ノ蒐集ヲ爲スモノナリ是民法ノ檢證トハ其意甚タ狭ク而シテ檢證ハ犯罪ノ證據ノミナラス無罪ノ證據モ亦檢シ被告事件ノ真相ヲ發見スルヲ目的トスルモノナリ又檢證ヲ爲スニハ日時ノ如何ニ關セス夜間ト雖モ妨ナシ場所ノ如何モ亦論ナク原野道路ハ勿論、邸宅、家屋亦妨ナク承諾ノ有無ヲ問ハスシテ之ヲ行フヲ得ヘシ

第二百二條 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ模樣ニ付キ調書ヲ作ル可シ
又被告人ノ利益ト爲ル可キ模樣ヲモ記載ス可シ

第四百四條 豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得
被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルトキハ同居ノ親屬若シ其在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルヲ要ス
第七十八條第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(註)搜索トハ證據ノ搜索ニシテ亦其場所ヲ問ハス山河、邸宅、家屋其他何處ト雖モ苟モ證據アルノ疑アル所ハ之ヲ行ヒ得ルノミナラス被告人ノ身体中ニ藏匿シアルノ疑アルトキハ其身体ヲモ搜索シ得ヘク其他ノ者ニ付テモ亦然リ被告人其他ノ者ノ住居ヲ搜索シ得ルコトハ本條ノ規定ナルモ之ニ付テハ他ノ場所ト異ナリ住居ナルノ故ヲ以テ特ニ其手續ヲ鄭重ニシ被告人又ハ藏匿者ヲ立會ハシムルヲ原則トス若シ不在ナルトキハ同居ノ親族若シ親族モ亦不在ナルトキハ市町村長ノ立會ヲ要シ其立會ヲ缺キタルトキハ其搜索手續ハ無效タルモノトス

第四百五條 豫審判事ハ被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身體及ヒ之ニ屬スル物件ニ付キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第四百六條 豫審判事ハ臨檢、搜索ニ因リ發見シタル物件其事實ヲ證明

スルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件監護ヲナシ又ハ遞送スル裁判所書記之ヲ擔任ス可シ

(註)本條ハ臨檢搜索ニ依リ發見シタル物件其事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘルコトヲ得ルモノトス物件差押ハ事實ノ證明ニ必要ナリトスル物件ヲ差押ヘ其事件ノ落着マテ裁判所ニ留置スルヲ云フ故ニ物件差押ハ臨檢ニ因リ發見セシ物件カ證據ト爲スヘキトキ之ヲ爲スヘク又搜索ニ因リ之ヲ發見セルトキ之ヲ爲スヘク又證人若クハ被告入ヨリ監護遞送ニ付テハ裁判所書記之ヲ擔任スヘシ

第七條 豫審判事ハ臨檢、搜索、物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終ラサルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

(註)家宅搜索ハ日出前日没後ニ於テスルヲ得ストスレトモ此ハ日出前日没後ニ始メテ搜索ニ着手スルヲ得サルニ止マリ苟モ適法ノ時間ニ着手セシ以上ハ日没後マテ其搜索ヲ繼續スルモ妨ケナシト解セサルヘカラス又旅店、割烹店其他夜間ト雖モ公衆ノ出入ヲ許ス場所ニ於テハ其ノ公開時間中ハ何時ニテモ搜索ニ着手スルヲ得ヘシ而シテ其日ニ處分ヲ終ラサルトハ時間ノ迫リ即チ日没後ニ至リタルヲ以テ搜索ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタル場合ヲ云フニアラス其日ノ相當ノ時間中ニ終ラサルヲ云フ

第八條 被告人ハ臨檢、搜索、物件差押ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審判事本人ノ立會ヲ必要トスルトキハ此限ニ在ラス

第九條 豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ其訊問及ヒ供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

(註)被告人檢證處分ニ立會ヲ爲サルトキハ更ニ豫審ノ認廷ニ於テ被告人ノ面前ニ於テ差押物件ヲ開封シ之ヲ揭示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ被告人檢證處分ニ立會ヲ爲シタルトキハ其場所ニ於テ辯解ヲ爲サシメ又ハ別段豫審ノ認廷ニ於テ辯解ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條 豫審判事ハ臨檢、搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聽クコトヲ必要ナリトスルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ

第十一條 豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス允許

ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得
若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留
置スルコトヲ得

(註)證人ヲ訊問スルヲ必要トスルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ訊問スヘシト
スル又檢證ノ場所ハ認廷ト同視スルコトヲ得ヘシ其出入ヲ禁スルハ見證人ヲシテ散亂セシ
メサルト衆人ヲシテ取調ヲ妨害セシメサルトニ在リ若シ此禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥
シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得是レ非常ナル強制ノ權力ナリト雖モ之レ無ケ
レハ證據ノ湮滅ヲ防遏スル能ハサルナリ

第百十二條 豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢、搜索、物件

差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

(註)本條ハ職務ヲ囑託スルノ規定ナリ而シテ之ヲ囑託スルコトヲ得ヘク又囑託スルコトヲ
得ヘカラサル職務アリ訊問檢證其他事實ヲ證明スルマテノ處分ハ之ヲ囑託スルコトヲ得レ
トモ命令及言渡ノ如キ裁判官自己ノ決定ヲ取ルヘキ裁判權内ニ屬スル處分ハ猥リニ之ヲ囑
託スヘカラス其囑託スヘキ官吏ハ搜查ノ處分ニ付テハ其發部ヲ司法警察官ニ囑託スルコト
ヲ得然レトモ檢事ニ囑託スルコトヲ得ス其囑託スヘキ場合ハ官吏ノ職權ハ管轄地外ニ及ハ
サルノ原則ニ依リ管轄地内ニ於テ取調ヲ要スルトキハ必ス其地ノ管轄官吏ニ囑託ノ事件ヲ

明示シテ其處分ヲ求ムヘシ裁判所地内ニ於テ囑託スヘキ場合ハ裁判所外ニテ取調ヲ爲ス可
キ事件ニ限ル第一判事差支ノ爲メ第二費用節減ノ爲メナリ

第百十三條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞、

電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審事件ニ關
係アル者ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ發シタル書類、電報又ハ物件ヲ
受取開披スルコトヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

(註)本條ヲ解スルニ當リ其差押ヲ爲スコトヲ得ヘキ書類ト云ハ、左ノ二個ノモノトス

- 一 被告人ヨリ外人ニ對シ發シタル書類又ハ外人ヨリ被告人ニ對シ發シタル書類ヲ差押
フルニハ別段困難アルコトナシ何トナレハ既ニ被告人ノ氏名アルハ之ヲ差押フルコト
ヲ得ヘキモノタルノ推測アリトス
- 二 豫審ニ關係アル者ヨリ外人ニ對シ發シタル書類又ハ外人ヨリ豫審ニ關係アル者ニ對
シタル書類ニ付テハ頗ル注意セサルヘカラス本條豫審ニ關係アル者トアレトモ如何ナ
ル者ヲ以テ豫審ニ關係アル者トスルコトヲ定メス蓋シ被告事件ノ正犯從犯及ヒ附帶ノ
犯罪タル可キ嫌疑アル者ヲ包含シタル者トス其嫌疑アル者トスルニハ之ヲ認ムヘキ充
分ナル推測アルヲ要ス
- 三 被告人又ハ豫審ニ關係アル者僞名又ハ暗號ノ書類電報ヲ用ヒタリト雖モ之ヲ用ヒタ

ル充分ノ推測アルトキハ差押ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第一百四十四條 證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其默祕ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得ス

(註)證言ヲ拒ムコトヲ得ル者トハ醫師產婆辯護士等ノ如キ其ノ職務上ヨリ人ノ秘密ヲ漏スコトヲ得サル者ハ其ノ託セラレシコトニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ者ナリ此等ノ者カ其ノ委囑セラレタル爲メニ所持スル物件ニシテ之ヲ他人ニ語リ又ハ見セルコトヲ憚ル義務アルモノハ其承諾スルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得サルモノトス

第六節 證人訊問

(註)裁判所カ事實ヲ知ランカ爲メ其事實ヲ知レル人ヲ呼出シテ審問スルコトアリ其審問ヲ受ケテ陳述ヲ爲ス者ヲ證人ト云フ證人ト爲ル義務ハ刑法ニ於テハ之ヲ一ノ公務トナシ日本國民タル者ハ總テ此義務ヲ負フヲ原則トシ外國人ト雖モ日本ノ法律ニ服從スル者ハ亦刑法及ヒ本法ノ規定ニ依リ此義務ヲ負フモノトス證人タル義務ニ違背セルトキハ如何ナル制裁アリヤ**第一百八條**ニ依レハ證人カ裁判所ヨリ呼出サレ正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡シ且其爲ニ生シタル費用ノ賠償ヲ命ス然レトモ此決定ニ對シテハ抗告ヲ許シ抗告ノ落着スルマテハ執行スルヲ得ス而シテ此制裁ヲ付スルモ尙ホ

其陳述ヲ聽ク必要アルトキハ再ヒ呼出狀ヲ發スルコトヲ得ヘク此再度ノ呼出ニモ應セサルトキハ其費用ノ賠償及ヒ二倍ノ罰金ヲ課シ且拘引狀ヲ發シテ引致スルコトヲ得

拘引狀ヲ發シテ證人ヲ引致セシトキハ豫審中ニ於テハ豫審判事カ及フ可ク速ニ訊問スルモ必スシモ其日ニ於テスルヲ得ス翌日ニ於テスルコトアリ又證人ノ規定ハ公判ニモ準用シ得ルモノナルカ公判ニ於テハ更ラニ困難アリ公判ノ開廷日ハ豫メ一定シ證人ノ引致ニ因リ臨時ニ開廷スルヲ得ス或ハ開廷日カ其引致ヨリ數日數十日後ナルコトアリテ其間引致セル證人ヲ留置スルヲ得ス被告人スラ引致後四十八時間ヲ過クヘカラサルヲ以テ證人ハ殊ニ之ヲ過クルヲ得ス且被告人ハ夜間留置場ニ留置スルモ證人ハ之ヲ留置スル場所ナシ故ニ證人ハ之ヲ引致スルモ已ムヲ得ス其儘放還スルコトアリ次回ニ更ニ呼出スノ外ナキモノトス

第一百五條 證人ノ呼出狀ニハ其ノ氏名、住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ

又出頭ノ日時、場所及ヒ呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

第一百十六條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコ

トヲ疏明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

第一百七十七條 證人ト爲ル可キ者豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

第一百八十八條 豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス
豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外ニ倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又勾引狀ヲ發スルコトヲ得
豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行

ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ其勾引ニ付テモ亦同シ

第一百十九條 豫審判事ハ證人罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ其出頭セサリシコトヲ正當ノ理由ヲ以テ辯解シタルトキハ檢事ノ意見見ヲ聽キ其罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

(註)本條ハ呼出ニ應セサル證人ヲ處分スヘキ特例ヲ規定シタルモノナリ證人呼出ニ應セザリシ正當ノ事由證明シタルトキハ其罰金ノ言渡ヲ取消スヘシ蓋シ此特例ハ缺席裁判ニ對スル故障ト同視スルコトヲ得ヘシ畢竟本人ヲ呼出サスシテ直ニ裁判言渡ヲ爲スニ因リ本人ハ何等ノ辯護ヲモ爲スコト能ハサルヘシ故ニ出廷スルコト能ハサリシ正當ノ事由ヲ申立テタルトキハ罰金ノミナラス呼出ノ費用ヲ擔當スヘキノ言渡ヲモ取消スヘキハ當然ナリ

第二百二十條 證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタルトキハ其人違ナキコトヲ疏明ス可シ

(註)出廷シタル證人ハ送達ヲ受ケタル呼出狀ヲ書記ニ差出スヘシ是ハ事件ノ證人トシテ出廷シタルコトヲ證スルニ過キス何トナレハ證人ノ氏名ヲ詐稱シテ出廷スル者ハ證人ト通謀シタル者ナルヘシ證人呼出狀ヲ差出シ又ハ呼出狀ヲ遺失シタル時ハ其人違ナキコトヲ證明

シタル上ニテ豫審判事ハ證人宣誓前其身ニ付テ問ヲ爲ス即チ氏名年齢職業住所ヲ問フナリ
第二百一十一條 豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名、年
齡、職業、住所及ヒ**第二百二十三條**ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フ可
シ

(註)本條ノ規定ハ最モ必要ナルヘシ何トナレハ豫審ニ於テハ別段訊問スヘキ證人ノ氏名ヲ
原告及ヒ被告ニ通知スルニ及ハス故ニ原告又ハ被告ヨリ證人ニ付テ異議ヲ述フルニ由ナシ
而シテ本條ニ記載シタル間ハ被告事件ニ關セス唯宣誓ス可キ者ナルヤ否ヲ認ムルニ必要ナ
ル手續ニ付キ宣誓前之ヲ爲サ、ルヘカラス故ニ其答ニ詐リアリト雖モ偽證ヲ以テ之ヲ罰ス
ヘキニアラス

第二百二十二條 豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ
黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓セシム可シ

裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名
捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(註)證人呼出ニ應シテ出頭セシトキハ**第二百二十二條**ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメ證人ハ必ス之ヲ
爲スノ義務アリ其式ハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルコト

ヲ誓フニ在ルモノニシテ裁判所書記宣誓書ヲ作り證人ニ讀ミ聞カセテ之ニ署名捺印セシメ
若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ記載スヘシ而シテ此宣誓ニ付テハ重大ノ制裁
アリ若シ宣誓ヲ爲スヲ肯セサルトキト又宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ**第二百二十六條**ノ規
定ニ依リ罰金ヲ言渡スヘシ但此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ノ落着スルマ
テハ其執行ヲ停止スルモノトス又既ニ宣誓ヲ爲シ且供述ヲ爲スモ其供述ニシテ宣誓ノ趣旨
ニ反シ眞實ヲ述ヘサリシトキハ**刑法第六十九條**ニ從ヒ偽證罪ヲ構成シ其刑ヲ受クルモノ
トス

第二百二十三條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ
爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得

第一 民事原告人

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタ
ルトキト雖モ亦同シ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル
者

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

(註)本條ハ例外トシテ證人ト爲ルコトヲ許サ、ル者ヲ擧ケタリ即チ第一ヨリ第四ニ至ル者
是レナリ今之ヲ左ニ説明スヘシ而シテ少シク余カ疑義ノ點ヲ擧ク

(意義)第一 民事原告人 是ニ付テハ公訴ニ附帶シテ私訴ノ請求ヲ爲セシ者ノミヲ云フカ
將タ獨立シテ民事訴訟ニ依リ同一犯罪ヨリ生セシ損害ノ賠償ヲ請求スル者ヲ包含スルカ
ノ疑問アリ而シテ二者共ニ私訴タリ隨テ民事原告人ノ名稱ハ二者ヲ包含スルヤ多言ヲ要
セス

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親族 而シテ但書ニ「姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルト
キト雖モ亦同シ」トノ規定アリ然ラハ即チ離婚サレタル妻ハ如何民法上ノ姻族ノ語ニハ
固ヨリ妻ヲ包含セス妻ノ親族ニ過キサハ本號ニ於テハ法律ノ精神上此妻モ亦例外ノ一
ニ列シ證人タルヲ許サ、ルモノト云フヘシ何トナレハ姻族既ニ例外タレハ姻族ノ起ル原
因タル妻ノ例外タルハ寧ロ當然ナレハナリ蓋シ婚姻解除後ノ姻族ハ或ハ怨恨ノ情アリテ
民事原告人又ハ被告人ノ害タルヘキ證言ヲ爲スノ害アリ離婚サレタル妻ニ在リテハ殊ニ
然リ故ニ必スヤ例外ニ置クヲ至當トス

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

右二個ノ者ハ證人タルコトヲ許サ、ルハ何人ト雖モ自己ノ害トナルコトヲ證スルノ義務
ナシトノ原則ヲ擴張シタル者ナリ法律ニ於テ是等ノ者ハ被告人ヲ利スルコトヲ許セリ故

ニ證人タルコトヲ得ス

第二百二十四條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一 十六歳未満ノ幼者

第二 知覺精神ノ不十分ナル者

第三 瘖啞者

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ附
セラレタル者

第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラ
サルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

(註)本條ハ無能力ニシテ證人ト爲ルコトヲ許サ、ル者ヲ列舉シタルナリ今左ニ之ヲ説明ス
第一 十六歳未満ノ幼者 此ハ法律上ヨリ能力即チ智識精神ノ充分ナラサル者ト看做ス
ニ過キス實際ニ於テハ必スシモ然ラス故ニ公判ニ於テハ其教育及ヒ成長ノ度ニ從ヒ正
當ノ證人タラシムルコトヲ得ヘキニ似タリ然レトモ幼者ヲシテ偽證ノ責ニ任スルハ法
律ノ忍ヒサル所ナルヲ以テ訴訟關係人ノ異議ナキヲモ之ヲ許サ、ルヘシ

第二 知覺精神ノ不充分ナル者 精神錯亂シタル者ハ證人ト爲スヘカラサルコトハ言フ
俟タス然レトモ第一病勢ノ爲メ一時錯亂シタル者ハ其病ノ回復ヲ待テ直ニ正當ノ證人
タラシムルコトヲ得ヘシ第二時間ヲ限リテ發狂スル者ノ如キハ醫師ノ診斷ニ因リテ正
當ノ證人タルコト得ヘシ第三白痴瘋癲者ノ如キハ其言事實ニ適スルコトナキニ非スト
雖モ之ヲ證人ト爲スコトヲ得ス

第三 瘖啞者 此等ノ者ハ假令精神上ニ於テ差支ナシト雖モ耳聞クコト能ハス口言フコ
ト能ハサル者ナレハ證人ト爲ルコト能ハサル者ナルコトハ言フ俟タス

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者 此等ハ公事ニ關スル權利ヲ奪ハ
レ又ハ其權利ノ執行ヲ一時中止サレタル者ナレハ證人ノ如キ公ノ事務ニ對スル權利ヲ
行フコトヲ得サル者ナレハナリ

第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者此重罪
事件輕罪事件トハ他ノ事件ヲ指シ目下證言ヲ要スル事件ニ非ス而シテ其ノ「公判ニ付
セラレタル者」トハ既ニ公判ノ判決ヲ受ケ目下公判ニ繫屬セサル者ヲ包含スルヤ其ノ
有罪ノ判決ヲ受ケ確定セル者ハ公權剝奪若クハ停止中ニ入ルヘキモ刑ノ執行既ニ終リ
出獄セシ者及ヒ無罪ノ判決ヲ受ケシ者ハ公權剝奪若クハ公權停止ニ入ラス本號乃チ之
ヲ包含スルヤ曰ク本號ハ裁判ノ未タ落着セサル者即チ公判ノ確定セサル者ナルコト言
フ俟タス

第六 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言
渡ヲ受ケタル者 此者ハ若シ證人ト爲リ眞實ノ供述ヲ爲セハ或ハ自己ノ犯罪ニ關係ア
ルコトヲ言ハサルヲ得スシテ爲メニ再ヒ訴ヲ受クルニ至ルノ恐アル者タリ故ニ其供述
ハ決シテ信スヘキモノニ非ストノ推測アリ乃チ證人タルヲ許サ、ルナリ然ラハ則チ此
證憑不充分ニ因ル免訴ノ言渡トハ豫審ノ場合ノミト解スルヲ要ス固ヨリ證憑不充分ニ
因ル言渡ハ豫審及ヒ公判共ニ之アルヘシト雖モ公判ニ於テハ無罪ノ言渡ニシテ免訴ノ
言渡ニ非ス第二百二十四條ニ「犯罪ノ證憑充分ナラス又ハ被告事件罪トナラサルトキ
ハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シトアリ即チ本號ノ證人ト爲スヲ許サ、ルハ豫審ニ於ケ
ル證憑不充分ニ因ル免訴ノ者ノミニ限ルモノナリ然リ而シテ本號カ特ニ之ニ限リシハ
故アリ證憑不充分ニ因ル免訴ノ場合ハ新ナル證憑アルトキハ同一事件ニ付キ再ヒ訴ヲ
受クルコトアルハ第七十五條ノ明示スル所ニシテ該條ニハ單ニ免訴ノ言渡ヲ受ケト
アリ其ノ證憑不充分ニ因ルト否トヲ區別セサルモ他ノ免訴ノ場合即チ第六十五條第
二號以下ノ場合ニハ新證憑アルモ再ヒ訴追スルニ由ナキヲ以テ免訴ノ言渡ヲ受ケシ者
ハ他日其事件ニ付キ眞實ノ供述ヲ爲スモ再ヒ訴ヲ受クルノ恐ナク隨テ虛偽ノ供述ヲ爲
スノ恐ナシ故ニ其證人タルヲ詐スモ毫モ差支ナシ公判ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケシ者モ
亦同シク確定判決ノ效力ニ因リ再ヒ訴ヲ受クルコトナク隨テ虛偽ノ供述ナク證人タル
コトヲ許スナリ

證人トシテ出頭スルヲ得サル者ハ事實參考人トシテ其供述ヲ聽クヲ得トハ前條及ヒ本條ノ規定セル所ナリ事實參考人トハ宣誓ヲ爲サシテ供述スル者ニシテ證人ニ非サルカ故ニ隨テ裁判所ノ呼出ニ應スルノ義務ナク又供述ヲ爲スノ義務ナク且之ニ付テハ旅費日當ノ規定ナクシテ之ヲ請求スルノ權利ナキカ如シ民事訴訟法ニ於テハ宣誓ヲ爲サル者ニ於テモ證人ノ稱アリ隨テ右ノ結果ヲ生セサルモ本法ハ證人ト爲ルコトヲ詐サスト記セルヲ以テ證人ニ非ストノ論ヲ生シ右ノ諸結果ヲ生セサルカ如シ然リト雖モ第百二十三條第百二十四條ハ單ニ宣誓ヲ爲サシメサルニ止マリ呼出ニ應スルノ義務アリ之ニ應セサルハ拘引シ得ヘク旅費日當モ之ヲ請求スル權利アル等全ク證人ト異ナラスト信ス實際ニ於テハ幸ニ呼出ニ應セサル者ナク供述ヲ肯セサル者ナクシテ此問題ヲ生セサルモ旅費日當ニ付テハ或ハ問題タリ

第百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス

ヘキモノニ關スルトキ(刑法施行法ニ依リ改正)

證言ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ之ヲ説明ス可シ

(註)日本ノ法律ニ服従スル者ハ證人タル義務ヲ負フ者ト雖モ場合ニ依リ其義務ヲ免ル、コトアリ左ニ之ヲ列記セン而シテ本條ニハ證人ト爲ル義務アルモ證言ヲ爲スヲ拒ム權利アルコトアリ即チ左ノ場合ニ於テハ證言ヲ爲スモ妨ナキモ亦之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ

第一 官吏公吏タリシ者ハ其官吏公吏トシテ取扱ヒシ職務上ノ事實ニシテ默秘スヘキ義務アルトキハ其默秘ノ義務ト證言ノ義務ハ相抵觸シテ兩立スヘカラサルノミナラス既ニ默秘スヘキモノハ之ヲ明言スレハ公益上有害ナルコト必セリ故ニ其事實ニ關シテハ特ニ證言ノ義務ヲ免シ之ヲ拒ムコトヲ許セリ

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、公證人、神職、僧侶カ其身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關シテハ亦證言ヲ拒ムヲ得ヘシ是レ其身分職業上他人ノ秘密ヲ聞クモノナルヲ以テ之ヲ證言セシムルヲ得ス然ラサレハ則チ其職業ヲ行フコト能ハサルニ至ルヘキナリ

第百二十六條 證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效

力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金又ハ科料ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ宣誓ニ付テ制裁ヲ規定シタルモノナリ若シ宣誓ヲ爲スヲ肯セサルトキ又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ罰金又ハ科料ヲ言渡スヘシ但此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ノ落着スルマテハ其執行ヲ停止スルモノトス又既ニ宣誓ヲ爲シ且供述ヲ爲スモ其供述ニシテ宣誓ノ趣旨ニ反シ眞實ヲ述ヘサリシトキハ刑法第六十七條ニ從ヒ偽證罪ヲ構成シ其刑ヲ受クルモノトス

第二百二十七條 證人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

(註)證人ト證人及ヒ被告人トハ各別ニ之ヲ訊問スルモノハ此等ハ相互ニ通謀スルノ意思アリテ事實ヲ偽ル等ノコトアルヲ以テナリ而シテ本條但書ハ豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコト人違ナキコト其他事實ヲ發見スヘキ一切ノ模様ヲ證スル爲メ必要ナリトスル場合ヲ云フ豫審ヲ秘密ニスヘキ主義ニ基キ各別ニ訊問スヘキコトハ被告人ノ訊問ニ付テモ亦同シ

第二百二十八條 豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

若シ證人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第一百十八條ノ規定ニ從フ

(註)證人ヲシテ現場ニ就テ直ニ實況ヲ指示セシムルハ事實ヲ證スルニ最モ必要ナルコトアルヘシ若シ證人同行ヲ肯セサルモ直ニ陳述ヲ肯セサル者ト看做スヘカラス故ニ呼出ニ應セサルモ規則ニ從ヒ罰金ヲ言渡スニ止マリ然レトモ時宜ニ依リ強テ之ヲ引致スルコト能ハサルニ非ス此場合ニ於テ陳述ヲ肯セサル時ハ刑法第六十九條ニ從ヒ刑ニ處セララルヘシ

第二百二十九條 第一百條第一百一條ノ規定ハ證人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二百三十條 皇族證人ナルトキハ豫審判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス可シ

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

(註)皇族勅任官ノ所在ニ就テ陳述ヲ聽クニハ別段政府ノ允許アルヲ要セス且其陳述ヲ聽キ

調書ヲ作ルニ付テハ更ニ常人ニ付テノ規則ト異ナルコトナシ帝國議會ノ議員ニ付テハ議會ノ所在地ニ就テ即チ議院ニ就テ之ヲ尋問シ議院ニ在ラサルトキハ其滞在ノ場所ニ於テ之ヲ尋問スヘシトス

第三百三十一條 豫審判事ハ其證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシ

ムル爲メ裁判所書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ

證人ハ其供述ヲ變更増減センコトヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリタルコト及ヒ變更増減ノ條件ヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニハ豫審判事、書記及ヒ證人共ニ署名捺印ス可シ若シ證人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(註)證人ハ各別ニ訊問スルヲ以テ各別ニ調書ヲ作ルヘキハ言フ俟タヌ其調書ニハ宣誓書ヲ添ヘルヲ以テ宣誓ヲ爲シタルコトヲ記載スルハ別段必要ナラズト雖モ宣誓ヲ爲サ、ルノ事由ヲ記載スルハ取調上最モ必要ナリトス證人訊問調書ノ記載法及ヒ其手續ハ被告人訊問調書ト毫モ異ナルコトナシ

第三百三十二條 豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

第三百三十三條 第一百八條第一百九條及ヒ第二百二十六條ニ掲ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

第三百三十四條 證人ハ出頭ニ付テノ旅費、日當ヲ要ムルコトヲ得

第七節 鑑定

(註)鑑定ノコトハ第三百二十五條ヨリ第四百四十一條ニ至ルマテニ之ヲ規定ス今左ニ鑑定人ノ何タルコトヲ説明スヘシ

第三百三十五條 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術、職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

(註)鑑定人トハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ學術職業ニ因リ鑑定ヲ爲ス

者ニシテ罪ノ有無ヲ定ムル爲メ鑑定ヲ命スルコトハ法文ニ明記ナキモ此意自ラ本條ノ法文ニ包含スヘシ此三點既ニ分明ナレハ罪ノ有無モ亦自ラ定マルヘク故ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得ルモノトス裁判官ト雖モ神明ニアラサレハ總テノ事項ヲ知得スル者ニアラス故ニ之ヲ命スルモノニシテ鑑定ハ畢竟裁判官カ事實上ノ智識ノ不備ヲ補充スルニ過キス

鑑定人ト證人トハ往々混同シテ識別シ易カラス如何ナル者カ是レ證人ニシテ如何ナル者カ鑑定人ナリヤ之ヲ識別スルニハ一定ノ標準ヲ要ス而シテ其標準ハ其說學者各々異ナルモ最モ適當ナリト信スヘキハ證人ハ見聞セル事實ヲ陳述スル者ニシテ鑑定人ハ其事實ニ關スル意見ヲ陳述スル者ナリト云フニ在リ即チ第四百十條ニハ意見ノ語アリ意見ヲ以テ主トスルナリ蓋シ犯罪ニ關スル事實ハ鑑定人カ裁判所ニ呼出サル、前ニハ之ヲ見聞シタルコトナシ呼出サレテ鑑定ヲ命セラレシニ因リ初テ之ヲ知り之ニ付テ意見ヲ述フル者タリ至ク證人ノ陳述ト其趣ヲ殊ニスルナリ或ハ曰ク「證人ハ過去ノ事實ヲ述ヘ鑑定人ハ現在ノ事實ヲ述フルト是レ寧ろ標準トスルニ足ラス何トナレハ鑑定人ハ其意見ヲ述ルニ付キ必要ノ調査ヲ爲シ時トシテハ數月乃至一二年ニ涉リ然ル後チ初メテ陳述スルモノニシテ亦過去ノ事實タルヲ免レサレハナリ

鑑定人ハ裁判所カ或ハ一名或ハ數名ヲ命シ得ヘシ而シテ鑑定ヲ爲スニ必要ナル事項ハ鑑定人之ヲ裁判所ニ請求シ裁判所其手續ヲ爲スヘキモノトス尤モ鑑定ヲ爲スニ付テノ手續例ヘハ分解剖等ハ必スシモ裁判所ニ於テスルヲ要セス自宅其他ノ場所ニ於テスルモ妨ナク法

律ハ一モ之ヲ制限セス又其鑑定ニ必要ナルトキハ死体ノ解剖及ヒ墳墓ノ發掘ヲモ爲シ得ルハ本條第二項ノ規定ナリ

第三百二十六條 鑑定ニ付テハ第四百十五條第四百十八條乃至第四百二十一條

第二百二十三條乃至第二百五條及ヒ第二百二十八條ノ規定ヲ準用ス但

鑑定人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第四百條第一百一條ノ規定ハ鑑定人ニ付テモ亦之ヲ適用ス(三十二年法律第

七十三號ヲ以テ追加)

(註)鑑定人モ亦證人ト同シク裁判所ヨリ呼出ヲ受クレハ必ス之ニ應シテ出頭シ自己ノ智識ヲ以テ相當ノ判斷ヲ爲スヘキノ義務アルモノトス唯タ証人ニシテ出頭セサレハ引致シ得ルモ鑑定人ニ付テハ之ヲ許サス故ニ此點ニ於テハ強制方法ヲ設ケス是他ナシ證人ハ見聞セル事實ヲ述ヘシムルニ過キサレヲ以テ強制ニ因ルモノ之ヲ爲サシメ得ト雖モ鑑定人ハ之ニ異ナリ其意見ヲ述ヘシムルモノナルヲ以テ虚心平氣全ク自己ノ任意ニ鑑定スルニ非スンハ正當ノ意見ヲ述フルコトヲ得ス之ニ反シ證人タル者ハ必ス其事實ヲ目ニ見耳ニ聞キタル人ニ限リタルモノナレトモ鑑定人タル者ハ之ニ異ナリ同一智識アル者ハ何人ニテモ亦可ナリ故ニ強制ノ必要モ亦無キナリ

第三百二十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ其宣

誓ハ第二百二十二條ノ式ニ從フ

(註)鑑定人ハ宣誓ヲ爲シテ正實ニ鑑定スヘキコト亦證人ニ於ケルト同シ唯タ宣誓書ノ文辭少シク異ナルノミ

第二百二十八條

鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

第二百二十九條

豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

第二百四十條

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手續、結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ

鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ

(註)第四百十條ハ鑑定人カ鑑定書ノ記載法ヲ規定シタルモノナリ今左ニ其方法ヲ列記セハ

第一 鑑定ノ手續ヲ記載スルハ結果ヲ得ルノ方法ヲ示ス爲メ最モ必要ナリトス故ニ其方法ニ付テモ亦意見ヲ付スルコトアルヘシ

第二 鑑定ノ結果ハ必スシモ犯罪ノ結果ト同シカラス或ハ有罪タルヘキ結果ヲ得ルコトアリ或ハ無罪タルヘキ結果ヲ得ルコトアルヘシ何レノ場合ニ於テモ其確認スル所ノ理由ヲ記載スルヲ要ス

第四 鑑定ヲ始メタルヨリ之ヲ終リタルマテノ時間ヲ記載スルハ鑑定ノ難易得失ヲ詳ニシ且費用ノ計算ヲ爲スニ付キ必要ナリトス

第五 鑑定人ハ自カラ鑑定書ヲ作ルヲ以テ自カラ年月日ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第六 鑑定人數人アル場合ニ其鑑定人カ意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り各別ニ之ヲ差出スカ又ハ各自ノ意見ヲ一ケノ鑑定書ニ記載シテ差出スヘシ

第四百一十一條 鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要ムルコトヲ得

第八節 現行犯ノ豫審

(註)豫審ノ原則トシテハ豫審判事ハ檢事ノ請求ヲ受クルニ非サレハ豫審ニ着手スルコトヲ得ス請求前ニ着手スレハ其手續ハ無効タリ然ルニ例外トシテ現行犯ノ場合ニ限り豫審判事

カ檢事ヨリ先ニ之ヲ知り且其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得ルコト第四百四十二條ニ規定セリ而シテ法律ハ尙ホ之ヲ原則ニ適セシメント欲シ第四百四十三條ヲ以テ此場合ニ於テ豫審判事カ檢證調書ヲ作ルトキハ公訴ヲ受理シタルモノト看做スコト、爲シタリ然レトモ是レ猶ホ豫審判事カ自ラ公訴ヲ提起シテ自ラ之ヲ受理スルモノナリ是レ一ノ例外タルヲ免レス而シテ爾後ハ通常ノ豫審手續ニ從ヒ處分スヘク全ク非現行犯ノ場合ト異ナル所ナク故ニ家宅ノ搜索ノ如キ日出前日没後ハ之ヲ行フヲ得ス此等ノ事モ現行犯ノ場合ハ此ノ規則ニ拘泥セスシテ行ヒ得ヘシ否ラサレハ急速ノ必要ニ應シ難シト論スル者アルモ法文ニ背キタルコトニシテ正當ナラス第四百四十二條第二項ニ「其他此章ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲スコトヲ得」トアルヲ以テ知ルヘシ日出前日没後ハ戸主ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ行フコトヲ得サルナリ是レ家宅搜索ハ夜間之ヲ行フノ必要ナク其必要ナルハ臨檢ノ一事ニシテ之ニ付テハ其制限ナク何時ニテモ行ヒ得ルナリ豫審判事カ此例外處分ヲ行フハ右ニ述タル如ク其現行犯タルノミナラス急速ニ要スルトキニ限り殊ニ檢證ノ必要アルトキニ限ル其他ハ原則ニ從ヒ檢事ノ起訴ヲ待タサル可カラサルコト言フ俟タス

第四百四十二條

豫審豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其件急速ヲ

要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直ニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ヲ解スルニハ左ノ三項ニ分チテ説明スルコトヲ得ヘシ

- 第一 檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルコトヲ知りタル場合 此場合ヲ亦三個ニ區別シテ説明スルナリ(一)檢事ヨリ先ニ知りタルヤ否ヤハ必スシモ之ヲ穿鑿スルニ及ハス唯檢事若クハ司法警察官ノ取調ニ着手シタルコトヲ確知セサルヲ以テ自ラ豫審ニ着手スルニ充分ナル推測アリトス(二)豫審判事ト檢事ト期セスシテ同時ニ犯所ニ臨檢シタル場合等ノ如キハ豫審判事檢事未タ豫審ニ着手セサルトキハ檢事豫審ヲ請求シ且其處分ニ立會ヒ臨時ノ請求ヲ爲ス等總テ常ノ法式ニ從フヘシ(三)豫審判事未タ犯所ニ着セサル前檢事既ニ豫審處分ニ着手シタルトキハ豫審判事ノ着手スルニ當リ直ニ其處分ヲ豫審判事ニ讓リ又ハ其着手シタル手續ヲ終リタル上ニテ之ヲ豫審判事ニ讓ルヘシ此場合ニ於テモ檢事ハ常例ニ從ヒ豫審判事ノ處分ニ立會ヒ臨時ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第二 檢事ノ請求ヲ待タス直ニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得ル場合 此場合モ亦二個ニ分チテ解スルコトヲ得(一)檢事ノ請求ヲ待タサルハ例外ナリ蓋シ事件ノ急速ナ

ルト事實ノ明白ナルトニ因リ原則ニ反スルコトヲ許ス(二)其旨ヲ通知スルハ檢事ノ起訴ヲ實行スルニ差支ナキコトヲ要スルモノトス蓋シ檢事ハ現行犯ノ事件ト雖モ臨時ノ請求及ヒ終結ノ請求ヲ爲スノ權ヲ失フコトナシ

第三 豫審判事現行犯ノ場合ニ於テ檢事ノ請求ヲ待タズシテ行フコトヲ得ヘキ豫審手續此ノ場合モ亦三個ニ分チテ説明スルコトヲ得ヘシ(一)此ノ場合ニハ毫モ制限ナキニ似タリ然レトモ法律ニ於テ別段檢事ノ意見ヲ聽ク可キコトヲ定メサル豫審手續ノミ總テ之ヲ行フコトヲ得ヘシ(二)公訴ノ起リタル以上檢事ノ意見ヲ聽カスシテ行フコトヲ得ヘキ手續ハ第一召喚狀引狀拘留狀ヲ發スルコト第二被告人證人ヲ訊問スルコト第三臨檢及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ第四通事及ヒ鑑定人ヲ命スル等ナリ(三)公訴ノ起リタル後ト雖モ檢事ノ意見ヲ聽カサレハ行フコトヲ得サル手續ハ第一拘留狀ヲ發スルコト第二證人鑑定人等ニ對シ罰金ヲ言渡スコト第三保釋ヲ許スコト第四豫審終結ノ言渡ヲ爲ストト等ナリ

第四百十三條 前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載ス可シ

豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼

續ス可キモノニ非サル意見アリト雖モ通常ノ規定ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ

(註)檢事ハ起訴ノ手續ヲ爲ス職權ナレハ公訴ヲ起スハ檢事ナレトモ前條ノ場合即チ現行犯ニシテ檢事ニ先チ豫審判事カ犯所ニ臨檢シタルトキハ檢事ノ爲スヘキ手續ヲ豫審判事カ之ヲ行フ場合ニハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタル者トス公訴ヲ受理スル方法ニアリ第一檢察官及ヒ民事原告人ノ起訴第二現行犯罪檢證及ヒ公廷内ノ犯罪檢證ナリトス告訴ヲ待テ受理スルノ原則ヨリシテ論スルトキハ第一ノ場合ハ常例ニシテ第二ノ場合ハ非常例ナリトス第二ノ場合ニ於テハ告訴ヲ待タズシテ受理スルヤ明カナリ然レトモ起訴ナクシテ豫審ニ着手スルハ職務權限ノ主義ニ戻ルヲ以テ法律上已ニ檢證アリタルトキハ公訴ノ起リタル者ト見做スヘキモノトス檢證スルニハ調書ヲ作ラサルヲ得ス故ニ調書ヲ作ルト否トハ最モ判然タルヲ以テ公訴ノ起ルト否トノ區域ヲ定ムルニ頗ル其當ヲ得タルモノトス但調書ヲ作ラスト雖モ令狀ヲ發スル等判然タル豫審處分ノ一部ヲ行フタルトキハ公訴ノ起ルヘキハ當然ナリ

(理由)現行犯ノ書類ヲ檢事ニ送致スルノ理由ハ檢事ハ豫審判事現行犯ノ豫審ニ取掛ル前ニ一應其通知ヲ受クルニ因リ既ニ公訴ノ起リタルコトヲ知ルヲ以テ何時ニテモ其實行ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ實際急速ノ場合ナルニ因リ公訴實行ノ手續ヲ爲スノ暇ナシ故ニ豫審判事ハ急速ヲ要スル處分ヲ終リタル上ニテ更ニ書類ヲ檢事ニ送致シテ通常ノ

手續ニ復スルヲ以テ何時之ヲ還付スヘキカ又如何ナル處分ヲ爲スヘキカヲ定メス又本條但書ノ規定ニ依リ公訴ノ起リタル以上ハ檢事ノ意見ニ拘ハラヌシテ終結スヘキノ理由ハ本條ノ但書ハ單ニ豫審判事現行犯ノ檢證ヲ爲シタル場合ノミニ適用スヘキ規則ニ非ス總テ公訴ノ起リタル以上ハ必ス受理セサルヘカラス受理シタル以上ハ必ス言渡ヲ爲サ、ルヘカラス假令檢察官ヨリ起訴ヲ爲シタル事件ト雖モ亦同シ

第四百四十四條

地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金又ハ科料及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

證人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

(註)檢事現行犯ノ豫審ヲ爲スニ付キ其旨ヲ豫審判事ニ通知スルハ急速ノ際ナルニ因リ常例ニ從フコト能ハスト雖モ若シ豫審判事差支ナキトキハ自ラ檢事ニ引續キ臨檢ノ處分ヲ爲スコトヲ妨ケサル爲メナリトス然レトモ實際ニ於テハ通知ノ方式アルノミニシテ檢事臨檢豫審判事引續キ臨檢スル等ハ甚タ稀ナルヘシ加之豫審判事現行犯ヲ臨檢スルコトモ亦稀ニシ

テ多クハ司法警察官ノミ臨檢ノ處分ヲ爲スヘシ本條ノ文意ニ依レハ檢事犯所ニ臨檢スルニ非サレハ現行犯ノ豫審ヲ爲スコト能ハサルニ似タリ固ヨリ現行犯ノ豫審ハ臨檢ノ場合ニ屬スルコト多シト雖モ若シ臨檢ヲ要セサルモ急速ノ處分ヲ爲スヘキコトアルトキハ檢事モ亦豫審判事ト均シク直ニ豫審ニ着手スルコトヲ得ヘシ現行犯ノ場合ニ於テ豫審判事ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カヌシテ行フコトヲ得ヘキ處分ハ總テ之ヲ行フコトヲ得檢事ノ意見ヲ聽カサレハ行フコトヲ得サル處分ハ單ニ罰金ノ言渡ノミニアラス總テ之ヲ行フコトヲ得サルヘシ

第四百四十五條

前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四百四十六條

區裁判所檢事其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ第四百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得

若シ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發シタルトキハ三日內ニ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

第四百四十七條

第四百四十四條第四百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務

ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

司法警察官ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且被告人ヲ逮捕シタルトキハ共ニ之ヲ送致ス可シ

(註)第四百四十四條以下ノ規定ニ檢事ニ付テハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得トアリ司法警察官ニ付テハ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得トアリ結局豫審判事ト同一ニ歸スルモノニシテ豫審判事ハ第九十二條ニ依リ書記又ハ立會人ノ立會ヲ要スルモノナルニ因リ檢事、司法警察官モ亦之ヲ要スト云フニ在リ

(意義)司法警察官ハ檢事ニ許シタル職務ヲ代行スルコトヲ以テ其手續ヲ行フハ檢事ト異ナルコトナシ然レトモ現行犯ノ處分ニ付キ必スシモ豫審判事ニ通知ヲ爲スニ及ハス何トナレハ檢事ト豫審判事トハ其ノ職務相牽連スルノミナラス平常同一ノ裁判所ニ在ルヲ以テ往復ノ手數タル甚タ容易ナルヘシ然レトモ司法警察官ハ輕罪裁判所ヨリ數里外ニ在勤スルコトアリ急速ノ際ニ當リ其手數ノ無益ニ屬スルノミナラス其處分タル公訴ヲ起スノ効力ナキヲ以テ其通知ヲ爲スノ必要ナルコトナカルヘシ故ニ檢事ハ司法警察官ノ處分シタル事件起訴ヲ爲スヘカラサルモノト思料スルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送致スルヲ要セス直ニ被告人ヲ放免スヘキコトヲ定ム若シ豫メ豫審判事ニ通知スヘキ者ナルトキハ更ニ

豫審判事ニ通知セスシテ是ノ如キ處分ヲ行フノ理アラシヤ

司法警察官ハ現行犯ニ付キ檢事ニ許シタル職務ヲ假ニ行フニ過キササルヲ以テ其長官タル檢事ノ取調ヲ經サレハ公訴ノ起リタルモノトスヘカラス故ニ被告人ニ對スル令狀ハ勿論證人鑑定人ニ對シ刑事訴訟法ニ定メタル呼出狀ヲ發スルコトヲ得ス

司法警察官現行犯ノ處分ヲ爲シタル以上ハ被告人ヲ逮捕シタルト否トニ拘ハラス必ス其事件ヲ檢事ニ送致スヘシ自由ニ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス何トナレハ告訴發ヲ受ケタルト均シク其起訴ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ認定スルハ至ク檢事ノ職權ニ屬スルモノトス

第四百四十八條 地方裁判所檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

(註)檢事現行犯ノ書類又ハ被告人ヲ受取リタルトキハ豫審ノ一部ヲ行フコトヲ得但其一部ヲ行フタル時ヨリ公訴ノ起ルモノトス故ニ被告人ヲ訊問シテ調書ヲ作り又ハ令狀ヲ發スル等ノ處分アリタルトキハ必ス其事件ヲ豫審判事ニ送致セサルヘカラス被告人拘引セラレタリト雖モ通常拘引狀ヲ受ケタル場合ト同視スヘカラス其處分ハ成ルヘ

ク急速ナルヲ要ス故ニ二十四時内トハ被告人ヲ受取リタルヨリ訊問シテ豫審判事ニ送致シ又ハ直ニ公判ニ付スルマテヲ謂フ若シ其手續ヲ爲サ、ルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ直ニ被告人ヲ放免スヘシ

第四百十九條 地方裁判所檢察事ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコトヲ得
被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スコラス

(註)本條ハ檢事現行犯ノ輕罪ヲ直ニ公判ニ付スルノ手續ヲ規定シタルモノナリ急速ノ處分ヲ要スル間ハ現行非現行ノ手續ニ差異アリト雖モ其處分ヲ終リタル後ハ總テ手續ニ差異アルコトナシ故ニ現行犯ノ輕罪ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ豫審ヲ求メハシテ直ニ輕罪裁判所ニ呼出スコトヲ得檢事既ニ豫審ノ一部ニ着手シタリト雖モ豫審終結ノ言渡ヲ用ヒスシテ直ニ公判ニ付スルコトヲ得ルナリ故ニ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラストノ明文アルナリ

第九節 保 釋

第一百五十條 豫審判事ハ豫審中勾留狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ

檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭ス可キ證書ヲ差出シ且
保證ヲ立テシメ保釋ヲ許スコトヲ得

被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得

(註)保釋トハ被告人カ拘留狀ノ執行ヲ受ケ監獄署ニ留置中即チ豫審ノ未タ終結セサル中ニ假ニ其拘留ヲ解キ自由ヲ許スヲ云フ故ニ之ヲ許スハ逃亡又ハ證據湮滅ノ恐ナク且何等ノ危險ナキ場合ニ限ルモノニシテ其之ヲ許スト否トハ一ノ裁判所ノ權内ニ在リ而シテ保釋ヲ許スニハ左ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 被告人ノ請求アルコト 裁判所ハ縱令被告人ヲ拘留スル必要ナシト認ムルモ被告人ノ請求アルニ非サレハ職權ヲ以テ之ヲ許スコトヲ得然レトモ若シ被告人カ無能力ナルトキハ本條第二項ニ依リ法律上代理人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第二 檢事ノ意見ヲ聽クコト 裁判所ハ必ス之ヲ聽クヘク而モ之ニ拘束サル、コトナク即チ檢事ノ意見ノ如何ニ拘ハラス寧ロ其意見ニ反對スルモ可ナリ

第三 被告人カ保證ヲ立ツルコト 保釋ヲ許サレタル被告人ハ何時ニテモ裁判所ノ呼出ニ應シテ出頭スヘキ證書ヲ裁判所ニ差出スヘシ且之ヲ保證スル爲メ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ差出スヘシ

第一百五十一條 保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス言渡書ニ記

載ス可シ

第二百五十二條 保證ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價證券ヲ差出ス可シ

又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ金額ニ充ツ可キ保證書ヲ差出スコトヲ得

(註)保釋ヲ許スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價證券ヲ差出スヘク又保證人ヲシテ其金額ニ充ツヘキ保證ヲ差出サシメテ之ニ代フルコトヲ得但タ此保證人タル者ハ(一)保釋ヲ許ス裁判所ノ管轄地内ニ住シ且(二)何時ニテモ其金額ヲ差出スニ十分ナル資力アルコトノ二條件ヲ具フルコトヲ要ス而シテ此金額ヲ定ムルコトハ裁判所ノ自由ニ任セテ法律上ニ於テ其額ヲ定メタルモ裁判所カ實際之ヲ定ムルニ付テハ被告人ノ身分貧富ト犯罪ノ輕重ニ着眼セサルヘカラス然ルニ前條第五十一條ニ依レハ此金額ハ保釋ヲ許ス言渡書ニ之ヲ記載スヘキコト、ナレリ是レ甚タ不便ナリ元來此言渡ヲ執行スルハ檢事ニシテ檢事カ被告人ヨリ其金額ヲ受取リ然ル後之ヲ執行スヘシトノ規定ナケレハ先ツ保釋ヲ執行シテ然ル後其金額ヲ受取ルヘキ如クナレトモ果シテ然ルトキハ被告人逃亡シテ之ヲ徵收スルヲ得サル場合ナキヲ期スヘカラス故ニ實際ニ於テハ先ツ金額ヲ定メテ之ヲ裁判所ニ差出サシメ而シテ後始メテ保釋ヲ許シ其言渡書ヲ交付スルコト、爲セリ

第二百五十三條 保釋被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其報告ヲ爲ス可シ

第二百五十四條 保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ保證金ノ全部又ハ一分ヲ沒收ス可シ

(註)保釋ヲ許シタル後ニ至リ被告人カ裁判所ノ呼出ヲ受ケテ出頭スレハ可ナルモ若シ出頭セサルトキハ其金額ノ全部若クハ一部ヲ沒收シ同時ニ其保釋ヲ取消スヘシ而シテ之ニ付テハ必ス檢事ノ意見ヲ聽クヘシ其意見ニ拘束サレサルハ尙ホ前ト同シ而シテ被告人カ呼出ニ應ジテ出頭セシトキニ於テモ裁判所カ保釋ヲ取消スノ必要アリトスルトキハ尙ホ之ヲ取消スヲ得ヘク此場合モ亦檢事ノ意見ヲ聽クヘシ之ヲ取消スト否トハ一ニ裁判所ノ自由ニ在ルトモ要スルニ逃亡、證據湮滅若クハ危險ノ三其一ノ有無ニ依ルヘキモノトス

第二百五十五條 保證金ヲ沒收スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ

第二百五十六條 豫審判事保證金ヲ沒收シタルトキハ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ

又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスルトキハ檢事ノ意

見テ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

第五百十七條

豫審判事保證金ヲ沒收シタル後免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ附スル言渡ヲ爲シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒收シタル金額ヲ還付ス可シ

(註)被告人カ免訴若クハ無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ違警罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ一旦沒收セラル保證金モ亦之ヲ還付スヘシ

第五百十八條

豫審判事免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ附スル言渡ヲ爲シ若クハ保釋ノ言渡ヲ取消シタルトキハ保證金ヲ還付ス可シ

第五百十八條ノ二

保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテハ其裁判所ヘ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(三十二年律法第七十三號ヲ以テ追加)

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定ス可シ

(註)保釋ノ條ヲ終ルニ付テ一言ス即チ保釋ノ事ハ豫審ノ部ニ規定シアリテ公判ノ部ニ其規定ナシ故ニ公判ニハ之ヲ許スヲ得サルヤノ疑問アリ之ニ對シテ二說アリ第一說ハ公判ノ部ニ明文ナシトノ簡單ナル理由ニ因リ之ヲ許サスト主張シ此說ヲ執リシ裁判所アリシモ今日

實際上一定セル解釋ハ第二說即チ之ヲ許スノ說ニ在リ固ヨリ明文ナキモ拘留ハ其必要アルカ爲メニ之ヲ命スルモノナレハ若シ其必要既ニ去レハ公判ニ於テモ保釋ヲ許スコト當然ニシテ法律ノ精神亦當サニ然ラサル可カラスト爲シ各裁判所概ネ皆然リ但此說ニ付テハ豫審ト公判トニ於テハ一差異ナキニ非ス即チ豫審ニ於テハ重罪ト輕罪トニ別ナク總テ之ヲ許シ得ルモ公判ニ於テハ重罪ニ付テハ之ヲ許サス而シテ第六十八條ニ依レハ被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ豫審中保釋ヲ許セシ者ニ付テハ其言渡ヲ取消シ更ニ拘留スヘク又未タ拘留セサル者ニ付テハ新ニ拘留スヘキモノタリ此規定ノミニ依ルモ重罪公判ニ付セラレタル被告人ハ必ス拘留スヘキコト明確タリ且第二百四十一條ニ依レハ地方裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ追追スルコトヲ申立テタルトキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可ク此場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケサルトキハ拘留狀ヲ發スヘキモノタリ是ニ依テ之ヲ觀レハ重罪ノ被告人ハ自由ヲ許サス必ス拘留スヘキモノニシテ此說ハ一致ノ解釋ニ屬シ若シ之ニ違反スルモノハ違法トシテ可ナリ然ラハ則チ何カ故重罪ニ付キ之ヲ許サ、ルヤ他ナシ其事件重大ニシテ若シ保釋ヲ許セハ被告人ハ保證金額ニ關セス逃亡スヘキ恐アリ乃チ之ヲ許サル、ナリ

第五百十九條

豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キ證書ヲ差出サシムヘシ

(註)責付トハ裁判所カ被告人ヲ親屬又ハ故舊ニ預ケルヲ云フ而シテ本法之ヲ許スハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 檢事ノ意見ヲ聽クコト 是レ亦單ニ聽クニ止マリ其意見ニ拘束セサルハ前述ト同シ

第二 被告人ヲ預ケル親屬故舊カ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ證書ヲ差出スコト

(意義)右二個ノ條件アレハ之ヲ許シ得ヘク保釋ト異ニシテ被告人ノ請求ヲ要セス裁判所ヨリ職權ヲ以テ之ヲ許スモノナリ之ヲ許スハ保釋ト同シク逃亡、證據湮滅及危險ノ恐ナキトキニ限ルハ法文ナキモ明瞭ナル所ニシテ而モ許否ノ一ニ裁判所ノ權内ニ在リ責付ハ此ノ身軀ヲ拘束シ得ハ強テ之ヲ出頭セシメ得ヘシト雖モ拘束ノ權ナキハ勿論ナルヲ以テ其證ハ徒ラニ能ハサルコトヲ約定スルモノタリ且其約束ヲ履行セサルモ何等ノ制裁ナシ故ニ責付ニ於ケル條件ハ殆ト毫モ條件タル實効ナシ故ニ容易ニ之ヲ許スヘカラサルニ至ル

第六十條 責付中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其報

知ヲ爲ス可シ

被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ノ言渡ヲ取消ス可シ

(註)責付ヲ許シタル後被告人カ呼出ニ應シテ出頭セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其責付ヲ取消スコトヲ得

第十節 豫審終結

(註)豫審終結ノ處分ハ豫審判事カ總テノ豫審處分ヲ行ヒ他ニ取調フヘキモノ無シト認メシトキニ於テ其事件ノ局ヲ結フ手續ナリ即チ局ヲ結フトハ有罪無罪ノ裁判ヲ爲スニ非ス豫審ハ證據蒐集ヲ主トスルモノニシテ其蒐集セシ證據如何ニ依リ其事件ヲ公判ニ移スト免訴ト爲ストヲ決スルニ過キス然ルニ此處分ハ何人ヲシテ之ヲ爲サシムヘキカ豫審判事ヲ以テスルコトハ本法ノ精神タルコト明カナリ

第六十一條 豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記録ヲ送致ス可シ
檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ三日内ニ之ヲ還付ス可シ

(註)豫審終結ノ處分ハ豫審判事カ豫審處分ヲ他ニ取調フヘキコトナシト認メタルトキニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キテ之ヲ爲スヘシ又豫審處分ノ半途ニシテ管轄違ナリト認メタルトキハ其時直チニ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スヘシ而シテ此管轄違ノ言渡ノ場合ニ於テハ從來ノ手續ハ無効ニ屬シ唯タ拘留狀ノミ其效力ヲ有シ時效中斷モ亦效力ヲ有スルニ止マル

豫審判事カ豫審處分ノ全部ヲ終リ將サニ終結ノ處分ヲ爲サントシテ檢事ノ意見ヲ聽キタルトキハ檢事ハ三日間ニ意見ヲ付シテ其記録ヲ還付スヘシ此三日ノ期間ハ記録受取ノ日ヨリ起算スルモノトス而シテ豫審判事ハ檢事ノ意見ニ拘束サル、コトナク任意ニ終結處分ヲ爲スヘシ

第六十二條

檢事ハ豫審十分ナラスト思料シタルトキハ其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事其請求ヲ肯セサルトキハ檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ

(註)若シ檢事カ其豫審處分ニ付キ不十分ナラストセシトキハ更ニ取調ヲ爲スヘキ點ヲ示シテ之ヲ豫審判事ニ請求スヘク豫審判事其請求ニ依リ再ヒ取調ヲ爲セシトキハ其之ヲ終リシトキニ於テ復右ノ手續ヲ爲シ檢事ノ意見ヲ聽キテ終結處分ヲ爲スヘシ但タ豫審判事ハ必スシモ其請求ヲ容ルヘキ義務ナク自ラ取調ニ十分ナリトセハ之ヲ再ヒセシテ可ナリ

第六十三條

豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後數條ニ記載

シタル決定ヲ以テ豫審ヲ終結ス可シ

第六十四條

豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタルトキハ其旨ヲ言渡ス可シ若シ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付スヘシ

(註)本條ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ト新ニ拘留スヘキ處分トヲ規定シタルナリ管轄裁判所ニ付テハ犯罪ノ種類ノミニ依リテ豫審ニ於テハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコトナカルヘシ何トナレハ重罪輕罪ハ共ニ豫審判事ノ管轄ナリ違警罪ハ直ニ相當ノ裁判所ニ送付スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘシ

管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ唯自己ノ管轄ニ非サルコトヲ言渡スノミニテ管轄裁判所ヲ指定スルノ權ナシ然レトモ或ル場合ニ於テハ管轄違ノ言渡ヲ爲サスシテ管轄豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス此場合ノ如キハ豫審終結ノ一種ナルヲ以テ別段本節ノ規定ヲ要セス若シ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ハ之ヲ取消サスシテ存シ置キ又新ニ令狀ヲ發スヘキ場合ハ被告事件ヲ檢事ニ交付スルニ付キ被告人ハ總テ其指揮ニ從フヘキ旨ヲ管轄違ノ言渡書ニ記載スルヲ要ス

第六十五條

豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

- 第一 犯罪ノ證據十分ナラサルトキ
- 第二 被告事件罪ト爲ラサルトキ
- 第三 公訴ノ時効ニ罹リタルトキ
- 第四 確定判決ヲ經タルトキ
- 第五 大赦アリタルトキ
- 第六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

(註)終結ノ處分ハ證據十分ニシテ公判ニ付スヘキモノト認ムルトキト公判ニ付スヘカラス即チ免訴スヘキモノト認ムルトキニ因リテ同シカラス免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ハ本條ニ列記スル所ノ六種ノ場合ナリ此ノ六種ノ場合ハ皆免訴ノ言渡ヲ爲スヘク而シテ其他ノ場合ト雖モ若シ公判ニ付スヘキモノニ非ストセハ亦免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ例ヘハ親告罪ニ付キ被害者ノ告訴ナキニ檢事カ公訴ヲ提起セシトキノ如キ其公訴不當ナルヲ以テ之ヲ公判ニ付スヘカラス總テノ犯罪ニ付テ檢事ノ公訴提起ノ手續違法ナルトキノ如キ親告罪ニ付テ適法ニ起訴サレシモ豫審ノ半途ニ於テ被害者カ告訴ヲ取下ケシトキノ如キ亦然リ此等ハ總テ該條ノ明文ナキモ現ニ公判ニ付スヘカラス以上ハ固ヨリ免訴ノ言渡ヲ爲サルヘカラス起訴ノ當時其被告事件ヲ罰スル正條アリシモ豫審中其法律改正セラレ之ヲ罰セサルコト、爲リレトキ亦之ニ同シ

第六十六條 被告事件違警罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移
ス言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

第六十七條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルト
キハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ(刑法施行法ニ依リ改正)

被告人勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノト思料シタル
トキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

(註)此二條ハ公判ニ付スヘキト釋放スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ公判ニ付スヘキ場合
ハ其被告事件ノ種類ニ因リテ各々異ナリ左ニ之ヲ分説スヘシ

第一 被告事件ヲ豫審ニ於テ取調ヘノ結果其犯罪ノ刑期金額等ノ何レノ裁判所ニ管轄ス
ヘキモノトノ思料ノ定マリシトキハ之ヲ公判ニ付スルノ言渡ヲ爲スモノトス其ノ裁判
所ハ何レナリヤト云ハ、被告人ノ所在地又ハ犯罪地ノ區裁判所ヲ以テ其管轄ト爲サ、
ルヘカラス犯罪ノ地ニ付テハ明カナルモ所在ノ地ニ付テハ檢事カ豫審ヲ請求セシトキ
ニ被告人ノ在リシ地ヲ指スカ將タ豫審終結ノ時ニ被告人ノ在リシ地ヲ指スカニ付テハ
起訴ノ時ヲ以テ定ムヘク豫審判事カ何ニ因リテ其豫審ヲ爲ス管轄權ヲ有セシヤヲ察セ
ハ明カナリ

第二 被告事件カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ輕罪ナリト思料スルトキハ其豫審判事ノ
○第三編犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審○第三章豫審

屬スル地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ此言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告人未タ勾留ヲ受ケスシテ豫審終結後逃亡、證據湮滅等ノ恐アルトキハ新ニ勾留狀ヲ發シテ之ヲ執行スルコトヲ得之ニ反シテ被告人既ニ勾留ヲ受ケ居ルモ證據ノ蒐集既ニ終リテ湮滅ノ恐ナク又犯罪小ニシテ逃亡ノ恐ナシト認ムルトキハ保釋又ハ責付ヲ許スコトヲ得又若シ其刑カ罰金ニ該ルモノト思料シタルトキハ必ス釋放ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス違警罪ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキハ殊ニ然リ即チ此等ノコトハ區裁判所ニ移ストキト地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スルトキト問ハス總テ同一ナリトス

第六十八條 (本條ハ刑法施行法ニ依リ削除セラル)

第六十九條 豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付ス可シ

管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ其理由ヲ明示シ若シ被告人ヲ勾留ス可キトキハ其理由ヲ明示ス可シ
免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件ト爲ラサルコト、公訴受理ス可カラサルコト及ヒ其理由又犯罪ノ證據十分ナラサルトキハ其旨ヲ明示ス可シ

區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質、模樣、證據ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰スヘキ法律ノ正條ヲ明示ス可シ

(註)本條ニハ豫審終結ノ決定ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條第一項ニハ事實及ヒ法律ニ因リ其理由ヲ付ス可シト爲セリ故ニ必ス其ノ訴ヘラレタル事實即チ公訴ノ目的タル事實ヲ記載シ之ニ次テ其事實ニ適用スヘキ法律ヲ掲クルモノトス此原則ハ其ノ決定ノ管轄違ノ言渡ナルト免訴ノ言渡ナルト將タ公判ニ付スル言渡ナルトニ因リテ其適用ヲ異ニセリ管轄違ノ言渡ニ付テハ第二項ニ「其理由ヲ明示シ若シ被告人ヲ拘留ス可キトキハ其理由ヲ明示スヘシ」ト爲セリ故ニ其訴ヘラレタル事實ヲ記載シ其犯罪ノ場所及ヒ被告人ノ所在地ヲ掲ケ之ヲ管轄ノ規定ニ照シテ何レモ豫審判事ノ屬スル裁判所ノ管轄地内ニ在ラサルヲ以テ當裁判所ノ管轄ニ非スト記載スレハ其理由ヲ明示シ且ツ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スルモノト云フヘシ

第七十條 前條ノ決定ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名等ヲ明示ス可シ

(註)豫審ノ決定ニハ尙ホ被告人ノ氏名住所及ヒ職業ヲ明示スルモノトス此等ヲ明示スルニ非サレハ確ニ其人ヲ指示スルコト能ハサレハナリ

第七十一條 豫審終結ノ決定ノ正本ハ速ニ檢事及ヒ被告人ニ送達ス可シ

第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ハ檢事カ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ
檢事ハ如何ナル場合ト雖モ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニアラス法律カ定メテ之ヲ許シタル場合ニ限ルヘシ而シテ本條ノ如ク被告カ免訴又ハ管轄違ノ決定アリシ場合ハ其裁判ノ當否ニ關スル場合ナルヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

第七十三條 (本條ハ刑法施行法ニ依リ削除セラル)

第七十四條 豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間内又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス

(註)被告人ト檢事トノ別ナク抗告ヲ爲セシトキハ決定ノ執行ヲ停止ス決定ノ執行トハ重罪又ハ輕罪ノ公判ニ付ストノ決定ニ付テ之ヲ例セハ檢事ヨリ公判ヲ請求シ被告人ヲ呼出シ審理裁判ヲ爲スヲ云フ故ニ之ヲ停止スルトキハ其停止中公判ノ開廷ヲ爲スヲ得サルコトナリ即チ其裁判所カ其事件ヲ受理セサルコトナリ抗告ヲ爲ス者ナキモ抗告ノ期間内ハ決定ノ執行ヲ停止スルコト亦同シ

行ヲ停止スルコト亦同シ

第七十五條 豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受クルコトナカル可シ但新ナル證據アルトキハ此限ニ在ラス

新ナル證據アルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

(註)豫審終結ノ決定確定セシトキハ之ヲ執行スル者ハ檢事ナリ若シ其決定ニ於テ有罪ト認メ區裁判所ニ移シ或ハ公判ニ付セシトキハ檢事ハ其訴訟記録ヲ公判ニ送致シ被告人ノ呼出ヲ請求ス若シ其決定ニ於テ免訴ヲ言渡セシトキハ本條ニ依リ被告人ハ同一事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受クルコトナキヲ原則トス然レトモ同條但書ニ新ナル證據アルトキハ此限ニ在ラスト云ヘル例外アリ豫審判事カ豫審終結前未タ發見セサリシ證據新ニ發見シタルトキハ終結決定ノ確定後ナルニモ拘ハラス再ヒ訴ヲ起シ得ルモノトス而シテ其證據カ果シテ新證據ナルヤ否ヤハ之ヲ檢事ノ判定ニ一任セス檢事其新證據ヲ裁判所ニ差出シ裁判所ハ其果シテ新證據ナルヤ否ヤ又新證據ナルモ再ヒ訴ヲ起スニ足ル新證據ナルヤ否ヤヲ取調ヘテ之ヲ新ナル有カナル證據ナリト認ムルトキハ起訴ヲ許スノ決定ヲ爲スハク又之ヲ否認スルトキハ反對ノ決定ヲ爲スヘシ此反對ノ決定ヲ爲セシ場合ト雖モ爾後之カ爲メニ起訴スルヲ得スト云フ

非ス

再起訴ヲ許スヘキヤ否ヤノ決定ハ直チニ確定シ抗告スルヲ得ス而シテ起訴ヲ許スノ決定ナリシトキハ通常ノ手續ニ從ヒ檢事之ヲ爲ス即チ其新證據ニ依リ再ヒ豫審ヲ豫審判事ニ請求スヘク豫審判事ハ之ヲ新證據ニ非ストシテ其訴ヲ斥クルヲ得ス之ヲ受理セシ後其新證據ノ尙ホ十分ナラサルヲ信セハ之ニ依リ再ヒ免訴ノ言渡ヲ爲スノ外ナシ

第四編 公判

(註)公判ノ手續ハ全ク豫審ト異ナレリ豫審判事カ豫審ノ結果有罪ト認メテ被告事件ヲ公判ニ移スモ公判ニ於テハ之カ爲メ其被告人ヲ有罪ナリト推定スルコトナク法律ハ尙ホ之ヲ無罪ノ人トシテ待遇ス故ニ公判ノ審理手續ハ全ク新ニシテ豫審ニ於テ十分審理セシ者ト雖モ其手續ハ皆消滅ニ歸シ新ニ審理ヲ始ムルモノトス是レ公判ニ於ケル口頭辯論主義ナルモノナリ

要スルニ皆新ニ訊問スルヲ原則トス而シテ證人カ豫審後死亡シ若クハ遠隔ノ地ニ旅行セシ等之ヲ呼出シ得サル場合ハ已ムヲ得ス豫審ニ於ケル訊問調書ニ依リ辯論シ其他臨檢處分ノ如キ公判ノ際ハ既ニ臨檢スヘキ證據ナキコト多ク是亦已ムヲ得ス豫審ニ於ケル臨檢調書ニ依リ辯論ス是ハ例外タリ然ルニ本法ハ單純ニ口頭辯論主義ヲ採リ多少書面審理主義ト折衷スル所アリ必スシモ豫審ノ審理ヲ盡ク公判ニ於テ反覆セス證人ノ如キ其必要アラハ再ヒ訊問シ得ルコト論ナキモ之ヲ呼出サスシテ豫審ノ訊問調書ニ依ルコト妨ナク即チ其證人ノ口頭陳述ニ代フルニ訊問調書ヲ以テスルコトヲ得ルナリ

第一章 通則

(註)通則トハ公判ノ場合總テニ通シテ適用スヘキ規定ナリ公判ハ豫審ト異ナリ之ヲ公行ス本法ニハ別ニ此規定ナキモ憲法第五十九條ニ「裁判ノ對審判決ハ公行ス」トノ明文アリ對審判決トハ即チ公判ニシテ之ニ依リテ之ヲ公開セサルヲ得ス然レトモ同條ニ例外ノ規定アリ即チ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル恐アルトキハ對審ヲ公行セサルヲ得ルコト、爲セリ是固ヨリ對審ノミニ關シ判決ニ付テハ全ク例外ナク常ニ公行セサルヲ得ス而シテ其對審ノ公開ヲ停止スルニ付テハ裁判所ニ於テ之カ議決ヲ爲シ其議決ハ其理由即チ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ恐アル理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前ニ之ヲ言渡スヘク此場合ニ於テ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘキコトヲ得ルナリ

第七十六條 公判ハ判事、檢事、裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトス

(註)公判ヲ開クニ付テノ裁判所ノ構成ハ判事或ハ一人或ハ三人若クハ五人タル等ノ規定アリ而シテ刑事ノ公判ニ付テハ判事ノ外更ニ檢事及ヒ裁判所書記ノ出廷ヲ要シ之ニ依リテ構成ヲ得ルモノトス故ニ若シ檢事ノ立會ナキトキハ其正當ノ理由アルト否トニ拘ハラヌ公判

ノ開廷ヲ爲スヲ得ス裁判所書記ニ付テモ亦同シ

第七十七條 被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但守
卒ヲ置クコトアル可シ

第七十八條 裁判長ハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ
對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得(三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)
裁判所ハ被告人ヲ訊問シタル後何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ
被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第七十九條 被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得
辯護人ハ裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ但裁判所ノ允許
ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ト雖モ辯護人ト爲スコトヲ得

(註)重罪事件ニ付テハ辯護人モ亦裁判所構成ノ一員ナルヤ否ヤハ本法第二百三十七條ノ規
定ニ依ルニ重罪事件ニハ必ス辯護人ヲ付スルコトヲ要シ若シ其立會ナキトキハ審理判決共
ニ無効タルモノトス此點ヨリスルトキハ辯護人モ亦裁判所構成ノ一人ナルカ如シト雖モ決
シテ然ラス唯タ手續上之ヲ必要トスルニ止マリ構成ニ關スルモノニアラス
辯護人ハ重罪事件ニ付テハ此ノ如ク必要缺クヘカラサル輕罪事件、違警罪事件ニ付テハ被

告人ノ隨意ニシテ之ヲ選任スルノ權利ハ固ヨリ之ヲ有スルモ實行ト否トハ自由ナリ辯護人
ナクシテ對審判決ヲ爲スモ妨アラス而シテ辯護人ハ必スシモ辯護士ヨリ選任スルヲ要セス
重罪事件ニ付裁判長カ職權ヲ以テ選任スルトキハ第二百三十七條第二項ニ依リ必ス其ノ裁
判所々屬ノ辯護人中ヨリ選任スヘキモ總テ被告人自ラ選任スルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ル
ニ於テハ辯護士ナラサルモ可ナリ

第七十九條ノ二 左ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選任セサルト
キハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルコト
ヲ得(全上ヲ以テ追加)

- 第一 被告人十五歳未滿ナルトキ
- 第二 被告人婦女ナルトキ
- 第三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ
- 第四 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルノ疑アルトキ
- 第五 被告事件ノ模様ニ因リ裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要ナリトスル
トキ

前項ノ辯護人ハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ選

任ス可シ但辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

(註)本條ハ必ス辯護人ヲ用ヒル場合ヲ示シタルモノナリ故ニ本條ニ列記スル被告人ナルトキハ被告人ニ於テ自ラ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルコトヲ得ルモノトス蓋シ本條ニ列記スル所ノ被告人ハ皆自ラ其自己ノ利益アル所ヲ辯護スルコトヲ得サル者ナレハナリ辯護士ヲ以テスルト否トノ間ニ存スル差異ハ其許可ヲ要スルト否トニ在リ

第八十條 辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得

(註)辯護人ナル者ハ其訴訟ニ關スル一切ノ事實ヲ知悉スルノ要アリ隨テ訴訟記録ノ閱讀及ヒ騰寫ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ被告人其者ハ此閱讀騰寫ヲ爲スヲ得ス是レ被告人ハ自己一身上ノ事ニ係ルヲ以テ動モスレハ自己ニ不利益ナル部分ヲ抹消シ毀棄スルノ危険アルニ因ル蓋シ之ヲ禁スルノ明文ナキモ其ノ特ニ之ヲ許スノ明文ナキハ即チ之ヲ禁スル所以ナリ

第八十一條 被告人ノ法律上代理人ハ其輔佐人ト爲リ辯論ニ與カルコトヲ得

(註)被告人ノ法律上ノ代理人ニシテ保佐人ノ名義ヲ以テ被告事件ニ關係シ辯護人ト同シク辯論ヲ爲スヲ得ヘシ法律ノ之ヲ許スハ他ナシ凡ソ法律上ノ代理人アル者ハ皆民法上ノ無能力者ニシテ自ラ十分ニ辯護スル能ハスト推定セシニ因ル而シテ保佐人モ亦此ノ如ク辯護人ト同シク辯護ノ權利アルニ因リ訴訟記録ノ閱讀及ヒ騰寫ヲ許スヲ當然トスト雖モ法律上明文ノ之ヲ許セルモノナキヲ以テ之ヲ得サルモノトセサルヘカラス

第八十二條 被告人出頭シテ辯論スルコトヲ肯セサルトキハ對席トシテ裁判ヲ爲ス可シ

被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ勾留ヲ命セラレタルトキ亦同シ若シ辯論二日ニ渉ルトキハ更ニ被告人ヲ出頭セシム可シ

第八十三條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後新ニ停止シタル以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他

關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ
若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊
癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判ヲ爲ス可シ

第八十四條 裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可
カラス但辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニアラス
若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辯論ヲ停
止スルコトヲ得

(註)裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲スヲ得ス是レ所謂不告不理ノ原則ト
シテ豫審ノ部ニ述ヘシカ公判ニ於テモ亦此原則ニ從フヘク本條ハ更ニ之ヲ申明セリ而シテ
此ノ原則ニ付テハ豫審ニ於テ例外アリシカ如ク公判ニ於テモ亦例外アリ左ニ之ヲ列記スヘ
シ

(意義)第一 證人カ故ナク呼出ニ應セサルトキハ檢事ノ起訴ヲ待タス職權ヲ以テ罰金ヲ言
渡スコトヲ得其他證人カ宣誓若クハ證言ヲ肯セサルトキハ亦然リ
第二 證人ニ故意ニ不實ノ陳述ヲ爲セルトキ即チ偽證ノ疑アルトキハ職權ヲ以テ直チニ
之ヲ取押ヘ拘引狀ヲ發シテ豫審判事ニ送致スルコトヲ得

第三 裁判所ニ於テ附帶犯ヲ發見セントキ亦職權ヲ以テ裁判スルヲ得此事ハ豫審ニ付テ
述ヘシカ公判ニ付テハ本條第一項但書ニ此事ノ明記アリ然レトモ公判ニ於テ之ヲ發見セ
シニ其審理ヲ要シ直チニ裁判スルヲ得サルトキハ特ニ其豫審ヲ爲スヲ得ヘシ
第二項ニハ若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辯論ヲ停止スルコ
トヲ得ト規定セリ既ニ本案ノ辯論ヲ停止スルトアルニ因ルモ檢事ノ起訴ヲ待タサルコト
ハ自ラ明カナリ隨テ豫審判事ニ送致スル權利アリト知ルヘシ

(理由)若シ第二審ノ公判ニ於テ附帶ノ犯罪ヲ發見セントキハ如何直チニ職權ヲ以テ之ヲ罰
スルコトヲ得ルヤ若シ之ヲ得トセハ第一審裁判ヲ經スシテ直チニ第二審ノ裁判ヲ受クル
モノタルノ弊アリ又區裁判所ニ之ヲ發見セシニ其附帶犯カ却テ主タル犯罪ヨリ重クシテ
重罪ナリシトキハ其區裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ普通管轄ノ規定ヨリ
セハ區裁判所ハ固ヨリ重罪ヲ裁判スルノ權ナキモ附帶犯ナルカ爲ニ特ニ之ヲ裁判スルコ
トヲ得ヘキヤ又土地ノ管轄ヲ異ニスルトキ例ヘハ甲地方裁判所ニ於テ附帶犯ヲ發見セシ
ニ其犯罪ハ乙地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ尙ホ甲地方裁判所ニ於テ之ヲ裁
判スルコトヲ得ルヤ以上三種ノ場合ハ相類似セル問題ナルカ本條ハ公判通則中ノ規定ニ
シテ第一審第二審ハ共ニ適用スヘキモノナルヲ以テ右ノ三場合ト雖モ之ニ從ヒ之ヲ罰シ
テ可ナル者ノ如シ然レトモ本條但書ハ不告不理ノ原則ニ對スル例外ニシテ管轄ノ例外ニ
アラス故ニ此例外ヲ適用スルニハ管轄ノ規定ニ違ハサル場合ナルコトヲ假定セサルヘカ

ラス即チ右ニ場合ハ總テ之ヲ罰スルコトヲ得サルモノトセサルヘカラス

第百八十五條

左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

(註)本條ハ附帶ノ犯罪ノ何モノタルヲ解釋的ニ規定シテ三個ノ場合ヲ列擧シタルモノナリ元來例外的ノモノナルヲ以テ必ス此三個ニ限ルヘク他ニ類似ノ場合アリト雖モ敢テ此場合ニ準スヘキモノニアラス

(意義)第一 同一ノ場所ニ於テモ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ 一人ノ場合ハ例ヘハ一人ニテ數人ト爭鬪シ其數人ヲ毆打セシ類ヲ云ヒ一人毎ニ對シ毆打罪成立シ數罪成立スルモ其原因同一ニシテ互ニ牽聯セルヲ以テ之ヲ付帶犯ト云フ數人ノ場合ハ數人ニテ數人ヲ毆打セシ類ヲ云ヒ其ノ通謀ノ有無ハ之ヲ問ハス但通謀アルトキハ往々付帶犯ニ非スシテ共犯トナルモ例ヘハ甲乙二人通謀シテ丙丁二人ヲ毆打セシトキハ丙丁二人ニ對シ各別ニ犯罪成立シ其ニ罪ハ互ニ付帶犯タルナリ

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ 是レ必ス通謀アルヲ要スルモノニシテ例ヘハ一ノ國事犯罪ヲ爲サンカ爲メ其費金ヲ求メントシ相謀リテ甲ハ大阪ニ於テ強盜ヲ犯シ乙ハ神戸ニ於テ盜罪ヲ犯ス等日時場所ヲ異ニスルモ尙ホ其間ニ牽聯スル所アリ互ニ付帶犯ヲ成ス

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ例ヘハ甲家ニ於テ竊盜ヲ爲サンカ爲メ乙家ニ於テ梯子ヲ竊取セシカ如キ「自己ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルモノ」タリ互ニ付帶犯タリ又甲カ乙ヲ殺サントスルモ兇器ナキ爲メ丙カ丁家ニ於テ短銃ヲ竊取シテ甲ニ與ヘ其犯罪ヲ遂ケシメシトキノ如キ「他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル」ナリ互ニ付帶犯タリ即チ此ノ丙ノ所爲ハ元來甲ノ殺人罪ノ從犯タルモ其所爲ハ一竊盜罪トシテ獨立スルヲ以テ付帶犯タルヘク其ノ從犯タル責ヲ免レサルハ論ナシ又其罪ヲ免ル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキハ例ヘハ竊盜罪ヲ犯シテ逮捕ヲ免ル、爲メ追手人ヲ殺シタルカ如キコト是ナリ其ノ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトハ之ヲ區別スルヲ要セス

第百八十六條

檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲スコト

ヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル言渡ヲ爲スコトヲ得

(註)判決ニハ本案ノ判決ト本案前ノ判決トノ二種アリ本案ノ判決ハ主トシテ被告人ノ有罪無罪ヲ定ムルモノナルモ其他尙ホ之ニ關セスシテ本案ノ判決タルモノアリ即チ本案ヲ決スル前ニ決スヘキコト生シ一方ニ決スレハ本案ノ判決トナリ他方ニ決スレハ本案前ノ判決ト爲ル故ニ先ツ本案前ノ判決ヲ説明スレハ本案ノ判決自ラ明了スヘシ

(意義)本案前ノ判決トハ管轄違又ハ公訴不受理ノ申立ヲ棄却スル判決ナリ然ルニ等シク其申立ナルモ之ヲ相當トシテ其管轄違又ハ公訴不受理ヲ言渡ストキハ則チ終局ノ判決トナルナリ而シテ此申立ハ如何ナル時ニ之ヲ爲スヤ先ツ決スヘキモノニシテ其決定如何ニ因テハ本案ノ審理ハ全ク無用ニ販スルモノナルヲ以テ訴訟ノ第一着ニ之ヲ申立ツヘシ其他訴訟ノ半途ニモ終末ニモ亦之ヲ申立ツルヲ得ヘシ故ニ本條ハ檢事及被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ此申立ヲ爲スヲ得ルコトヲ明示セリ而シテ此申立アレハ必ス先決問題トシテ之ヲ判決スヘク又假令其申立ナキモ裁判所ハ職權ヲ以テ此判決即チ管轄違又ハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヲ得ヘシ尤モ此判決ハ必スシモ本案ノ判決ニ先チ各別ニ之ヲ爲スヲ要スルニ非ス同一判決ヲ以テ之ヲ言渡スモ亦妨ナシ而シテ此申立ヲ相當トシ管轄違又ハ公訴不受理ヲ言渡シタルトキハ之ヲ本案ノ判決ト爲スニ因リ

之ニ對シテ檢事及被告人ヨリ上訴シ得ルハ當然ナリ

第八十七條 裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

(註)裁判所カ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ則チ本案ノ判決ニ非スシテ本案前ノ判決ナリ故ニ此場合ハ更ニ進ンテ本案ノ審理ヲ爲シ且ツ其判決ヲ爲スヘシ然レトモ此ノ問題ハ重要ノ事項ニシテ若シ其申立ノ如クナリトセハ本案ノ審理判決ハ全ク無益ニ歸スルヲ以テ本條ハ此本案前ノ判決ニ對シ本案ノ判決ヲ俟タスシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ許セリ而シテ果シテ其上訴ヲ爲セシトキハ本案ノ辯論ヲ續行スルモ亦水泡ニ屬スルノ恐アルヲ以テ之ヲ停止スヘキモノトス而シテ上訴ノ結果此申立棄却ノ言渡相當ナリトセハ再ヒ其辯論ヲ繼續スヘク反對ノ場合ハ此ニ終局ヲ告ルナリ

第八十八條 調書ヲ作リタル司法警察官ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スコトヲ得
第八十九條 豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人、鑑定人ヲ呼出ササルトキ、證人、鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述、鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

(註)公判ニ於テハ豫審以外ノ調書ヲ朗讀シテ證據ト爲スコトアリ證人カ遠隔ノ地ニ在リ之ヲ呼出スニハ時日ト費用トヲ要スルトキノ如キ其所在地ノ區裁判所判事又ハ豫審判事ニ囑託シテ之ヲ訊問スルコトアリ證人疾病ニ依リ出頭シ能ハサルトキノ如キ其病狀ニ就テ訊問スルコトアリ此等ノ場合ハ其訊問調書ヲ朗讀シテ以テ證據トナスヘシ然レトモ法律ノ本旨ヲ推スエ呼出スコト能ハサル場合ハ止ムヲ得サレトモ之ヲ呼出シ得ル以上ハ裁判所ハ事務ノ都合ノ許ス限リ之ヲ呼出シテ口頭ノ陳述ヲ聽クヲ可トス

第九十條 第一百五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ第三百二十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

(註)證人及ヒ鑑定人ニ對スル強制處分ハ本條ニ依リ第一百五條以下即チ證人ニ關スル豫審ノ規定及ヒ第三百二十五條以下即チ鑑定人ニ關スル豫審ノ規定ノ全部ヲ準用ス故ニ之ヲ茲ニ說明セス然レトモ公判ハ豫審ト其性質既ニ異ナル結果トシテ此處分モ亦全ク同一ナリトセ

ス

第九十一條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シ其所在ニ就テ訊問スルコトヲ得ルモノトス是レ豫審ニ於テ既ニ規定セル所ナルニ更ニ之ヲ記載セシハ他ナシ公判ニハ會議制即チ裁判官二人以上ヲ以テ裁判スルコトノ多キニ在ルヲ以テ特ニ部員一名ノミニテモ亦可ナルコトヲ示セシニ過キス故ニ其裁判所判事ニ囑託シ得ルト云フコトハ全ク重複ナリ

(註)本條ハ證人カ疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シ其所在ニ就テ訊問スルコトヲ得ルモノトス是レ豫審ニ於テ既ニ規定セル所ナルニ更ニ之ヲ記載セシハ他ナシ公判ニハ會議制即チ裁判官二人以上ヲ以テ裁判スルコトノ多キニ在ルヲ以テ特ニ部員一名ノミニテモ亦可ナルコトヲ示セシニ過キス故ニ其裁判所判事ニ囑託シ得ルト云フコトハ全ク重複ナリ

第九十二條 檢事、被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出ス證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ相手方ニ送達ス可シ

(註)本條ニ一日前トアルハ其最短期ヲ規定シタルモノニシテ而シテ此規定タル檢事其他ノ請求ニ依リ呼出ス證人ノミニ關シ裁判所ノ職權ヲ以テ呼出ス證人ニ付テハ關係ナク隨テ此種證人ノ氏名目錄ハ之ヲ當事者ニ送達スルヲ要セス而シテ豫審ト此區別ヲ爲シタル理由ハ如何要スルニ檢事其他當事者ノ請求ニ因リ呼出ス證人ハ其請求者自身ノ利益タル證人ナルコト必然ニシテ隨テ此場合ハ其相手方タル者ハ又其反對ノ證人ヲ呼出スコトヲ請求スル等

之ニ對スル準備ヲ爲スノ必要アリ乃チ豫メ之ヲ知ラシムルコトヲ要スルモ裁判所ノ職權ヲ以テ呼出ス證人ハ之ニ反シ裁判所ハ本來公平ニシテ特ニ一方ノ利益ヲ謀ルカ如キコトナキヲ以テ如何ナル證人ヲ呼出スモ豫メ之ヲ知ラシメテ之ニ對スル準備ヲ爲サシムルノ必要ナシト思ヒシニ在ランカ然レトモ實際ニ於テハ當事者ヨリ或證人ノ呼出ヲ請求スルモ其證人カ果シテ必要ナルヤ否ヤハ開廷ノ上双方ノ辯論ヲ聽クニ非サレハ判定シ難シ隨テ常ニ開廷ノ上之ヲ決定シ各當事者ハ直チニ其決定ヲ聞クヲ以テ豫メ氏名目錄ヲ送達スルノ必要ナク此規定ハ曾テ實行ヲ見サル所ナリ

第九十三條

證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラス又供述前辯論ニ立會フ可カラス既ニ供述ヲ爲シタル後ハ公廷ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退去ノ允許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第九十四條

證人及ヒ被告人ノ訊問ハ裁判長之ヲ爲スモノトス陪席判事及ヒ檢事ハ裁判長ニ告ケ證人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル事項ヲ分明ナラシムル爲メ證人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ求ムルコトヲ得

第九十五條

證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第九十六條

被告人聾者啞者又ハ國語ニ通セサル者ナルトキハ第一百條第一百一條ノ規定ニ從フ

第九十七條

裁判所ニ於テハ證人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタルトキハ其證人ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判長ハ證人供述ヲ終リタル後被告人ヲ入廷セシメ其供述シタル事項ヲ告知ス可シ

本條ノ規定ハ共同被告人ニモ亦之ヲ適用ス

第九十八條 裁判長ハ各證憑ノ取調終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ證憑ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シ

又證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ

(註)右ノ六條ハ既ニ豫審ノ部ニ於テ述タル所ト同一ナレハ茲ニ之ヲ重テ説明スルヲ要セス

第九十九條 辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ裁判ス可シ

(註)本條ハ公判ノ手續ニ對スル異議ノ規定ニシテ意義自ラ明了ナレトモ一言注意スヘキモノアリ本條ハ其前條ト連續セルモノニシテ前條ニハ裁判長ノ爲スヘキ手續ヲ規定セルニ依リ本條ノ所謂公判ノ手續トハ亦裁判長ノ爲スヘキ手續ニシテ之ニ對スル異議ハ其裁判所之ヲ裁判スルコト、セルナリ否ラサレハ即チ或ハ裁判所ノ爲セル手續ニ對スル異議ヲ其裁判所自ラ裁判スルコト、誤解スルニ至ル此ノ如ク解釋スルハ其結果トシテ裁判所ノ爲シタル手續即チ裁判所カ會議ノ上爲シタル手續ニ付テハ全ク異議ノ申立ヲ許サ、ルコト、ナルナリ

第二百條 裁判所ニ於テハ公判ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ取調未タ十分ナラサルトキハ公判ノ判決アリタル後其判決ヲ爲スコトヲ得

第二百一條 被告人有罪ト爲リタルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔ス可キ言渡ヲ爲ス可シ
免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴ニ關スル訴訟費用ハ國庫之ヲ負擔ス私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

第二百二條 被告人有罪ト爲リタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物ハ所有者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

(註)本案ノ判決ハ有罪若クハ無罪ノ言渡又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スモノナルカ之ニ付帶シテ訴訟費用ノ賠償證據物件ノ還付等ノ言渡ヲ爲スヘキコトヲ右三條ニ規定シタルナリ

第二百三條 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ

之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)

無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示スヘシ

(註)刑ノ言渡ニ付テノ要件ハ第一原被ノ證據ヲ大約説明スルコト第二事實及ヒ法律ニ依リ理由ヲ明示スルコト其方法ノ如キハ常ニ其ノ書式ノ一定セルモノナレハ之ニ據ルヘシ免訴ノ言渡ニ付テノ要件モ亦刑ノ言渡書式ト同シキモノトス只一二變更アルニ過キサレナリ

第二百四條 判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲ス可シ

判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ決ス其判決ノ理由ハ判決ノ言渡ト同時ニ之ヲ朗讀シ又口頭ニテ其要領ヲ告ク可シ

(註)本條ハ裁判言渡ニ付テノ規定ナリ裁判言渡ヲ爲スニハ其言渡前裁判官ニテ言渡書ヲ作リ裁判官書記署名捺印スルヲ要ス蓋シ裁判官ノ議決シタル條件ハ之ヲ記載セサレハ後ニテ異論ヲ生スルコトアリ第二裁判言渡書ハ即チ裁判官ノ議決ナルヲ以テ裁判官自ラ之ヲ作り書記ヲシテ淨寫セシム第三裁判官ハ各其議決ノ相違ナキコトヲ認メ書記ハ其淨寫ノ相違ナキコトヲ認ムル爲メ各自ノ署名捺印アルヲ要ス而シテ此ノ判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即

日カ又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲スヘキモノトス即チ他ノ事件ニ付公判ニ取掛ル前タル可シ判決ノ言渡ハ判決主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス而シテ其判決ノ理由ヲモ言渡スヘキモノトス判決ノ理由ノ言渡ヲ爲スニハ判決ノ言渡ト同時ニ即チ判決主文ノ朗讀ニ引續キ之ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其要領ヲ告クヘシ

第二百五條 判決ノ原本ニハ其判決ヲ爲シタル裁判所、年月日、其事件ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載シ判事、裁判所書記共ニ署名捺印ス可シ

第二百六條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ決定ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

(註)公判ハ總テ口述ヲ主トスルニ因リ裁判言渡ヲ爲スモ亦口述ノミヲ以テ足レリトス故ニ訴訟關係人ハ裁判言渡書ノ全部又ハ幾部ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ別段書記局ニ其請求ヲ爲シ且自ラ謄寫費用ヲ負擔セサルヘカラス
上訴ノ爲メ裁判言渡書ノ謄寫ヲ求ムル者ハ其旨ヲ申立テサルヘカラス否ラサルトキハ二十四時内ニ之ヲ下付セサルモ書記ノ過失ト爲スコトヲ得ス若シ各裁判所ニ於テ謄寫ヲ爲ス可キ者差支アルトキ又ハ欠員アルトキ等ハ其請求人ヲシテ書記局ニ出頭シ之ヲ謄寫セシムル

コトヲ得ヘシ

第二百七條 對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又闕席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス

（註）本條ハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ナルコトハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニノミ之ヲ適用スルヲ以テ判然タルヘシ其利益タル第一自費ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ請求スルコトヲ得ヘシ若シ上訴ノ爲メ其請求ヲ爲ストキハ二十四時間内ニ之ヲ下付スヘキノ告知ヲ受クルコト蓋シ欠席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ是等ノ注意ヲ爲サルハ當然言渡書ヲ送達スヘキヲ以テナリ第二對審裁判ナルトキ控訴又ハ上告ヲ爲スノ權アルコト及ヒ其申立書又ハ趣意書ヲ差出スヘキ期限ノ告知ヲ受クルコト欠席裁判ナルトキハ故障ヲ爲スノ權アルコト及ヒ其申立書ヲ差出スヘキ期限ヲ言渡書ニ記載スルコト本條ノ告知又ハ記載ナシト雖モ單ニ裁判言渡ノ確定セザル迄ニテ其言渡ノ效力ヲ減殺スルコトナキハ言ヲ俟タス然レトモ對審裁判ニ付テハ本條ノ告知ナキトキハ固ヨリ刑ノ執行ヲ

爲スヘカラサルニ因リ被告人逃亡スルモ其執行ヲ遁レタル者ト看做スヘカラス此ノ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ト雖モ公訴ノ期滿免除ヲ得ヘシトノ說アリ然レトモ法律ニ於テハ既ニ言渡アリタル以上ハ遲速ヲ論セス必ス之ヲ執行スヘキモノタルノ推測アルニ因リ其言渡未タ確定セスト雖モ被告人ノ逃亡シタル日ヨリ刑ノ期滿免除ノ期限ヲ起算スヘシ上訴ノ期限内ニ逃亡シタル者ト雖モ其言濟確定シタル日ヨリ起算セシテ逃亡ノ日ヨリ起算スヘシ

第二百八條 裁判所書記ハ公判始末書ヲ作り左ノ事項其他一切ノ手續ヲ記載ス可シ

- 第一 公ニ辯論ヲ爲シタルコト又ハ公開ヲ禁シタルコト及ヒ其事由
- 第二 被告人ノ訊問及ヒ其供述
- 第三 證人、鑑定人ノ供述及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲ササルトキハ其事由
- 第四 證據物件
- 第五 辯論中異議ノ申立アリタルコト、其申立ニ付キ檢事其他訴訟關係人意見及ヒ裁判所ノ裁判

第六 辯論順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコト

(註)公判始末書ハ從前ノ口供ノ如ク判決ノ用ニ供スヘキモノニ非スシテ單ニ裁判ノ手續及ヒ法式ヲ履行シタルコトヲ公證スヘキモノトス故ニ始審裁判ヨリモ寧ロ終審裁判ニ於テ最モ必要ナルモノトス何トナレハ終審裁判ヲ取消スノ原由ハ多クハ原裁判ノ手續及ヒ法式ノ不當ナルニ依ルヲ以テナリ

(理由)裁判ノ手續及ヒ法式ヲ履行シタルコトヲ公證スルハ上訴アリタル場合ニ於テ上級ノ裁判所ニテ其裁判ノ當不當ヲ再審スル爲メ最モ必要ナルヲ以テナリ然レトモ口述ト筆ノ記スル所トハ遲速ヲ同クスル能ハス又同一ノ形迹ヲ得ル能ハサルコトアリ實際ニ於テ諸般ノ法式ハ其書式ヲ豫メ定メテ訊問及ヒ陳述ノ如キモ簡單ナル方法ヲ用ヒ滯澁錯雜ナキヲ要ス

第二百九條

公判始末書ニハ前條ニ記載シタル事項ノ外裁判ヲ爲シタル裁判所、年月日、裁判長、陪席判事、檢事及ヒ裁判所書記ノ官氏名ヲ記載ス可シ

辯論數日ニ涉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ判事出席シタルコトヲ記載ス可シ

辯論中補充判事ヲシテ代ラシメタルトキハ其旨ヲ記載ス可シ

第二百十條

公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整頓シ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲シ若シ意見アルトキハ其紙尾ニ記載ス可シ

第二百十一條

判決及ヒ公判始末書ノ原本ハ訴訟記録ニ添付シ其裁判所ニ保存ス可シ若シ上訴アリタルトキハ之ヲ上訴裁判所ニ送付ス可シ

第二章 區裁判所公判

第二百十二條

區裁判所ハ左ノ場合ニ於テ其管轄ニ屬スル違警罪及ヒ輕罪ノ公訴ヲ受理ス

第一 檢事ノ起訴アリタルトキ

第二 豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ

(註)區裁判所カ公判ヲ受理スル場合ハ本條ニ依レハ左ノ二個アリ

第一 檢事ノ起訴アリタルトキ

第二 豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ

(意義)第一ノ場合ハ茲ニ説明ヲ要セスシテ明カナリ第二ノ豫審判事ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキトハ豫審終結決定ニ依リ之ヲ移ス場合ヲ云フ而シテ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス場合ハ數種アリ區裁判所カ他ノ區裁判所トノ間ニ管轄ノ争ヲ爲ストキ又ハ區裁判所モ地方裁判所モ共ニ管轄違ノ言渡ヲ爲ストキハ直近上級裁判所ニ管轄指定ノ申請ヲ爲スヘシ而シテ其ノ直近上級裁判所カ其指定ヲ爲セハ則チ「此事件ヲ移ス裁判タリ」又豫審判事カ豫審終結ノ決定ニ於テ區裁判所ニ移スヘキ事件ヲ或ハ重罪公判ニ移シ或ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ爲メニ檢事又ハ被告人ヨリ抗告セルニ因リ控訴院其抗告ヲ審理シテ區裁判所ニ移スヘキモノト決定セルトキ亦「此事件ヲ移ス裁判タリ」其他大審院ノ特別權限ニ關スル第三百十五條第二項ノ規定ニ「其事件區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シタルトキハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ送致ストアリ是レ亦「此事件ヲ移ス裁判タリ」何レモ本條第二ノ場合ニ該當スルナリ

又違警罪即決法ニ依リ警察官カ違警罪事件ヲ取扱ヒ即決裁判ヲ爲セルニ被告人カ特ニ正式裁判ヲ請求スルコトアリ此場合ニ於テハ區裁判所ハ右第一第二ノ場合ニ該當セサルモ直チニ其被告人ノ請求ノミニ因リ當然公訴ヲ受理スヘキモノトス

區裁判所ハ右ニ述ヘタル原因アレハ違警罪及ヒ輕微ナル輕罪ノ公訴ヲ受理スヘシ而シテ

既ニ之ヲ受理セシトキハ其如何ナル原因ナルヲ問ハス檢事ハ必ス被告人ノ呼出ヲ請求スヘシ

第二百十三條 檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求ス可シ

裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セシム可シ

第二百十四條 呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏名、職業、住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ

若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件ニ付キ取調ヲ受ケタリシトキハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

第二百十五條 呼出狀ノ送達ト出頭ノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

(註)右三條ハ意義明了ナレハ説明ヲ要セス

第二百十六條 判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急速ヲ要スルトキハ公判

二取掛ル前檢證處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス

(註)公判ヲ開廷スレハ審理ヲ爲シ若シ臨檢ノ必要アレハ其決定ヲ爲シテ之ヲ行フヲ普通ノ手續トス然レトモ本條ノ規定ニ依レハ豫審ヲ經サル事件ニシテ急速ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前ニ犯罪其他ノ場所ニ臨檢シテ檢證處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ此場合ハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス全ク例外ナリ

第二百十七條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ又呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ異議ノ申立ナキトキハ裁判所ニ於テ證人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ得

第二百十八條 判事ハ先ツ被告人ノ氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地ヲ問フ可シ

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

(註)公判ヲ開廷シ被告人ノ訊問ヲ爲スニ先チ其氏名、年齢等ヲ問フハ人違ナキコトヲ確ムルニ在リ而シテ檢事被告事件ヲ論述シ判事訊問ヲ爲シ且證據調ヲ爲スヲ順序トス

第二百十九條 判事ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問ス可シ

必要ナル調書其他證憑書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取調ヲ爲ス可シ

若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢事、民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑ヲ取調フルニ及ハス

(註)判事ハ先ツ被告事件ニ付被告人ヲ訊問スヘシ被告ハ判事ノ問ニ答ヘテ其犯罪者タルコトノ自白アリタルトキハ檢事、民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑ヲ取調フルニ及ハストモ然レトモ刑事ノ證據ニ於テ自白ノ重要ナラサルハ民事ト異ナル所ナリ故ニ自白ハ全ク恃ムニ足ラスシテ縱令ヒ被告人カ罪ヲ犯セシコトヲ自白スルモ尚ホ他ノ證據ヲ調ヘテ之ヲ確ムルヲ要ス即チ地方裁判所以上ノ公判手續ニ於テハ自白アルモ證據調ヲ止ムルコトヲ得ス然リト雖モ區裁判所ハ格別ニシテ本條ニ依レハ既ニ自白アルトキハ他ノ證據調ヲ爲スヲ要セス尤モ檢事又ハ民事原告人ヨリ異議アレハ尚ホ他ノ證據調ヲ爲スヲ要スルモ否サレハ則チ之ヲ要セス是レ自白ニ重キヲ置クモノニ似タリト雖モ畢竟犯罪輕微ニシテ萬一事實ヲ誤マルモ重大ノ結果ナキヲ以テ寧ロ可及的速ニ事件ノ局ヲ結フヲ尚フニ出ツルナリ

第二百二十條 證憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付キ意見ヲ陳

述ス可シ

被告人及ヒ其辯護人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

檢事、被告人及ヒ辯護人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スコトヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシム可シ

(註)證據調既ニ終レハ檢事ハ事實ト法律ノ適用トニ付テ意見ヲ述ヘ被告人辯護人答辯ヲ爲ス而シテ最終ニ被告人又ハ辯護人ニ供述セシムヘシ是レ最終ノ發言ハ最モ利アレハナリ

第二百二十一條

公訴ニ付キ辯論終リタル後民事原告人ハ被告ノ事實ヲ證明シ且私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ

被告人、辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

(註)私訴ノ審理ニ移リタルハ民事原告人ヨリ其請求スル所ヲ陳述シ又其理由トシテ事實ヲ陳述スヘシ而シテ被告人辯護人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

第二百二十二條

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ノ場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存

シ又ハ斷ニ勾留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

(註)審理既ニ終リ裁判ヲ爲スニハ管轄違、有罪、無罪若クハ免訴ノ四種中其一ニ決定セサルヘカラス被告事件カ管轄違ナルナルトキハ其言渡ヲ爲スヘク又拘留ノ必要アリトセハ其管轄違ナルニ拘ハラス尙ホ拘留狀ヲ存スヘク從來拘留狀ヲ發セサルトキハ新ニ之ヲ發シテ執行スヘシ而シテ裁判所ハ是ニ於テ全ク其事件ノ關係ヲ離脱シ之ヲ檢事ニ送附シテ檢事之ヲ相當ノ裁判所ニ起訴スヘキモノトス

第二百二十三條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬シ且犯罪ノ證據十分ナルトキハ判決ヲ以テ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

第二百二十四條 犯罪ノ證據十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラサルト

キハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ又第六十五條第三號以下ノ場合

ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

(註)前條ノ規定ニ反シテ管轄違ニアラスシテ管轄適法ナルトキハ有罪、無罪又ハ免訴ノ一ヲ言渡スヘシ即チ犯罪ノ證據十分ナルトキハ通則ニ於テ述ヘシ如ク事實ト法律トニ因リ理由ヲ附シテ刑ノ言渡ヲ爲スヘク若シ證據十分ナラサルトキハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘク被告事件カ罪ト爲ラサルトキ即チ證據アリテ或事實ヲ認定シ得ルモ其事實カ元來罪トナラサルト

キモ亦無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ然レトモ時効又ハ確定判決大赦アリ若クハ法律上其罪ヲ全免
 スルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ親告罪ニ付キ告訴ノ取下アリタルトキ亦同シ此場合ノコ
 トニ付テハ明文ナキモ本條ニ「第六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ
 言渡ヲ爲スヘシ」トアルモ同號以下ニハ此場合ノ規定ナシ唯タ其理ノ全ク同一ナルヲ以テ
 尙ホ此場合ニモ免訴ヲ言渡スヘキ法律ノ精神ナリト解釋セサルヘカラス
 又法律ニ明文ナキモ現行ノ判例ニ依レハ公判ニ於テハ無罪免訴ノ外ニ公訴不受理ノ言渡ヲ
 爲スコトアリ通則ニ於テ本案前ノ判決トシテ此言渡ヲ爲スヘキコトヲ述タルト同一ノ理ニ
 由リ終局判決ニ於テモ裁判所カ既ニ審理ヲ終リテ後ニ其公訴ノ受理スヘカラサルコトヲ發
 見セハ亦其言渡ヲ爲スヘキハ當然ナリ

第二百二十五條

前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ付キ其請求價額ノ多寡
 ニ拘ハラズ判決ヲ爲ス可シ

(註)被告事件證據十分ニシテ有罪ノ言渡ヲ爲ストキハ固ヨリ私訴ノ本案ヲ判決スヘシト然
 レトモ無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ爲ストキハ私訴ノ判決ハ二様ニ分レ或ハ曰ク私訴ハ本法第
 二條ニ依リ犯罪ニ依リテ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムルモノナルヲ以テ公訴ノ裁判ニ於テ無
 罪若クハ免訴ノ言渡ヲ爲ストキハ則チ犯罪ナキモノニシテ犯罪ナケレハ私訴モ亦獨リ存ス
 ルヲ得ス故ニ此場合ハ私訴ハ之ヲ棄却スヘシト而シテ往々此判決ヲ爲ス裁判所アリ然ルニ

大審院及ヒ控訴院ノ判例ハ皆之ニ反シ此場合ト雖モ私訴ノ本案ニ付テ判決スヘシ即チ其請
 求ノ相當ナルヤ否ヤヲ裁判スヘシト爲セリ

(理由)無罪又ハ免訴ノ言渡ノ場合ニモ私訴ニ付キ判決ヲ爲スヘキ理由ハ公訴裁判ノ結果無
 罪若クハ免訴タルモ既ニ犯罪アリトシテ公訴ヲ提起セラレ之ニ付帶シテ私訴ヲ提起セル
 モノナル以上ハ私訴ハ正當ニ成立シ裁判所正當ニ之ヲ受理セルモノナルヲ以テ之ニ付テ
 裁判セザレハ其ノ局ヲ結フコト能ハス本條ニ曰ク「前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ付キ其
 請求價額ノ多寡ニ拘ハラズ判決ヲ爲スヘシ」ト規定ス而シテ前二條ノ場合ニハ有罪ノ場
 合ト無罪若クハ免訴ノ場合トヲ包含スルヤ法文ニ明カナリ然ラハ則チ私訴ニ付キ其請求
 ノ判決ヲ爲スヘキヤ亦言ヲ俟タスシテ明カナリ而シテ其請求額ノ多寡ニ拘ハラズトアル
 ハ裁判管轄ノ例外ト爲ス爲メ故サラニ加ヘシ文辭ニシテ區裁判所ハ民事ノ請求ニ付テハ
 百圓以下ノモノニ非サレハ裁判權ヲ有セサル原則ト爲スモ私訴ニ付テハ之ニ拘泥セス百
 圓以上ノ請求ニ付テモ裁判セシムルコト、ナセリ例ヘハ毆打創傷罪ノ如キ其犯罪ハ輕微
 ナルモノニシテ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモ其ノ私訴ノ請求價額ハ數百圓ニモ上ルコトア
 リテ此ノ場合ニ右原則ニ從ヘハ區裁判所ハ其ノ私訴ニ付裁判權ナキモノナレトモ私訴ハ
 公訴ニ付帶セシムル精神ヲ貫徹スルニ右ノ原則ヲ守ルヲ得ス乃チ特ニ之ヲ例外トセシナ
 リ

第二百二十六條

呼出テ受ケタル被告人又ハ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ

事件ニ付キ其代人公判ノ期日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ闕席判決ヲ爲ス可シ

私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲ス可シ

(註)被告人カ公判ノ呼出ヲ受ケテ其期日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ辯論ヲ爲シ被告人ハ欠席ノマ、其陳述ヲ聞カスシテ裁判ヲ爲ス之ヲ闕席判決ト云フ而シテ此欠席判決ハ罰金以下ノ刑ニ該ル犯罪ト禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪トニ付キ其手續ヲ異ニスルナリ罰金以下ノ刑ニ該ル被告事件ニ付テハ必スシモ被告人ノ自ラ出頭スルコトヲ要セス代人ヲ出シテ之ヲ辯論セシムルコトヲ得ルコトハ法律ノ認許スル所ナリ故ニ代人ニシテ出頭スレハ尙ホ對審判決タルヲ失ハス被告人及ヒ其代人共ニ出頭セサルニ及ヒ始メテ欠席判決タリ而シテ辯護人ハ代人ニ非ス故ニ辯護人ノミ出頭シ辯論スルモ亦欠席判決タリ元來欠席判決ニ付テハ必スシモ被告人カ自ラ公判ノ呼出狀ヲ受取リシコトヲ必要トセス總則ニ依レハ書類ノ送達ハ總テ同居ノ親屬若クハ雇人ニ交付スレハ送達ノ效アリ右二者共ニ不在ナレハ其地ノ市町村長ニ送達シ其事ヲ記シテ被告人住所ノ戸ニ貼附スヘシ此ノ如クスレハ被告人自ラ之ヲ受取リシト同一ノ效アルヲ以テ公判期日ニ出頭セサレハ直チニ欠席判決タルモノトス

第二百二十七條 禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人出頭セスト雖

モ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ闕席判決ヲ爲ス可カラス

豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ闕席判決ヲ爲ス可キ告知書ヲ其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月間裁判所ノ揭示板ニ貼付シテ公示ス可シ

(註)禁錮以上ノ刑ニ該ル被告事件ニ付テハ必ス被告人ノ自ラ出頭スルヲ要シ代人ヲ許サス故ラニ自ラ出頭セサレハ直チニ欠席判決タリ代人若クハ辯護人カ出頭シ辯論スルモ其效ナシ然レトモ此場合ハ前ト異ナリ必ス本人自ラ公判呼出狀ヲ受取リシ證據アルヲ要シ之無ケレハ欠席判決ヲ爲スヲ得ス故ニ被告人逃亡スレハ送達ヲ得サルモ此カ爲メ無限ニ判決ヲ延期ス可キニ非サルヲ以テ裁判所ハ相當ノ猶豫期間ヲ與ヘ其間ニ出頭セサレハ欠席判決ヲ爲スヘシトノ告知書ヲ作りテ被告人ノ親族アレハ之ニ送達シ又ハ本籍ニ送達スヘシ三者共ニ分明ナラサルトキハ被告人ノ最終ノ住所ノ市町村長ニ送達スヘシ住所トハ民法ノ所謂住所

即チ生活ノ中心タル所ニシテ唯々其本籍ナルト寄留地ナルトハ之ヲ問ハス而シテ此最終ノ住所モ亦分明ナラサルトキハ送達ヲ爲スニ由ナキヲ以テ所謂公示送達ヲ爲スヘシ公示送達トハ右ノ告知書ヲ裁判所ノ揭示場ニ貼付シ少クトモ一ヶ月間公示スルモノニシテ之ヲ終リテ始メテ欠席判決ヲ爲スモノトス

第二百二十八條 闕席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ闕席者

ニ送達ス可シ

闕席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得

(註)被告人カ判決ニ對スル不服申立ノ方法ハ對席判決ニ付テハ上訴ナルモ欠席判決ニ付テハ直チニ上訴ヲ爲スニ非ス先ツ故障ヲ申立ルヲ原則トス即チ本條第二項ニ曰ク「欠席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得」ト上訴ハ上訴裁判所ニ申立ツヘシ即チ控訴ハ第二審裁判所ニ上告ハ上告裁判所ニ抗告ハ直近上級裁判所ニ申立ツヘキモノナルモ故障ハ上訴ニ非スシテ裁判ノ覆審ヲ求ムルモノナルヲ以テ其欠席判決ヲ爲シタル原裁判所ニ申立ツヘシ即チ第一審ニ於ケル欠席判決ニ對スル故障ハ其第一審裁判所ニ申立ツヘシ之ヲ故障ノ要點トス故ニ故障ハ法文ノ如ク欠席判決ヲ受ケタル者ニ限ルモノニシテ相手方ナル檢事ハ之ヲ申立ツルヲ得ス即チ公訴ニ付テハ必ス被告人ノミニ限リ私訴ニ付テハ民事原告人若クハ被告人ノ中欠席セル一方ニ限り之ヲ申立ツヘク其出頭セル一方ハ上訴ヲ爲ス

ノ外ナシ

第二百十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言

渡シタル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マリ
禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知りタル日ヲ以テ始マル

(註)故障ヲ爲ス期間ハ之ヲ三日間ト爲セリ而シテ此三日ノ期間ノ起算點ハ場合ニ因リテ之ヲ異ニシ罰金以下ノ刑ノ判決ナルトキハ其判決送達ノ日ヲ以テ起算點トシ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ適法ノ送達アレハ被告人自ラ之ヲ受取ラサルモ妨ナク其送達ノ日ヨリ起算シ禁錮以上ノ刑ノ判決ナルトキハ本條ノ法文ニハ「禁錮ノ刑」トアリテ以上ノ字ナキモ是レ區裁判所ノ手續ニ係ル規定ナルカ故ニ單ニ此ノ如ク記セシモノニテ此ノ手續ハ他ノ地方裁判所及ヒ控訴院ニモ進用サル、ヲ以テ被告人カ自ラ送達ヲ受ケシトキハ其日ヨリ起算シ若シ自ラ之ヲ受ケサリシトキハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知りタル日ヨリ起算ス

第二百三十條 故障ヲ申立テントスル者ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所

ニ其申立書ヲ差出ス可シ

(註)欠席判決ニ服セスシテ期間内ニ故障ヲ申立ツルトキハ本條ニ從ヒ其欠席判決ヲ爲シタ

ル裁判所ニ其申立書ヲ差出スヘシ

第二百三十一條 裁判所ニ於テハ故障ノ申立アリタルコトヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付スヘキ期日ヲ通知シ且其事件ヲ公判ニ付ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出ス可シ

(註)裁判所ハ故障ノ申立アリタルコトヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付スヘキ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出スヘシ然ルニ此ノ如クスルトキハ實際不便ナルコトアリ例ヘハ大阪ニ於テ一罪ヲ犯シ長崎ニ逃走セシニ因リ大阪裁判所ニ於テ欠席判決ヲ爲セシカ被告人ハ又長崎ニ於テ一罪ヲ犯シ逮捕ノ上起訴セラレタリ然ルニ其審理中ニ方リ長崎ノ檢事カ大阪ノ欠席判決ニ因ル逮捕狀ヲ執行シ被告人ハ之ニ因リテ始メ大阪ノ欠席判決アリタルコトヲ知リ故障ノ申立ヲ爲ス此場合ニ其申立ヲ長崎裁判所ニ爲シ該裁判所ニ於テ其新罪ト同一ニ判決スレハ數罪俱發例ニ依ル等審理上大ニ便利ナルモ此場合ト雖モ故障ハ必ス大阪裁判所ニ申立テサルヲ得サルヲ以テ實際ハ長崎即チ被告人現在地ノ裁判所カ先ツ其公判ヲ開キ處分ヲ爲シテ然ル後チ之ヲ大阪ニ送致シ大阪裁判所ニ於テ故障ノ裁判ヲ爲スコト、ナリ不便甚キヲ以テ此實際ノ取扱ハ穩當ナラス同一ノ被告人ニ對シ數多ノ起リシトキハ第二十七條ノ「數個ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ其中ニ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス」トアルニ依リ舊新二罪ニ付テ大阪長崎共ニ管轄權アルモ大阪ハ最初公

判ニ着手セシ故ヲ以テ大阪裁判所其管轄タリ長崎裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ之ヲ大阪ニ送致シ大阪ニ於テ二罪ヲ併セ管轄セサルヘカラサルナリ

第二百三十二條 裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キヤ否ヤ又故障ノ期間ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス可シ

(註)故障ヲ申立テ、其裁判所ノ定メタル公判期日ニ至リ檢事其他總テノ訴訟關係人出頭スレハ裁判所ハ先ツ其故障ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決定スヘシ即チ欠席判決カ故障ヲ許スヘキ裁判ナルヤ否ヤヲ決定スヘシ例ヘハ第二回ノ欠席判決ナルトキハ次條ノ第二項ニ因リ故障ヲ許サス又故障ヲ申立ツル判決カ對席判決ナルトキハ殊ニ之ヲ許サス此等ノ諸點ヲ調査シテ若シ之ヲ許サ、ルモノナルトキハ即チ其故障ヲ棄却スヘシ其之ヲ調査スルハ裁判ノ職權ヲ以テスルモノナルニ因リ當事者ノ申立ハ之ヲ要セス而シテ其故障ヲ許スヘキモノト決定スルハ其故障ハ期間内ニ申立テシモノナルヤ否ヤヲ取調フヘク果シテ期間内ニ申立テシモノトセハ茲ニ本案ノ取調ニ係ルヘク之ニ反シテ期間後ノ申立テナリトセハ亦其故障ヲ棄却スヘシ

第二百三十三條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テ故障申立人闕席シタルトキハ更ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス

(註)故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシト規定シタルヲ以テ故障ノ申立ヲ受理スヘシトセハ其マ、引續キ本案ノ取調ニ係ルヘク其手續ハ闕席判決以前ト同一ニシテ恰モ欠席判決ナカリシ時ノ如ク其ノ審理ヲ爲サ、ルヘカラス故ニ其裁判ヲ言渡スニハ或ハ有罪トシ或ハ無罪トシ一ニ其所信ノ心證ニ從ヒ自由ノ裁判ヲ爲スヘク法律上一定ノ推測ナシ是レ民事訴訟法ノ欠席判決ト大ニ異ナル所ナリ而シテ其更ニ有罪ノ裁判ヲ爲スニハ又民事訴訟法ニ於ケルカ如ク欠席判決ヲ維持シ又ハ取消シテ更ニ刑ヲ言渡ス等ノコトヲ要セス假令無罪ノ裁判ヲ爲スモ亦同様ニシテ欠席判決ニハ關係セス單ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヲ以テ足レリトス即チ本條ニ「通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘシ」トアルハ是ナリ

第二項ニ故障ノ申立人欠席シタルトキハ更ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ストアリ然レトモ前ニ述ヘシ如ク故障ヲ許スヘカラス又ハ期間外ノ故障トシテ棄却セル判決カ欠席判決ナルトキハ再ヒ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルモノナリ即チ前項ノ場合ニ於テ、トアリテ所謂前項ノ場合即チ第一項ノ場合ノ申立ヲ受理シ本案ノ裁判ヲ爲スモノニ係リ前條ノ場合ニ非ス故ニ法文上一ハ再度ノ故障ヲ爲シ一ハ之ヲ許サ、ルハ明カナリ

第二百三十四條 第二百四十七條 第二百四十八條ノ規定ハ闕席判決ニ對スル故障ニモ亦之ヲ準用ス

第三章 地方裁判所公判

第二百三十五條 地方裁判所ニ於テハ豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事
件ヲ移ス裁判ニ因リ其管轄ニ屬スル輕罪及ヒ重罪ノ公訴ヲ受理ス
又輕罪ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ其公訴ヲ受理ス

(註)地方裁判所ニ於テハ公訴ヲ受理スル場合ハ本條ニ規定アリ區裁判所ノ公訴受理ノ場合ト殆ト同一ナリ即チ第一豫審判事ノ豫審終結ノ決定ニ因リ輕罪又ハ重罪ノ公訴ヲ受理ス第二上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判ニ因リ輕罪又ハ重罪ノ公訴ヲ受理ス而シテ其ノ如何ナル場合ニ上級裁判所ヨリ之ヲ移スヤハ第一審區裁判所ニ於テ同一ナリ第三檢事ノ起訴ニ因リ輕罪ノ公訴ヲ受理ス即チ檢事カ直チニ公判ニ起訴スルモノニシテ輕罪ノミニ限ル

(意義)地方裁判所カ公訴ヲ受理スルハ右三個ノ場合ニ限ル然ルニ之ニ付キ一ノ難問題アリ豫審終結ニ付テ述ヘシ如ク豫審判事カ輕罪又ハ重罪トシテ起訴アリシニ因リ其豫審ヲ爲シタル後之ヲ違警罪若クハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ナリト斷定シ區裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ區裁判所乃チ之ヲ管理セルニ又却チ重罪ナリト斷定シ管轄違ノ言渡ヲ爲シテ

其言渡確定セリトセンニ此場合ニハ其事件ヲ如何ニスヘキヤ檢事カ重罪トシテ公判開廷ヲ請求シ得ルヤト云フニ本條ノ場合中ニ該當セス重罪ハ豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ之ヲ移スコトヲ要ス檢事ノ直チニ起訴シ得ルハ輕罪ニ限ル然ラハ再ヒ豫審ヲ求メンカ是亦之ヲ爲ス能ハス通常ノ場合ハ管轄違ノ言渡ト共ニ前ノ豫審ハ無効ニ販シ適法ノ管轄ナル豫審判事ニ豫審ヲ請求スヘキモノナルモ本問ノ場合ハ豫審判事カ適當ノ管轄ナリシヲ以テ之ニ對シテ再ヒ請求スレハ所謂一事不再理トナルヘシ故ニ此事件ハ遂ニ之ヲ移スノ場所ナキモノタリ是レ即チ一ノ缺點タリト云フヘシ

第二百三十六條 前章ノ規定ハ此章ニ別段ノ定メナキモノニ限り地方裁判所ノ公判ニ準用ス(刑法施行法ニ依リ改正)

(註)地方裁判所カ公訴ヲ受理セントキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤ原則トシテハ區裁判所ノ手續ヲ準用ス即チ被告人對席ノ場合ト闕席ノ場合トニ論ナク皆之ヲ準用ス然レトモ區裁判所ハ輕微ノ事件ナルニ地方裁判所ハ輕罪中ノ重大ナルモノ及ヒ重罪ヲ取扱フモノナルヲ以テ其手續上差異アルヘシ左ニ之ヲ説明ス

(意義)第一 區裁判所ハ被告人自白セルトキハ訴訟關係人ヨリ異議ヲ申立テサル以上ハ他ノ證據調ヲ爲スヲ要セサルモ此規則ハ地方裁判所ニ準用セス自白ハ民事ニ於テハ有力ノ證據タルモ刑事ニ於テハ之ニ重キヲ措カス第二百二十九條ニ依リ被告人自白アリト雖モ

尙ホ他ノ證據調ヲ爲サ、ルヲ得ス

第二 區裁判所ハ單獨判事カ裁判ヲ爲スモ地方裁判所ハ三人ノ判事カ合議シテ裁判ヲ爲スモノナルヲ以テ審理中實地ニ臨檢シテ其狀況ヲ知ルノ必要ヲ生スレハ三人共同シテ臨檢スルヲ當然トスルモ此ノ如キハ運動ノ機敏ヲ失ヒ且其必要ナキニ因リ第二百三十八條ヲ以テ一人ノ受命判事ヲ命シテ臨檢ヲ爲サシメ且其報告ヲ聽キテ裁判スルコト、爲セリ而シテ此事ハ實ニ臨檢ノミナラス物件差押家宅搜索等ニ付テモ亦然リトス是レ明文ナキモ法律ノ精神上自ラ然ラサルヲ得ス

第三 區裁判所ニ於テ其管轄トシテ裁判セル事件ヲ被告人又ハ檢事ヨリ控訴セルニ地方裁判所カ第二審裁判トシテ之ヲ受理シ調査上全ク區裁判所ノ管轄ニ非ス地方裁判所ニ第一審トシテ繫屬スヘキ事件ナリト斷定スルコトアリ此場合ハ其第一審ノ裁判ハ管轄違ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ取消シ管轄違ノ言渡ヲナスヘキモノナルモ其ノ到底地方裁判所ニ第一審トシテ來ルヘキモノナルヲ以テ特ニ管轄違ノ言渡ヲ爲スハ無用ノ繁雜ナリトス故ニ第二百四十條ハ其ノ管轄違ノ言渡ヲ爲サス唯タ區裁判所ノ裁判ヲ取消シ直チニ第一審ノ判決ヲ爲スヘキコト、セリ故ニ此判決ニ對シテハ直チニ控訴院ニ控訴シ得ヘク結局四段ノ裁判ヲ受クルコト、ナルヘキナリ

區裁判所ノ公判ノ規定ト地方裁判所ノ公判規定トハ大抵同一ナルヲ以テ此章即チ地方裁判所ノ公判ニ付テ別段ノ定メアルモノハ格別之ナキモノニハ地方裁判所ノ公判ニ準用スルモ

ノトス

第二百二十七條 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得
書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ

(註)前條マテノ規定ハ重罪、輕罪ニ通スル規則ナルカ其他更ニ重罪ノミニ特別ナルモノアリ即チ本條ノ規定是レナリ

(意義)重罪事件ニ付テハ必ス開廷前ニ裁判長又ハ受命判事カ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フヘク既ニ選任シ又ハ不日選任スヘキトキハ則チ可ナルモ若シ未タ選任セス又ハ選任シ得サルトキハ則チ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ即チ自ら選任スルニハ何處ノ辯護士ヲ以テスルモ可ナリト雖モ官選ハ必ス其裁判所所屬ノ辯護士ニ限ル而シテ此官選辯護人ハ數人

ノ被告人ニ付キ一人ヲ選任スルモ妨ナク唯タ被告人及辯護人ニ異議アルトキハ各被告人ニ付キ各一人ツ、選任スヘシ

第二百三十八條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十九條 裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自白シタルトキト雖モ仍ホ證據ヲ取調ヘサル可カラス

第二百四十條 裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ其請求ノ價額通常民事上區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキ亦同シ

(註)地方裁判所ノ管轄ハ前ニ述ヘシ如ク區裁判所ノ第二審ノ裁判ヲ爲スハ區裁判所ヨリ其ノ裁判ヲ移シタル場合ニシテ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト雖モ第一審ノ判決ヲ爲スモノナリ是レ裁判ハ上級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノヲ下級裁判所カ之ヲ裁判スルノ權ハナシト

雖モ上級裁判所ハ下級ノ裁判所ノ裁判ヲ爲スコトハ妨ケナカルヘシ此ノ權アルハ獨リ公訴ノミナラス私訴ニ付テモ亦同シ

第二百四十一條

裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スヘシ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得(刑法施行法ニ依リ改正)

(註)豫審判事カ輕罪ナリト斷定シ地方裁判所ノ輕罪公判ニ付スト言渡シ地方裁判所之ヲ受理シテ公判ヲ開キ之ヲ審理シテ重罪ト爲スコトアリ又豫審ヲ經ス檢事カ直チニ輕罪トシテ地方裁判所ニ起訴セシニ其審理ノ結果重罪タルコトヲ發見シ檢事ハ其事件ヲ重罪トシテ追スルコトヲ申立ツルコトアルヘシ此等ノ場合ニ於テハ裁判所ハ重罪トシテ裁判手續ヲ爲サルヘカラス即チ其事件カ豫審ヲ經シモノナルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲ設ケテ審理セシメ其報告ヲ聽キタル上ニテ公判ヲ開廷スヘシ又若シ其事件カ未タ豫審ヲ經サルモノナルトキハ之ヲ豫審判事ニ送致スル旨ノ決

定ヲ爲スヘシ而シテ被告人カ未タ拘留ヲ受ケサルニ於テハ拘留狀ヲ發シテ之ヲ拘留シ豫審判事ニ送致スヘシ此場合ニ於テ豫審判事ハ單ニ豫審判事タル職權ヲ以テ豫審ヲ爲スモノナルカ故ニ通常豫審ノ手續ト同一ナリ唯タ其異ナル所ハ檢事ノ起訴ナキ一點ニ止マルノミ其結果モ亦通常ノ場合ト同シク之ヲ重罪若クハ輕罪トシテ地方裁判所ノ公判ニ移ストキハ公判ハ茲ニ新タニ其事件ヲ受理セシモノナリ故ニ新タニ公判ノ手續ニ着手スヘキナリ

第五編 上 訴

(註)上訴ハ控訴、上告及抗告ノ三トス而シテ上告中ニハ非常上告ナルモノアリテ全ク通常ノ上告ト其性質ヲ異ニスルニ因リ之ヲ區別シテ右三種ノ外ニ置クナリ其他更ニ再審ナルモノアリ上訴ト相似タルモ本法ハ之ヲ上訴ノ一二列セス單ニ理論上ヨリ論スルモ本法ノ再審ハ之ヲ上訴ト爲スヲ得ス上訴トハ下級裁判所ノ判決ヲ攻撃スル爲メ上級裁判所ニ訴フルモノナリ控訴、上告及ヒ抗告ハ總テ此中ニ入ルモ再審ハ時トシテ之ニ該當セサルコトアリ是レ上訴中ニハ入レサル所以ナリ

第一章 通 則

第二百四十二條 檢事其ノ他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル上訴ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

(註)上訴ハ何人カ之ヲ爲スモノナルヤハ本條ニハ檢事其他訴訟關係人之ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ然ラハ則チ其他ノ者ハ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ

(意義)訴訟關係人トハ公訴ニ付テハ被告人、辯護人及ヒ法律上代理人私訴ニ付テハ民事原告人被告人及ヒ民事擔當人はナリ檢事公訴ニ付テハ最モ廣ク上訴權ヲ有シ被告人ノ利益ノ爲メニモ不利益ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ檢事ノ性質ノ然ラシムル所ニシテ檢事ハ必スシモ被告人ヲ處罰スルカ爲メノモノニ非ス公益ヲ維持スルヲ職務トスルモノニシテ無罪ノ者ヲ有罪ト爲スハ公益ニ害アルニ因リ乃チ被告人ノ利益ノ爲メニモ上訴權アルヘク其罪ノ輕キヲ重クセル場合モ亦然リ

被告人ハ上訴權檢事ヨリ狭ク自己ノ利益ノ爲メノミニ限り不利益ノ爲メニハ之ヲ爲スヲ得ス此點ニ付テハ明文ナキモ檢事ノ爲メニハ被告人ノ利益ノ爲メニ上訴ヲ爲シ得ル明文アルニ被告人ノ爲メニ自己ノ不利益ノ爲メニ得ルノ明文ナキヨリシテ法律ノ精神ハ茲ニ在ルヲ知ルヘシ

第二百四十三條 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

(註)辯護人ハ被告人ニ上訴ノ意思ナキ場合ト雖モ辯護人ハ被告人ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ本條ニハ被告人ニ代リテトアリ上訴ハ辯護ノ委任中ニ包含サル、モノト看做シ

代理ノ資格ヲ以テ之ヲ爲シ得ルナリ故ニ被告人ニシテ上訴ヲ爲サスト明言セシトキハ代理ノ委任自ラ消滅シ上訴ヲ爲スコトヲ得サルニ至ル又時トシテ被告人ト共ニ上訴スルコトアリ此場合ハ二個ノ上訴アリト云フヘカラス二者合シテ一ト爲ルニ過キス而シテ實際慣用ノ解釋ニ於テハ辯護人ハ單ニ上訴ノ申立ヲ爲ス權利アルニ止マリ上訴裁判所ニ出頭シテ辯論ニ與カル權利ハ別段ノ委任アルニ非サレハ之ヲ有セスト爲セリ故ニ果シテ之ニ與カラント欲セハ別段ノ委任ヲ受ケ其辯護届ヲ爲スコトヲ要スルナリ辯護人ハ右ノ如クナルニ依リ被告人ノ不利益ノ爲メニハ上訴ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第二百四十四條 被告人ノ法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

(註)法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルコトハ本條ノ明記スル所ナリ故ニ辯護人ト異ナリ被告人カ上訴セスト明言スルモ之ニ拘ハラシテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ是レ法律上ノ代理人ノアル場合ハ被告人カ未成年者、瘋癲白痴者等ノ無能力ナル場合ナルヲ以テ被告人自身ノ意思ハ其效力ナキモノナレハナリ而シテ此等ノ被告人ニ付テ法律上代理人カ上訴ヲ爲スコトハ事實上アリ得ヘカラサルカ如キモ必シモ然ラス民事上禁治產者タル者ハ法律上代理人即チ後見人アリテ民法上其禁止ノ在ル間ハ其法律行為ハ總テ後見人ニ依ルヘク而シテ刑事上ニ於テ禁治產者ト雖モ實際精神ノ錯亂セル時間ハ辯論ヲ停止スルコトナキヲ

以テ此場合ニハ法律上代理人カ獨立シテ上訴スルコトアルナリ然ルニ本條ハ「代理人ハ獨立シテ」トアルヲ以テ被告人モ法律上代人モ共ニ上訴セシトキハ二個ノ上訴並ヒニ存スヘキニ似タリト雖モ法律上代理人ハ固ヨリ被告人ノ代理人タル資格ニ於テ上訴スルニ過キサハルヲ以テ此場合モ亦二者相合シテ一ノ上訴タルニ止マリ本條ニ「獨立シテ」ト云フハ被告人ノ意思ニ反シテモト云フ意ナルヘシ

(理由)此ノ法律上代理人ニ付テモ法文ニ上訴ヲ爲スコトヲ得トアルハ上訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルノミト解セサルヘカラス尤モ法律上代理人ハ上訴裁判所ニ於テ辯論ニ與カル權利ハ固ヨリ之ヲ有スルモ其ノ之ヲ有スルル第二百四十四條ニ依ルニ非ス公判通則中ノ第百八十一條ニ依リ被告人ノ補佐人トシテ辯論ニ與カルニ過キス

第二百四十五條 拘留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ハ之ヲ其裁判所ニ送致ス可シ

第二百四十六條 檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ取下クルコトヲ得

(註)檢事ハ上訴ヲ取下ルコトヲ得ス即チ上訴ヲ爲スト否トハ檢事ノ自由ナリト雖モ一タヒ上訴ヲ爲シタル以上ハ復タ之ヲ取下クルコトヲ得ス是レ公訴權ハ檢事ノ自由ニ處分スルヲ得スト云フ原則ノ適用ニ外ナラス是レ公訴權ハ國家ニ屬シ檢事ハ國家ノ委任ヲ受ケテ之ヲ

行フニ過キサレハナリ然レトモ檢事以外ノ者即チ被告人其他私訴ノ關係人ニ至ルマテ皆上訴ヲ取下クルコトヲ得本條ハ之ヲ明記シテ上訴ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得ト爲セリ而シテ之ヲ取下クルトキハ其結果前審ノ裁判確定スルニ至ル即チ控訴ヲ取下クレハ第一審裁判確定シ上告ヲ取下クレハ第二審ノ裁判確定スルモノナリ

(理由)辯護人カ上訴ヲ爲シタルトキハ之ヲ取下ケルコトヲ得ルヤ辯護人ハ被告人ニ代リテ上訴ヲ爲シタルモノナルニ因リ其被告人ノ同意ナケレハ之ヲ取下ケルコトヲ得ス然レトモ辯護人カ隨意ニ取下ケルコトハ第二百四十三條但書ノ「被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス」トアル法律ノ精神ニ徴シテ明カナリ故ニ辯護人ト被告人ト共ニ各々上訴ヲ爲シタル場合ニ被告人カ其上訴ヲ取下クレハ辯護人ノ爲シタル上訴モ亦隨テ共ニ消滅スヘキモノト決定セサルヘカラス

法律上代理人ノ上訴ハ被告人之ヲ取下クルコトヲ得ス是レ法律上代理人ハ被告人ノ意思ニ反シテモ獨立シテ上訴ヲ爲シ得ル第二百四十四條ノ法意ニ依テ明カナリ然レトモ被告人ノ爲シタル上訴ハ法律上代理人之ヲ取下ケルコトヲ得ス是レ亦該條ノ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得トアルモ獨立シテ上訴ヲ取下ケルコトヲ得ル旨ノ規定ナキニ依テ明カナリ主タル上訴ヲ其申立人ヨリ取下ケタルトキハ其附帶上訴ハ消滅スヘキヤ否ヤニ至テハ普通ハ消滅スルモノトス然ルニ附帶上訴ヲ上訴期間内ニ於テ爲シタル場合ニ主タル上訴ヲ取下タルトキハ其附帶上訴モ亦消滅スヘキヤ是亦從ハ主ニ從フノ原則ニ依リ之ヲ取下ク

ルコトヲ得ト云ハサルヘカラス
 公訴ニ附帶セル私訴ノ上訴ヲ取下クルニ第二百四十六條ノ法文上私訴トノ區別ナキヲ以テ該條ニ依リ何時ニテモ之ヲ得ト爲スヲ穩當トスヘシ然ルニ民事訴訟法ニ依レハ口頭辯論ニ至ルマテハ相手方ノ承諾ナシト雖モ取下クルコトヲ得ルモノト爲シ隨テ其以後ハ相手方ノ承諾ヲ要ス此規定ハ本法ニ於テモ私訴ニ付キ尙ホ之ヲ準用スヘキヤ否ヤ本法ニハ其明文ナシト雖モ理論上之ヲ準用スヘキモノト云ハサルヘカラス

第二百四十七條 訴訟關係人天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ説明シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日より通常ノ期間内ニ其説明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲ス可シ

第二百四十八條 前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

第二百四十九條 上訴完結ノ後其訴訟記録ハ上訴審ニ於テ爲シタル裁判

判謄本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還ス可シ

第二章 控 訴

第二百五十條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

(註)控訴ハ第二審ト稱シ或ハ覆審ト稱ス事實法律共ニ覆審ヲ求ムルノ方法ナリ之ヲ換言セハ第一審ノ裁判ト同一ノ手續ニ從フテ同一ノ審理ヲ爲シ同一ノ争點ニ對シテ同一ノ裁判ヲ爲スモノナリ而シテ此ノ如ク總テ同一ナルヲ以テ控訴審ハ全ク之ヲ廢スヘシト論スル者サヘアルナリ然ルニ我邦ニ於テハ重罪ト輕罪トヲ問ハス總テ之ヲ許シタルナリ

(意義)總テ控訴ヲ許スト雖モ亦妄リニ之ヲ爲シ得ルニ非ス第二百四十二條ニ規定スル如ク「法律ニ許シタル上訴」ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス而シテ控訴ニ付キ法律ニ許シタルハ第二百五十條ノ規定ニシテ「控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スヲ得」トアリ故ニ其他ノ判決ニ對シテハ之ヲ爲スヲ得ス「本案ノ判決」トハ即チ終局判決ニシテ「第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決」トハ即チ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決及ヒ管轄違ノ申立ヲ棄却シタル判決ヲ云フナリ控訴ヲ爲シ得ル範圍ハ此ノ如ク制限アルモ其範

圍内ニ於テ爲ス控訴ニ付テハ之ヲ爲スノ理由ニ毫モ制限ナシ上告及ヒ再審ノ如キハ法律ノ許シタル理由アルニ非サレハ之ヲ許サ、ルモ控訴ハ單ニ前裁判ニ不服ナリトノ一事ノミニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得唯タ相當ノ理由ナキトキハ之ヲ棄却サル、ノ結果ヲ免レサルノミ

第二百五十一條

控訴ハ判決ノ一分ニ限り之ヲ爲スコトヲ得若シ之ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

(註)控訴ハ必スシモ全部ニ限ラス判決ノ一部ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス一部控訴ノ場合ハ全部移轉ノ效果ナシ唯タ其控訴ヲ爲シタル一部ニ付テノミ移轉ノ效果ヲ生スルニ過キス

(意義)判決ノ一部ニ對シテ控訴ヲ爲シ得ルモ其一部ニ限ルコトヲ明示セサレハ當然其全部ニ對シテ爲シタルモノト看做サル、ヲ以テ一部控訴ヲ爲スニハ必ス其旨ヲ明示セサルヘカラス而シテ一部控訴ハ事實ノ認定ニ付テハ不服ナリ法律ノ適用ノミニ付テ不服ヲ申立ツルトキハ是亦一部控訴ナリ何トナレハ此場合ハ事實ニ付テハ全ク異議ナク單ニ法律ノ適用其宜シキヲ得ルヤ否ニ付キ辯論シ裁判スヘキモノナレハナリ之ニ反シテ事實ノ認定ノミニ付キ控訴ヲ爲ストキハ外見亦一部控訴タルカ如キモ決シテ然ラス事實ノ審理ヲ爲シ其結果犯罪ノ事實ナシトセハ法律ヲ適用スル能ハス前ノ適用ヲ取消シテ無罪トナスヘ

ク又假令全ク無罪ニ非ストスルモ審理ノ結果前ニハ竊盜ノ事實ト爲セシテ詐欺取財ノ事實ト爲シ隨テ前ノ刑ヲ取消シテ新刑ヲ科スルコトアルヘク其他或ハ重罪ノ事實カ變シテ輕罪ノ事實トナリ或ハ輕罪ノ事實カ變シテ重罪トナルコトアルヘク皆其ノ法律ノ適用ヲ變セサルヲ得ス蓋シ事實ノ認定ハ本ナリ法律ノ適用ハ末ナリ本既ニ動ケハ末亦動クヘシ是レ事實ノ認定ニ關スル控訴ハ必スヤ全部控訴タル所以ナリトス

第二百五十二條

控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トス
闕席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得

(註)控訴ヲ爲スノ期間ハ本條ノ規定ニ依リ判決言渡アリタル日ヨリ五日トス此五日ハ總則ニ依リ其言渡アリタル日ノ翌日ヨリ起算ス無レトモ此規定ハ對席判決ニ對スルモノニシテ缺席判決ニ對シテハ第二項ニ依リ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
(理由)此場合ニ於ケル期間ハ三日ナリヤ五日ナリヤ又其起算點ハ何レニ在リヤ之ニ付テハ議論ニ說ニ分ル即チ本條第二項ニ「缺席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得」トアレハ之ヲ二様ニ解釋スルコトヲ得ヘク一ハ「故障ノ期間内故障ヲ爲サスシテ」ヲ一句トシ下文トヲ分チテ故障ノ間期即チ三日内ニ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スヲ得ト解釋スヘク隨テ普通控訴ノ期間即チ五日内ニ控訴ヲ爲

セハ可ナルコト、ナリ一ハ「故障ノ期間内」ヲ一句トシ下文ヲ一句トシテ故障ノ期間三日内ニ控訴ヲ爲スヲ得ト解釋スヘク隨テ三日内ナラサルヘカラサルコト、爲ル而シテ第二說ノ故障ノ期間タル三日内ニ控訴ヲ爲スヘキモノトスル說多シ予モ亦之ヲ信ス蓋シ第一說ノ如クナレハ法文「故障ノ期間内」ノ一語ハ全ク無用ノ冗文ニ販スヘク法文カ故サラニ此一語ヲ置キシハ控訴ヲモ三日内ト爲スコトヲ知ルヘシ治罪法ニハ其五日内タルコトヲ明記シ且欠席判決ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ヲ得ルニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得トノ旨ヲ規定セルニ改正ノ際之ヲ除去シ代フルニ「此故障ノ期間内」ノ一語ヲ以テセルモノナレハ此點ヨリ見ルモ五日ヲ改メテ三日ト爲セシモノナルヤ明カナリ且夫レ假リニ之ヲ五日ナリトセハ其五日ハ何日ヨリ起算スヘキ殆ト其起算點ナク已ムヲ得ス第一項ニ從ヒ判決言渡アリタル日ヨリ起算セサルヲ得サルニ至ル故ニ普通故障期間ノ起算點ニ從ヒ之ヨリ起算シテ三日ト爲サ、ルヘカラス

第二百五十三條 本案ノ判決ニ對スル控訴ノ期間内及ヒ控訴アリタルトキハ判決ノ執行ヲ停止ス

第二百五十四條 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ
裁判所ハ控訴ノ申立アリタルコトヲ速ニ相手方ニ通知ス可シ

(註)本條ハ控訴申立手續ヲ規定シタルモノナリ即チ其手續ハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘ

ク原裁判所ハ其申立アリタルコトヲ相手方ニ通知スヘシ即チ申立人カ被告人ナルトキハ檢事ニ檢事ナルトキハ被告人ニ通知スヘシ

第二百五十五條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(註)原裁判所ハ其判決ヲ爲セシト同時ニ其事件ヲ離レルヲ原則トスレトモ若シ控訴申立カ明ニ法定期間ヲ經過セルモノナルトキハ控訴裁判所ニ訴訟記録ヲ送致シ且被告人ヲ護送スル等ノ煩ヲ避クル爲メ本條ハ便宜上原裁判所カ審査ヲ爲シ期間ヲ經過セルモノトセハ決定ヲ以テ其申立ヲ棄却スヘキコト、爲セリ而シテ此決定ニ對シテ不服ナルトキハ抗告ノ申立ヲ爲スコトヲ得抗告ノ手續ハ今之ヲ略スルコト、ス

第二百五十六條 訴訟記録ハ檢事ヨリ控訴裁判所ノ檢事ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出ス可シ

公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ檢事ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移ス可シ

第二百五十七條 控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

(註)控訴ノ申立適法ニ成立スルトキハ原裁判所檢事ヨリ其申立書及ヒ訴訟記録ヲ控訴裁判所檢事ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出スヘシ而シテ被告人勾留ヲ受クルトキハ原裁判所檢事ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ移スヘキモノトス此場合ニ於テ控訴裁判所ハ期日ヲ定メテ訴訟關係人ヲ呼出シ其裁判ニ取掛ルヘシ其裁判ノ手續ハ本條ニ於テ之ヲ定メ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スヘシ

第二百五十九條 控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

(註)前ニ述ヘシハ單純ノ控訴即チ主タル控訴ナルカ之ニ反シテ附帶控訴ナルモノアリ本條

ハ之ヲ規定シテ曰ク「控訴ノ相手方ハ其裁判アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得」ト第二項ニハ「控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得」ト第一審ニ於ケル檢事ト被告人トハ互ニ相手方ニシテ檢事カ控訴セルトキハ被告人ヨリ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得又被告人カ控訴セルトキハ檢事ヨリ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ控訴裁判所ノ第一審ノ檢事ニ非スシテ控訴ノ相手方ニ非サルモ各裁判所ノ檢事ハ各々其職權ヲ異ニスルニ止マリ全國ノ檢事ハ皆同一体ト看做スモノナルヲ以テ是亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得セシムルモノナリ

第二百六十條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ期間ノ經過後ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

第二百六十一條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ス可シ

第二百六十二條 控訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消ス可シ此場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存シ又新ニ勾留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ

交付ス可シ

原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキハ其判決ヲ取消シ事
件ヲ其裁判所ニ差戻ス可シ

第二百六十三條

前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地方裁判所
自ラ其事件ニ付キ第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ
付キ判決ヲ爲ス可シ但事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ
從ヒ處分ス可シ

(註)元來控訴ハ其申立ノ理由ニ制限ナク單ニ原裁判ニ服セストノ一點ヲ以テ之ヲ申立ツル
コトヲ得ルモノトス而シテ原裁判ニ不法ノ點アレハ被告人ノ主張以外ナリト雖モ控訴裁判
所ハ其點ヲ取消シテ更ニ裁判スヘク即チ控訴ニ理由アリト爲スヘシ蓋シ控訴スルニ足ルヘ
キ總テノ理由ハ當然控訴中ニ包含セルモノトス

原裁判所カ管轄違ナルコトヲ認メタルトキハ亦原判決ヲ取消スヘシ管轄違トハ豫審及ヒ第
一審ニ於ケルト同一ナリ民事訴訟法ニ於テハ管轄違ハ司法裁判所ノ間ニ於ケル事物ノ管轄
土地ノ管轄ニ付テ云フモノニシテ司法裁判所ヲ離レ例ヘハ行政裁判所ニ屬スヘキモノニ付
テハ管轄違トセスシテ權限外ナリト爲セリ故ニ民事訴訟法ヲ研究スルモノハ其精神ヲ刑事

訴訟法ニ移シテ例ヘハ軍法會議ニ屬スヘキ事件ヲ刑事裁判所ニ訴ヘタルトキハ管轄違ニ非
スシテ權限外ナリト云ヘリ然レトモ刑事訴訟法ノ管轄ナルモノハ管ニ土地事物ニ關スルノ
ミナラス特別裁判所ノ權限ニ屬スルモノニ付テモ亦管轄違ノ稱ヲ下セリ

第二百六十四條

控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事
件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又
ハ附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取
調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ(刑法施行法ニ依リ改正)

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セサルトキハ第二百三十七條
第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ

(註)本條ヲ解スルニハ四個ノ場合アリ之ヲ左ニ説明スヘシ

第一ハ檢事カ輕罪ナリト思料シ豫審ヲ求メスシテ直チニ地方裁判所ノ公判ニ起訴シ公判

ニ於テ輕罪ナリトシテ判決シタルニ控訴院カ之ヲ重罪ナリトスルトキ

第二ハ檢事カ複雑ナル輕罪ナリト思料シ豫審ヲ求メ豫審判事ハ決定ヲ以テ輕罪公判ニ付

シ其公判ニ於テ亦輕罪ナリトシテ判決シタルニ控訴院カ之ヲ重罪ナリトスルトキ

第二ハ豫審ヲ經タル事件ニシテ豫審判事カ重罪公判ニ付スル決定ヲ爲シ公判ニ於テ審理ノ結果輕罪トシテ判決シタルニ控訴院カ重罪ナリトスルトキ但シ以上ノ場合即チ法文「輕罪ナリト判決シタル事件」トハ輕罪ノ刑ヲ言渡シタル事件ニ非スシテ必ス罪ノ輕罪ナルヲ要ス重罪ナルモ有恕減輕等ニ因リ輕罪ノ刑ヲ言渡セシモノ、如キハ之ニ包含セス以上ハ皆本條ニ依ルヘキモノトス然ルニ更ニ第四ノ場合アリ即チ地方裁判所ニ於テ豫審終結ニ依リ公訴ヲ受理シタルトキ檢事ヨリ直チニ其公判ニ起訴シタルトキトテ問ハス之ヲ輕罪ナリトシテ審理シタル結果無罪ノ判決ヲ爲シ檢事ヨリ輕罪トシテ控訴セルニ控訴院カ之ヲ重罪ナリトスル場合又ハ檢事ヨリ重罪トシテ控訴シタル場合アルモ此等ノ場合ハ此本條ノ場合ニ包含セス何トナレハ「輕罪ナリト判決シタル事件」トアリテ無罪ナリト判決シタル場合ヲ包含セサレハナリ是ヲ以テ此場合ハ本條ニ依ルコトヲ得ス然レトモ檢事ヨリ直チニ公判ニ起訴シタル事件ニ付テハ控訴院カ重罪ナリトスルニ拘ハラズ本條ニ依ラサルトキハ全ク豫審ヲ經サルコト、爲ルヲ以テ法律ノ精神ニ適セサルカ如シ

第二百六十五條 被告人、辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス
被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百六十六條 控訴申立人出頭セサルトキハ闕席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ欠席判決ヲ爲スヘシトアリ第一審ニ於テ被告人ノ出頭セサルトキト全ク異ナレリ「控訴申立人」トハ控訴ヲ申立テタル檢事又ハ被告人ヲ指スモ檢事ハ決シテ欠席スルコトナキモノナルヲ以テ本條ハ結局被告人ノ欠席セル場合ニ關ス而シテ第一審ニ於テハ被告人欠席スルモ法律上必スシモ此カ爲メニ有罪ナリト推定セス裁判所ハ對席ノ場合ト同シク事件ノ審理ヲ爲シ證據ヲ取調ヘ自由ニ有罪又ハ無罪ノ判決ヲ爲シ得ヘク被告人ハ毫モ欠席ノ爲メ不利益ナル推測ヲ受ルコトナキモ控訴ニ於ケル欠席ノ場合ハ被告人欠席ノ一事ニ因リ全ク本案ノ審理ヲ爲サス直チニ控訴ヲ棄却スヘシ即チ其欠席ハ第一審ノ判決ニ服従シタルモノト推定スルモノニシテ欠席ニ對スル一ノ制裁タリ而シテ之ニ反シ控訴申立人ハ檢事ニシテ被告人ハ被控訴人タルニ欠席シタルトキハ十分ニ本案ノ取調ヲ爲シ控訴ノ申立相當ナレハ有罪ノ判決又ハ更ニ重キ刑ノ言渡ヲ爲スコトアルヘク又其申立理由ナケレハ被告人ハ其欠席セルニ拘ハラズ第一審ノ判決ヲ執行サル、コト、爲ルナリ
尙ホ本條ニ付キ私訴ノ控訴ニ關シテ述フレハ私訴ニ付テ「控訴申立人」トハ民事原告人

(註)本條ハ「控訴申立人出頭セサルトキハ欠席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ欠席判決ヲ爲スヘシ」トアリ第一審ニ於テ被告人ノ出頭セサルトキト全ク異ナレリ「控訴申立人」トハ控訴ヲ申立テタル檢事又ハ被告人ヲ指スモ檢事ハ決シテ欠席スルコトナキモノナルヲ以テ本條ハ結局被告人ノ欠席セル場合ニ關ス而シテ第一審ニ於テハ被告人欠席スルモ法律上必スシモ此カ爲メニ有罪ナリト推定セス裁判所ハ對席ノ場合ト同シク事件ノ審理ヲ爲シ證據ヲ取調ヘ自由ニ有罪又ハ無罪ノ判決ヲ爲シ得ヘク被告人ハ毫モ欠席ノ爲メ不利益ナル推測ヲ受ルコトナキモ控訴ニ於ケル欠席ノ場合ハ被告人欠席ノ一事ニ因リ全ク本案ノ審理ヲ爲サス直チニ控訴ヲ棄却スヘシ即チ其欠席ハ第一審ノ判決ニ服従シタルモノト推定スルモノニシテ欠席ニ對スル一ノ制裁タリ而シテ之ニ反シ控訴申立人ハ檢事ニシテ被告人ハ被控訴人タルニ欠席シタルトキハ十分ニ本案ノ取調ヲ爲シ控訴ノ申立相當ナレハ有罪ノ判決又ハ更ニ重キ刑ノ言渡ヲ爲スコトアルヘク又其申立理由ナケレハ被告人ハ其欠席セルニ拘ハラズ第一審ノ判決ヲ執行サル、コト、爲ルナリ
尙ホ本條ニ付キ私訴ノ控訴ニ關シテ述フレハ私訴ニ付テ「控訴申立人」トハ民事原告人

ヨリ申立テタルトキハ其原告人被告人ヨリ申立タルトキハ其申立テタル各部分ニ付キ各其申立人ト爲ル而シテ私訴ニ付テハ双方自ラ出頭スルヲ要セス代理人出頭スレハ則チ對席判決タルヘキモノトス

第三章 上告

(註)上告ハ控訴ト同シク上訴ノ一種ナルモ控訴トハ大ニ其趣ヲ異ニシ控訴ハ通常ノ上訴ナルモ上告ハ寧ロ非常ノ上訴ト云フヘク控訴ハ其理由ニ制限ナク如何ナル理由ヲ以テスルモ之ヲ申立ツルコトヲ得レトモ上告ハ單ニ原判決カ法律ニ違背ストノ一理由ニ限り其他ノ理由ニテハ之ヲ申立ツルコトヲ得ス隨テ上告ニ於テハ裁判所ハ事實ノ審理ニ立入ルノ權ナク唯タ些少ノ例外ノ場合及ヒ大審院ノ特別權限ニ屬スル場合ノミ其職權アルニ過キス專ラ法律ノ正當ニ適用セラレシヤ否ヤヲ審査スルモノニシテ其區域甚タ狹隘ナリ
上告ハ性質ノ全ク異ナレハ二種ノモノアリ一ハ單ニ上告ト稱シ他ノ一ハ非常上告ト稱ス左ニ之ヲ分説スヘシ

第二百六十七條 上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

(註)上告ハ如何ナル裁判ニ對シテ爲スコトヲ得ルヤニ付テハ本條ハ上告ハ地方裁判所又ハ

控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決(管轄違及ヒ公訴不受理ノ申立ヲ棄却シタル判決)ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ト云ヘリ之ニ付テモ亦一ノ疑問アリ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ欠席判決ヲ爲シタルトキ其判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ

(意義)欠席判決ニ對シテハ故障ヲ爲サシテ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得ルヤ控訴ニ付テハ其明文アルモ上告ニ付テハ此等ノ規定ナキヲ見レハ之ヲ許サ、ルモノタルヤノ疑ヒナキニアラス然レトモ本條ニハ「上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ本案前ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ」得トアリテ其判決ノ對席ナルト欠席ナルトヲ區別セサルヲ以テ欠席判決モ亦此中ニ包含スルモノト爲スヘク隨テ欠席判決ニ對シ直チニ上告ヲ爲シ得ルモノト云ハサルヘカラス而シテ其上告ノ期間及ヒ起算點ニ付テハ特別ノ規定ナキニ因リ對席判決ノ場合ト同一ナリト云ハサルヘカラス

第二審判決ニ對シテハ此ノ如ク對席ナルト欠席ナルトヲ問ハス上告ヲ爲シ得ルモ第一審判決ニ對シテハ如何ナル場合ニモ上告ヲ爲シ得サルハ當然ニシテ決定ニ對シテモ亦然リ唯タ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スニ際シ其理由ニ於テ決定ニ對スル不服ヲ申立ツルハ妨ナシ即チ判決ニ對スル上告ト同時ナレハ決定ニ對シテモ上告ヲ爲スコトヲ得ト云フヘシ然レトモ決定ニ對シテハ例外トシテ抗告ト云フ上訴ノ途アリ然リト雖モ抗告ハ如何ナル決定ニ對シテモ爲シ得ヘキニ非ス特別ノ規定アリテ之ヲ許シタル場合ニ限ル即チ第二

百九十三條ニ「抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得」トアルハ是ニシテ此場合ニ抗告ヲ爲シテ確定シ又ハ之ヲ爲サスシテ確定シタルトキハ假令ヒ判決ヲ攻撃スルト同時ナルモ其決定ニ不法ナル理由ヲ以テ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十八條

上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

(註)法律ハ如何ナル場合ニ於テ上告ヲ爲スコトヲ許スヤト云ハ、原裁判カ法律ニ違背シタルモノナルコトヲ理由トスル場合ニ限ル故ニ第二審ノ判決其モノカ法律ニ違背シタルトキハ勿論判決其モノカ違背セサルモ其判決ヲ爲スニ付テノ手續カ法律ニ違背シタルトキ亦上告ノ理由ト爲スヲ得ヘシ蓋シ審理ノ手續ニ違法ノ點アレハ其結果ハ判決ノ上ニ影響ヲ及ホスヲ免レス故ニ此場合モ亦上告ノ理由ト爲シ得サルヘカラス然レトモ審理ノ手續ニ違法アレハ極メテ些少ノ點タル場合ト雖モ上告ノ理由ト爲シ得ヘシト云フニ非ス苟モ其ノ手續ノ違法ニシテ本案ノ判決ニ何等ノ影響ヲ及ホサ、ルモノハ本案ノ判決ヲ攻撃スルノ理由ト爲スヲ得ス之ヲ要スルニ手續上ノ違法ハ判決ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノハ上告ノ理由ト爲スヲ得ルモノニ反スルモノハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第二百六十九條

裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第三 判事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラス裁判ニ參與シタルトキ

第四 裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違ヲ不當ニ認メタルトキ

第五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルトキ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルトキ

第八 判決ヲ公行セス又ハ公開ヲ禁スル言渡ナクシテ辯論ヲ公ニセサルトキ

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルトキ

第十 擬律ノ錯誤アルトキ

(註)手續ノ違法カ判決ニ影響ヲ及ホスハ如何ナル場合ナリヤ豫メ列舉シ得ヘキ所ニ非ス且同一手續ノ違法ト雖モ或ハ影響ヲ及ホシ或ハ影響ヲ及ホサスシテ之ヲ定ムルヲ得ス故ニ原則トシテハ手續ノ違法カ判決ニ影響ヲ及ホスト否ト即チ上告ノ理由ト爲シ得ルト否トハ上告裁判所ノ認定ニ一任シタルモノト云ハサルヘカラス但タ或場合ニ於テハ必ス之ヲ違法トシテ上告ノ理由ト爲サシムヘキモノナリ即チ本條ニ掲クル第一ヨリ第十二至ル十種ノ場合ハ法律上豫メ之ヲ定メテ裁判所ノ認定ニ委セス必ス上告ノ理由ト爲ヌヲ得ヘク隨テ原裁判ヲ破毀スヘキモノタリ而シテ本條ニ「常ニ法律ニ違背シタルモノトス」トアル常ニノ一語ハ注意セサルヘカラス此常ニトハ裁判所カ常ニ必ス職權ヲ以テ法律ニ違背シタルモノト判決スヘシトノ謂ニアラス即チ假令上告申立人カ此點ノ違法ナルコトヲ申立テ、上告ノ理由ト爲サ、ルモ裁判所ハ尙ホ此點ヲ審査シ原裁判ヲ破毀スルト云フニ非ス唯タ上告申立人カ此點ヲ擧ケテ上告理由ト爲シタルトキハ裁判所ハ其違法ナルヤ否ヤヲ審査シ違法ナルトキハ破毀ノ原由ト爲サ、ルヘカラスト云フニ過ギス

第二百七十條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ニ背キタルコト又ハ土地ノ管轄違アリト雖モ

上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

(註)前ニ述タル理由ハ上告ノ理由ト爲ヌヲ得レトモ然レトモ其事實アルモ特ニ上告ノ理由ト爲ヌヲ得サルコトアリ本條ノ規定ハ即チ是レナリ是レ通則ニ於テ述ヘタル所ノ被告人ハ自己ノ利益ナル判決ヲ受ケタルトキハ其不利益ノ上告ヲ爲スコトヲ得ストノ原則ノ精神ニ外ナラス

第二百七十一條 上告申立ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ三日トス

(註)上告ヲ申立ツルニハ又上告趣意書ヲ差出サ、ル可カラス但タ之ヲ差出スニハ上告申立書ト同時タルヲ要セス其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ナレハ可ナリ即チ申立ハ判決言渡アリタル日ヨリ三日内ニシテ趣意書ハ其申立ノ日ヨリ五日内タルヘキナリ

上告趣意書トハ上告ノ理由ヲ掲クルモノニシテ實際ハ重キヲ置カス其他更ニ上告辯明書及ヒ上告擴張書ナルモノヲ差出シ得ヘク此等ハ其名稱ヨリスレハ其ノ趣意書ノ事項ヲ辯明シ擴張スルニ止マリ全ク新ナル事項ヲ申立ツルコトヲ得ヌ之ヲ申立ツルモ無効タルヘキカ如キニモ慣例ハ之ニ反シ新事項ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ蓋シ實際ニ於テハ原裁判ノ手續上ノ瑕疵ノ如キ判決言渡書ニ依リテハ固ヨリ知ル能ハス公判始末書ヲ閱覽セサレハ發見スヘカ

ラサルモノナルヲ以テ僅ニ五日ノ期間内ニハ其始末書ヲ閱覽シ瑕疵ヲ發見シテ上告理由ノ論點ヲ枚擧スル能ハス隨テ上告趣意書ヲ其期間内ニ差出サシムルニ至當ナラス然トモ是レ法律ノ命令セシ所ナルヲ以テ其期間ヲ經過スルヲ得ス之ヲ經過スレハ上告ハ成立セスシテ當然棄却サル、ヲ免レス是ニ於テ乎其期間後ニ至リテモ別ニ辯明書等ノ差出ヲ許スモノトナシ且新事項ヲ掲クルコトヲ許スナリ

第二百七十二條 本案ノ判決ニ對スル上告ノ期間内及ヒ上告ノ申立アリタルトキハ勾留及ヒ放免ノ言渡ヲ除ク外判決ノ執行ヲ停止ス

(註)上告ノ有無ヲ問ハス第二審判決言渡ノ後直ニ刑ノ執行ヲ爲シ得ヘシトセハ被告人ヲシテ亦回復スヘカラサル損害ヲ蒙ラシムル結果ヲ生ス故ニ原則トシテハ上告期間内及ヒ上告ノ申立アリタル場合ニ執行ヲ停止スヘキモノトス然レトモ此原則ハ絶對ニ適用シ難キノ事情アルヲ以テ本條ニ二個ノ例外ヲ規定セリ

第一 拘留ノ言渡アリタル場合 第二審ニ於テ拘留言渡アル場合ニ之ヲ執行スルモ他日無罪又ハ免訴ノ判決アルニ際シ之ヲ放免スルハ實ニ一舉手一投足ノ勞ノミ之ニ反シ若シ之ヲ執行セス自由ニ放任センカ被告人ハ逃亡奔竄シ他日上告ノ申立ヲ棄却シ原判決ヲ認可セル場合ニ亦之ヲ逮捕スル實ニ容易ノコトニアラス之レ此例外アル所以ナリ

第二 放免ノ言渡アリタル場合 放免ノ言渡ハ無罪ノ被告人ト看做スヘキ者ニ對シ之ヲ

爲スモノナレハ一旦之カ言渡ヲ爲シタル者ヲ拘束スルカ如キハ事理ニ適スル者ト謂フヘカラス之レ此例外アル所以ナリ

第二百七十三條 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所上告申立書ヲ受取りタルトキハ速ニ其謄本ヲ相手方ニ送達スヘシ(四十一年改正)

(註)上告申立書トハ第七十一條ニ於テ述タル如ク上告趣意書ト同時ニ之ヲ差出スモノニアラス而シテ其申立書ヲ差出スハ原裁判所ナリ即チ原裁判所ノ判決ニ對シ不服ナルカ故ニ上告ヲ爲スヘシト云フニ在リ

原裁判所ハ上告申立書ヲ受取りタルトキハ日時ノ定メナキモ速カニ其謄本ヲ相手方ニ送達スヘシトス相手方トハ此上告ニ依リテ利害ノ關係ヲ有スル者ヲ謂フ

第二百七十四條 法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタル上告ノ申立ハ原裁判所決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得(同上)

(註)上告申立ニハ一定ノ方式アリ又第二百七十一條ノ規定セル如ク判決言渡アリタル日ヨリ三日内トス若シ此ノ方式又ハ期間ヲ經過シタル上告申立ナルトキハ原裁判所ハ之ヲ受理

スルコトヲ得ス即チ決定ヲ以テ之ヲ棄却セサルヘカラス然レトモ上告人ハ原裁判所カ與ヘタル決定ニ對シテ服従スヘキ義務ナシ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二百七十五條

上告ノ申立適法ナルトキハ原裁判所ハ訴訟記録ヲ其裁判所檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ
上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記録ヲ其裁判所ニ送致スヘシ(同上)

第二百七十六條

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢事ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キモノトシテ上告爲シタル場合ニ於テ被告人自ラ辯護士ヲ選任セサルトキハ上告裁判所長ハ其裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ(同上)

(註)上告裁判所ハ事實ノ審理ヲ爲サス唯タ原裁判カ法律ニ違背セルヤ否ヤヲ審理スルニ過キサルモノナレハ上告裁判所ニ於テ被告人ヲ呼出シテ其陳述ヲ聽クコトヲ要セス故ニ如何ナル場合ニ於テモ決シテ之ヲ呼出スコトナシ被告人ハ唯タ辯護士ヲシテ出頭辯護セシムルヲ得ルノミ而シテ其辯護士ハ必ス辯護士タルコトヲ要シ辯護人ヲ以テ出頭セシムルコトヲ得ス被告人自ラ辯護士ヲ選任セサルトキハ上告裁判所長ハ其裁判所々屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スルコト、ス

第二百七十七條

上告裁判所ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ三十五日前ニ其期日ヲ上告申立人及ヒ相手方ニ通知ス可シ但辯護士ヲ選任シタル者ニ付テハ此限ニ在ラス
最初ニ公判期日ヲ定ムル前選任シタル辯護士ニ對スル呼出狀ノ送達ト最初ニ定メタル公判期日トノ間ニハ少クトモ二十五日ノ猶豫ヲ存ス可シ(同上)

(註)本條ハ上告ヲ理由アリトシテ上告裁判所カ受理シタル時其ノ公判期日ヲ定メタルニ付テ之ヲ其上告人及ヒ相手方ニ通知スヘキ日數ヲ規定シタルモノナリ

本條カ此ノ日數ヲ規定スルハ上告人及ヒ相手方ニ於テ辯護士ヲ選任スルニ必要ナル時日ト見ルヘシ何トナレハ但書ノ規定ニ於テ辯護士ヲ選定シタル者ニ付テハ此限ニ在ラストスレハナリ然ラハ則チ辯護士ヲ選任シタル者ニハ三十五日ヨリ少キ時日前ニ此通知ヲ爲スモ妨ケナシトス

辯護士ヲ選任シタルコトカ最初ニ公判期日ヲ定ムル前ニ在リシトキハ其辯護士ハ公判期日ヲ未タ知ラサル者ナレハ第一項ノ如ク上告人ニ通知スヘキ日數ヲ以テ公判期日ヲ定ムルモノトス

第二百七十八條

上告申立人ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十

五日前趣意書ヲ上告裁判所ニ差出ス可シ(同上)

第二百七十九條

上告ノ相手方ハ前條ノ期間内ニ上告爲スコトヲ得前項ノ上告ハ趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スニ依リテ之ヲ爲ス可シ(同上)

(註)本條ハ上告相手人ニ附帶上告ヲ許スノ規定ナリ

相手人カ上告ヲ爲スニモ其期間ハ前條ノ定ムル所ニ從ハサルヘカラス而シテ其手續ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シタルトキハ上告ハ成立スルモノナリ

第二百八十條

上告裁判所趣意書ヲ受取りタルトキハ速ニ其謄本ヲ相手方ニ送達ス可シ(同上)

第二百八十一條

上告ノ相手方ハ趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

上告裁判所答辯書ヲ受取りタルトキハ速ニ其謄本ヲ上告申立人ニ送達ス可シ(同上)

(註)本條ハ答辯書ヲ差出スニ付テノ規定ナリ而シテ本條ハ許可法ニシテ命令ニアラス是上告申立書ヲ差出サ、ル時ハ裁判所ニ於テ告ケサルヲ理由トスルカ故ニ裁判所ハ必ス之ヲ待

ツノ必要アリ又上告趣意書ヲ差出サ、レハ上告ノ趣意ヲ知ルコト能ハサルカ故ニ之亦必ス之ヲ呈出スルヲ待タサルヘカラス之ニ反シテ答辯書ヲ差出サ、ルモ裁判所ハ答辯ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ上告人ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ特ニ本條ノ許可法ヲ規定シタルモノナリ

第二百八十二條

裁判長ハ受命判事ヲ定ムルコトヲ得受命判事ハ趣意書及答辯書ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ(全上)

第二百八十三條

檢事ニ非サル者辯論ヲ爲スニハ辯護士ヲ差出ス可シ受命判事ハ辯論前其報告書ヲ朗讀ス可シ

檢事及辯護士ハ趣意書ニ掲ケタル事項ノ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ(全上)

(註)上告ハ前ニ述ヘタル如ク上告人ハ法廷ニ出頭ス可キ者ニ非ザレハ上告人又ハ相手方ニ代テ辯論ヲ爲ス者ハ「檢事ニ非サル者辯論ヲ爲スニハ」トアリ即チ上告人等ニ代テ辯論ヲ爲ス者ヲ指シタルコト明カナリ此ノ辯論ヲ爲ス者ハ辯護士ヲ差出スコト、ス辯論前ニハ受命判事ハ先ツ報告書ヲ朗讀スルモノトス此報告書ヲ差出スマテハ上告人及ヒ

相手方ハ其趣意書ヲ擴張スヘキ辯明書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得ルナリ
第二項ノ規定ハ檢事及ヒ辯護士ノ辯論ニ付テ制限シタルモノナリ即チ上告ノ趣意書ニ記載
シタル事項ノ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲スヘシトス故ニ此ノ事項ノ範圍内ノ外ニ涉リテ辯論ス
ルコトヲ得サルナリ

第二百八十四條 上告申立人又ハ相手方ヨリ辯護士ヲ差出ササルトキ
ハ其儘ニテ判決ヲ爲スコシ

(註)上告申立人又ハ相手方ニ於テハ必ス辯護士ヲ差出サ、ルヘカラスト定メタルニ非サレ
ハ若シ辯護士ヲ差出サ、ルトキハ裁判所カ之ヲ選任シテ差出スヲ要セス即チ辯論ヲ用ヒス
シテ判決ヲ爲スモノトス

第二百八十五條 左ノ場合ニ於テハ上告裁判所判決ヲ以テ上告ヲ棄却
ス可シ

- 第一 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタルトキ
- 第二 期間内趣意書ヲ差出ササルトキ
- 第三 上告理由ナキトキ(四十一年改正)

(註)上告ハ法律ニ違背スル點ヲ以テ其理由ト爲スモノナレハ上告裁判所ハ事實ニ付テ審理

ヲ爲サ、ルカ故ニ判決モ亦法律違背ノ點ニ付テ之ヲ下スモノナリ然レトモ上告カ適法ニ成
立セサルトキ又ハ上告ハ成立スルモ其趣旨ノ理由ナキトキ又ハ上告ノ理由アリテ原裁判ノ
不當ヲ認ムルトキ各々之カ判決ヲ異ニスルモノナリ

第一 上告カ法律上ノ法式ニ背キ又期間内ニ於テ爲サ、ルトキ上告ヲ爲スニハ法律ニ定
メタル法式及ヒ期間ヲ守ルヲ要ス然ルニ之ヲ遵守セスシテ上告ヲ爲シタルトキハ原裁
判ノ當否ヲ問ハス上告ハ成立セス上告裁判所ハ未タ原判決ノ當否ヲ判斷スルノ責任ナ
シ

此ノ場合ニ於テモ原裁判ハ形式上ノ上告アルカ爲メニ確定ヲ妨ケラレツ、アルヲ以テ
訴カ不法ナリトテ何等ノ判決ヲ下サ、ルニ非ス依テ上告カ不成立ナリト云フノ理由ヲ
以テ棄却ノ判決ヲ爲サ、ルヘカラス上告ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ原裁判所
ニ於テ決定ヲ以テ其上告申立ヲ棄却スルノ權アリ若シ原裁判所カ期間ノ經過ヲ知ラス
シテ訴訟記録ヲ上告裁判所ニ送致シタルトキハ上告裁判所自ラ職權ヲ以テ之ヲ調査シ
己ニ期間ヲ經過シタル者ナルトキハ棄却ノ判決ヲ爲スモノナリ

第二 上告理由ナキトキ 上告カ成立シタルトキハ上告裁判所ニハ上告ノ趣旨ノ當否ヲ
審理シテ其趣旨ヲ適法ノ理由ナシトシタルトキハ上告ノ理由ナキモノトシテ棄却ノ判
決ヲ爲スヘシ上告ノ趣旨ニ因リテ原判決ヲ査閱スルニ一モ法律ニ違背シタルノ點ナキ
トキハ上告ハ理由ナキナリ其理由ナキトキハ原判決ハ完全無缺ノモノナルヲ以テ上告

ヲ棄却シ原判決ヲシテ確定セシム

第二百八十六條

上告ヲ理由アリトスルトキハ其上告ニ係ル判決ノ部分ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス可シ但後二條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

(註)上告人カ原裁判ヲ不當ナリトシタル趣旨ニ因リ原判決ヲ査閲シ果シテ違法ノ點アルトキハ上告ハ理由アルモノトス此場合ニ於テハ上告裁判所ハ上告趣旨ノ如何ニ因リ判決ヲ異ニス即チ三個ノ場合ニ之ヲ區別スヘシ而シテ本條ハ其中ノ一個ニ付テ説明スヘシ

第一 上告裁判所カ本案ニ判決ヲ與フルコトヲ得サルトキ

上告ノ理由アルトキハ原判決ハ違法ナルヲ以テ之ヲ破毀スヘシ其破棄ノ結果原判決ニ認定シタル事實ニ變更ヲ生スルコトヲ得ヘキトキハ更ニ事實ノ審理ヲ爲サルヘカラス凡ソ判決ハ事實ニヨリテ法律ノ適用ヲ異ニスルモノナレハ此場合ニ於テ上告裁判所自ラ法律ノ適用ヲ爲スコトヲ得ス故ニ原判決ヲ破毀シ之ヲ他ノ裁判所ニ移スノ判決ヲ爲スモノトス如何トナレハ上告裁判所ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲スコトヲ得サレハナリ

第二百八十七條

擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ判決ヲ破毀シタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス可シ

第二百八十八條

公判ノ手續規定ニ背キタルコトアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホササルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク其手續ヲ破毀ス可シ

(註)前條ニ於テ述ヘタル三個中ノ第二ニ付説明セハ即チ左ノ如シ

第二 上告裁判所カ本案ニ判決ヲ與フルコトヲ得ヘキトキ

上告理由アリタルトキハ原判決ニ違法アル場合ナレトモ其違法ハ原判決ノ認定シタル事實ニアラスシテ法律ノ適用ノミナルトキハ上告裁判所ハ直チニ其事實ニ對シ法律ヲ適用スルコトヲ得ヘシ又手續ノミニ對スル上告ニシテ其違法ノ點明了ナルトキハ上告裁判所ハ直チニ其當否ヲ審査スルヲ得ヘシ即チ第二百八十八條ノ場合是ナリ此ノ場合ハ手續ノミノ破毀ニ止マルト雖モ上告裁判所本案ノ判決如何ハ必ス之ヲ鑑査セサルヘカラス否ラサレハ其違法ノ手續ニ止マルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルナリ斯ク上告裁判所ニ於テ本案ニ判決ヲ與フルコトヲ得ヘシトスレハ原判決ヲ破毀シテ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送スルノ必要ナク自ラ判決ヲ下シテ事件ヲ落着セシムヘキナリ

上告ノ理由アルトキ上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲スハ左ノ場合ナリトス
(理由)第一 擬律ノ錯誤アルトキ 原判決ニ擬律ノ錯誤アル場合ハ原判決ノ認メタル事實ニ適用シタル法律カ其當ヲ得スト云フニ止マリ上告裁判所ニ於テハ如何ナル法ヲ適用ス

可モノナルヤヲ判別シ得ル場合ナリ故ニ直チニ其法律ヲ適用ス例ヘハ原判決ハ詐欺取財ノ事實ヲ認定シ之ニ適用スルニ委託物費消罪ノ法律ヲ以テシ上告人ハ委託物費消罪ノ法律ヲ適用シタル不當ナリトノ論告ヲ爲シタリトセンニ此場合ニ於テハ上告ハ擬律錯誤ノ理由トスルモノニシテ而シテ其上告ハ理由アルモノナリ依テ上告裁判所ハ直ニ詐欺取財ノ法律ヲ適用シテ以テ本案ニ對スル判決ヲ下ス

第二 法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルトキ 本法第六條ニ定メタル第一乃至第六ノ理由アリテ公訴ノ已ニ消滅シタルニモ拘ハラス尙ホ其事件ニ對スル訴ヲ受理シ審判シタルトキハ其裁判ハ固ヨリ違法ナリト上告ニ依リ已ニ公訴權ノ消滅シタルコトヲ上告裁判所ニ於テ鑑査シ得タル以上ハ最早事實ノ點ニ審査スヘキコトナシ故ニ直チニ上告裁判所ニ於テ判決ヲ下シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘク事實裁判所ニ移シテ審理判決ヲ爲サシムルノ必要ナシ

裁判所ハ檢事ノ請求アリテ公訴ノ起ルニ非サレハ審理判決スルコトヲ得ス然ルニ今爰ニ一ノ裁判アリテ檢事ノ起訴カ法式ノ欠缺其他ノ理由ニ依リ正當ナラサルモノニシテ審理判決ヲ與ヘタルコトアリトセンカ此場合ハ即チ第二百八十七條ノ所謂法律ニ背テ公訴ヲ受理シタルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ檢事ノ起訴ニ付キ法律ノ規定アルニ其規定ニ從ハサル公訴ヲ受理シタルモノナレハナリ而シテ此場合ハ請求ヲ受ケサル事件ニ付テ判決ヲ爲シタルト甚タ相類似スト雖ドモ彼レハ形式タモ請求ナキ場合ヲ云フモノニシ

テ此ハ其實受理スヘカラサルノ公訴ナルモ形式上公訴アリタルモノヲ云フ

第三 公判ノ手續規定ニ背キタルトキ 公判ノ手續規定ニ背キタルコトアル場合ニ於テ之ヲ上告ノ理由トシテ上告ヲ爲シ其上告カ理由アリタルトキハ原判決違法ナルヲ以テ之ヲ破毀セサルヘカラス其手續ノ法律ニ背キタルカ本案ノ判決ニ影響ヲ及ホスト影響ヲ及ホサ、ルトニ依テ上告裁判所ノ判決ヲ異ニスルモノトス

公判ノ手續規定ニ背キタルモ其後ノ手續ニ利害ノ影響ヲ及ホサ、ル時ハ本案ノ判決ヲ破毀シテ他ノ裁判所ニ移送シ審理判決セシムルコトヲ爲サ、ルナリ是レ第二百八十六條ノ規定ナリ

第二百八十九條 判決ノ一分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分

ニ關係アルトキハ其部分ヲモ破毀ス可シ

擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被告人ノ利益ノ爲メニ判決ヲ破毀シタルトキハ其利益ハ上告ヲ爲ササル共同被告人ニモ及ホス可シ

(註)判決全部ニ對シテ上告スルニ非スシテ判決ノ一部ニ對シテ上告ヲ爲シ破毀ノ理由アルトキハ其一部ヲ破毀スヘキハ勿論ナルモ破毀カ他ノ上告ニ係ラサル部分ニ關係アルトキハ其關係アルヤ否ヤハ上告裁判所ノ判定ニ任シテ法律ハ之ヲ規定スルコトナシ例ヘハ一ノ判

決アリ訴訟關係人ヨリ沒收ノ部分ニ付テ上告ヲ爲シ單ニ沒收ノ點ニ付テノミ原裁判ノ失當ヲ判斷シ判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ本案ニ對シテ關係ヲ及ホスコトヲ以テ沒收ノ一部ヲ破毀スヘク全判決ヲ破毀スルノ必要ヲ見ス然レトモ若シ其沒收シタル物件カ果シテ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヤ明カナラサルトキハ本案全体ニ關係ヲ及ホスモノニシテ全判決ヲ破毀セサルヘカラス如何トナレハ本案ノ判決ハ沒收シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヤ否ヤノ事實未確定ニシテ或ハ本案ノ事實ニ變更ヲ生スルヤモ知レサレハナリ判決ノ一部ニ對シ上告アリテ他ノ一部ニ關係アルトキハ破毀ヲ其部分ニ及ホスモノナルモ共同被告中ノ一人カ申立テタル上告ノ理由ヲ他ノ共同被告人ノ上告ニマテ及ホスコトヲ得ヘカラス本條第一項ノ規定ハ全ク一箇ノ判決ニシテ其一部ニ對スル上告アリタル場合ニシテ其上告人ノ一人ノ上告ヲ他ノ上告人ニ及ホスノ注意ニアラス

(理由)本條第一項ハ上告ニ關係ナキ部分ニテモ關係アレハ之ヲ破毀スヘシトス蓋シ若シ此ノ如クセスシテ其部分ノミヲ破毀スル時ハ破毀ノ後更ニ裁判ヲ爲スコトヲ得サルノ結果アルカ故ナリ

本條第二項ハ擬律ノ錯誤ノ場合ト公訴受理ス可カラサル時ニ受理シタルノ違法アル場合ニ限リテ其上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニモ及ホスモノトセリ本條ハ被告人ヨリ上告ヲ爲シ又ハ檢事カ被告人ノ利益ノ爲メ上告シタル場合ナルコトヲ了知セサルヘカラス即チ第二項ニ其利益ハ上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニモ及ホスヘシトアルヲ以テ甲被告ニ對シ檢

事ヨリ公益ノ爲メニ上告ヲ爲シ重刑ヲ科シタルニ依リ之ヲ他ノ上告ニ與カラサル共同被告人ニモ及ホス可シト云フカ如キ法意ニ非サルコト明カナリ

原裁判所カ法律ノ適用ヲ誤リ被告人若クハ檢事ヨリ擬律ノ錯誤アリトシテ上告ヲ爲シ其上告理由アリタルトキハ上告裁判所ハ直チニ法律ヲ適用スルモノナリ而シテ其犯罪事件ハ上告人一人ノ犯罪事件ニ非スシテ他ニ共同被告人アル時ハ其上告カ第一審ニシテ確定シタルト第二審ニテ確定シタルトヲ問ハス上告裁判所ハ其上告ヲ爲サ、ルカ爲メニ確定シタルモノニ對シテモ上告ノ更正ヲ爲シ其利益ヲ及ホスヘキナリ

第二百九十條 上告裁判所ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス可キトキハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ指定ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ其裁判所ノ民事部ニ移ス可シ

第二百九十一條 第二百六十五條ノ規定ハ上告ニモ亦之ヲ準用ス

第二百九十二條 第一審裁判所ト第二審裁判所トヲ問ハス法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付キ上告ヲ受クル權アル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ因

リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得
非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ直チニ其事件ニ付
キ判決ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ非常上告ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ非常上告ハ上告中ノ一種ノ特例
ニシテ普通ノ上告ト同一ナラス今其非常ノ上告ナルモノ、如何ヲ左ニ説明スヘシ
(意義)上訴ハ審級ノ順序ヲ追フテ之ヲ爲シ且未確定ノ判決ニ對スルモノトス然ルニ非常上
告ハ第一審裁判所ノ上告タルトキハ第二審裁判所ノ裁判タルトヲ問ハス且其判決ハ確定
シタル後ニ至リテ之ヲ爲スコトヲ得故ニ普通ノ上訴ニ非スシテ一種ノ特例ニ屬スルモノ
トス而シテ公私ノ利益ノ爲メ檢事ヲシテ法律適用ノ點ニ於テ誤謬ナル判決ノ更正ヲ求ム
ルノ途ヲ與ヘタルナリ判決確定ノ後ニ在リテ事實ノ誤謬ハ再審ノ方法ニ依リ之カ更正ヲ
要ムルノ途アリ法律ノ適用ニ就キ重大ナル誤謬ハ檢事ヲシテ此非常上告ニ依リテ上訴ヲ
爲サシム
非常上告ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ス此上告ニ付テハ法律ハ
其之ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ限定シ汎ク之ヲ適用スルコトヲ得サラシム蓋シ此ノ上訴
ノ方法ヲ濫用シテ以テ徒ラニ裁判ノ確定ヲ動カシ公安ヲ害スルコト勿ラシムルカ爲ナ
リ

非常上告ヲ爲スコトヲ得ヘキ判決ハ第一審裁判所ノ判決タルト第二審裁判所ノ判決タル
トヲ問ハサルナリ元來此上告ハ確定ノ判決ニ向テ上訴ヲ爲スモノナルヲ以テ審級ノ順序
ニ從ハサルナリ然レトモ此上告ヲ受理スヘキ裁判所ハ普通上告ニ於ケルト同一ニシテ區
裁判所ノ判決ニ對スルトキハ之ヲ大審院ニ爲スコトヲ得ス之ヲ控訴院ニ爲スヘク地方裁
判所及ヒ控訴院ノ判決ニ對スルトキハ之ヲ大審院ニ爲スヘキナリ而シテ非常上告ヲ爲ス
コトヲ得ル場合ハ本條ニハ左ノ二個ノ場合ナリトス

第一 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルトキ

第二 相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキ

第一ノ場合ハ此刑ヲ受ケタル人ハ元來無罪ノ人ナリ其無罪ノ人ニシテ不幸ニモ刑ニ處セ
ラレタル場合ニ在リテハ社會ハ默過スルコトヲ得ス故ニ公益ノ代表人タル檢事ハ非常上
告ノ方法ニ依リテ其裁判ノ更正ヲ求メサルヘカラス第二ノ場合ハ輕罪ノ事實ヲ認定シタ
ルニモ係ラス重罪ノ刑ヲ科シ又ハ輕罪ノ刑ヲ加重シテ其範圍若クハ加減ノ計算ヲ誤リテ
被告人ヲシテ法律ニ定メタル刑ヨリ一層重キ刑ニ處セラレタル場合ノ如キハ被告人ハ無
罪ノ人ニ非スト雖モ社會ノ希望ニ超過シタル嚴刑ニ處セラレタルモノナル道理ナレハ檢
事ハ非常上告ヲ以テ之ヲ救正スルコトヲ要スル所以ナリ

第四章 抗 告

第二百九十三條 抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り之ヲ爲ス

コトヲ得

(註)抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り決定ニ對シテノミ爲スコトヲ得ル上訴ナリ而シテ法律カ抗告ヲ許スヘキ場合ハ即チ第百二十六條第百二十八條第百七十二條第百七十四條第百七十五條第百七十六條第百七十七條第百七十八條第百七十九條第百八十二條ノ場合ナリ

第二百九十四條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲スコトシ

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

(註)抗告ハ如何ナル裁判所ニ於テ爲スコトヲ得ルモノナルヤ本條ハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲スコト規定セリ抗告ハ普通上訴ナルカ故ニ審級ノ順序ヲ踰越スヘカラス上級裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲スヘキモノトス區裁判所ノ決定ニ對スル抗告ハ地方裁判所ニ於テ裁判シ地方裁判所ノ決定ニ付テハ控訴院ニ於テ裁判シ控訴院ノ決定ニ對スル抗告ハ大審院ニ於テ之カ裁判ヲ爲スモノナリ然レトモ抗告ハ他ノ上訴ト其趣ヲ異ニスルノ點アリ控訴上告ニアリテハ其攻撃ヲ受タル裁判ヲ下シタル裁判所ハ其上訴ノ當否ニ付キ判斷ヲ下スコト決シテ之ナキモノナルモ抗告ニ付テハ否ラス後ニ見ル如ク其決定ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ハ抗告ヲ理由アリトスル時ハ不服ノ點ヲ更正スルコトヲ得ルナリ

第二百九十五條 抗告ノ期間ハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ三日トス

(註)抗告ハ如何ナル期間ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルヤニ付テハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ三日トス控訴上告ノ期間ハ裁判言渡ノ日ヨリ起算スルモ抗告ハ決定送達ノ日ヨリ起算スルモノトス蓋シ決定ハ口頭辯論ヲ經ルニ非サルカ故ニ公判廷ニ於テ其決定ヲ言渡スモノニ非ス抗告ノ權アル者ハ決定ノ送達ニ依リテ決定アリタルコトヲ知ルヲ得ルモノナレハナリ豫審終結ノ決定モ之ヲ檢事若クハ被告人ニ送達シタルニ因リ決定アルコトヲ知ルモノナリ證人鑑定人ニシテ供述又ハ鑑定ヲ肯セサルモノニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲ストキモ決定ヲ公廷ニ於テ言渡スモノニ非ス其決定ノ送達ヲ以テ言渡ノ效アルモノトス

第二百九十六條 抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出ス可シ其裁判所又ハ豫審判事ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シテ三日内ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ且豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ訴訟記録ヲモ送致ス可シ

(註)抗告ヲ爲ス者ハ其申立書ヲ原裁判所又ハ豫審判事ニ差出スコトヲ要ス控訴上告ニ於テモ申立人ハ申立書ヲ差出スヲ以テ上訴ノ第一着手ト爲ス抗告ニ於テモ同シク之ヲ爲サルヘカラス控訴ニ在リテハ其申立書ニハ不服ノ趣旨ヲ辯述シ置クヲ要セス單ニ控訴ヲ爲ス意思ヲ表明スレハ足ルモノナリ上告ニ於テモ申立書ハ事件ヲシテ上告審ニ繫屬セシムルモノ

ニシテ單ニ不服ノ意思ヲ表示スルニ過キス然レトモ抗告ニ至リテハ申立書ノ性質ヲ異ニス元來抗告ハ書面審理ニシテ原裁判所又ハ豫審判事ハ單ニ此申立書ニ依リ原裁判ノ當否ヲ決シ又抗告裁判所モ申立書ノミニヨリテ決定スルモノナレハ其不服ノ趣旨ヲ明確ニ申立書ニ記載セサルヘカラス

抗告申立書ハ原裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出スヘキモノタリ其裁判所又ハ豫審判事ハ抗告カ抗告手續ニ違背セサルヤ否ヲ調査シ已ニ適法ナル以上ハ直チニ之ヲ抗告裁判所ニ送致スルコトヲナスシテ其ノ上告ノ理由アルヤ否ヤヲ鑑査セサルヘカラス抗告ヲ鑑査シタル上其抗告理由アリトシタルトキハ其裁判所又ハ豫審判事ハ不服ノ點ヲ更正スルノ責任アルナリ若シ原裁判所又ハ豫審判事ハ抗告ヲ理由ナシト爲シタルトキハ意見ヲ附シテ二日間ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ若シ申立カ豫審終結ニ關スル時ハ豫審ノ訴訟記録ヲモ送致スルモノトス

第二百九十七條 抗告裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ書類ニ依リ抗告裁判ヲ爲ス可シ

(註)抗告裁判所ハ判決ヲ爲スモノニ非サルヲ以テ書面審理ヲ爲ス即チ公判廷ヲ開カス口頭審理ヲ爲サス送付ヲ受ケタル書類ノミニヨリ裁判ヲ爲ス故ニ其裁判ハ決定ナリ然レトモ檢事ノ意見ヲ聽カサルヘカラス控訴上告ニアリテハ其書類ハ裁判所檢事ヨリ上訴裁判所ノ檢

事ニ送致スルモノナルモ抗告ニ付テハ直チニ抗告裁判所ニ送致ス故ニ抗告裁判所カ裁判ヲ下ストキハ必スシモ檢事ノ手ヲ經テ來ルモノニ非ス依テ抗告裁判所ヨリ特ニ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ若シ抗告裁判所カ檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ遺忘シテ判定ヲ與ヘタルトキハ其決定ハ裁判ノ手續ヲ誤リタルモノト云フヘキナリ故ニ之ヲ理由トシテ更ニ抗告ヲ爲スコトアルヘシ

第二百九十八條 豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ニ於テ必要ナリトスルトキハ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

(註)受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ行ヒ豫審ニシテ未タ充分ナラサル處アル時ハ猶取調ヲ爲シテ而シテ抗告裁判所ニ報告ス此受命判事ハ他ノ上訴ニ於ケルト同一ニ其抗告理由ニ付テ判斷スルニ非ス只抗告裁判所カ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘキ材料ヲ調査スルニ止マル例ヘハ豫審終結ニシテ重罪公判ニ移スノ言渡ヲ爲シタルモノニ對シテ抗告アリタル時豫審判事ノ聚集シタル證據ニ依レハ多クハ輕罪ニ過キサカ如ク僅ニ重罪ト見ルヘキ證アリテ其證據タルヤ抗告裁判所ヲシテ重罪ナリト確認セシムルニ足ラサル場合ノ如キハ受命判事ヲシテ證據ノ蒐集ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキナリ

第二百九十九條 抗告裁判所ニ於テハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又抗告ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ闕クトキハ其抗告ヲ棄却ス可シ

(註)法律ノ許サ、ル場合ニ於テ爲シタル抗告ナルカ又ハ決定ノ送達アリタルヨリ三日ヲ經過シタル抗告ナルトキハ其抗告ハ成立セサルヲ以テ抗告裁判所ハ其抗告ノ理由アルヤ否ヤヲ審査スルニ至ラスシテ之ヲ棄却スルノ決定ヲ爲スモノナリ

第三百條 抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ取消シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

(註)抗告ノ理由ニ付キ裁判ヲ下スニ當リテハ其抗告ノ理由アリタル場合ニテモ之ヲ他ノ裁判所ニ移シテ審理セシムルコトナシ豫審終結ニ對スル抗告ノ如キニ於テハ事實ノ審理ヲ要シ抗告裁判所自ラ其審理ヲ爲スモノナレハ彼ノ上告ニ於ケルカ如ク他ノ下級裁判所ニ移シテ更ニ審理判決ヲ爲サシムルコトヲ爲サス孰レノ場合ニ於テモ抗告裁判所直チニ決定ヲ與フルモノナリ故ニ抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ取消シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又ハ上告ヲ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却スヘシ

抗告ヲ理由アリトシテ原判決ヲ取消シ自ラ決定ヲ爲シタルトキハ其決定ヲシテ執行力アラシメ原判決ハ消滅シタルモノトス之ニ反シ抗告ノ理由ナシトシテ棄却シタルトキハ原決定ヲシテ其效力ヲ維持セシムルモノナリ

第六編 再 審

(註)再審ハ確定裁判ヲ經タル事件ノ全体ニ付審理裁判ヲ求ムルノ訴ナリ是レ一種特別ノ訴ニシテ上訴ト稱スルモノニアラス夫レ裁判ハ必スシモ誤謬ナキヲ保セス刑事事ニ付テハ其裁判ノ誤謬ハ重大ノ不幸ヲ被告人ニ被ラシムルモノナルヲ以テ再審ノ方法ヲ許シタルモノナリ

第二百一一條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一 人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタルモ其殺サレタリト認メラレシ者犯罪後生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ

第二 同一事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第三 犯罪アル以前ニ作りタル公正證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ

第四 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタルトキ

第五 公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ

第六 判決ノ憑據ト爲リタル民事上ノ判決他ノ確定ト爲リタル判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタルトキ

(註)再審ノ訴ハ確定判決ヲ動かサントスルモノナルヲ以テ法律ハ容易ニ之ヲ許スヲ欲セス即チ之カ制限ヲ設ケタリ是レ法律カ再審ノ訴ヲ爲スニ付テ左ノ三個ノ制限ヲ設ケタリ

第一 重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シテ被告人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ要ス

再審ノ訴ハ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ得違警罪ノ刑ニ對シテハ此訴ヲ許サス又再審ノ訴ハ被告人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ被告人ノ不利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ許サ、ルモノトス而シテ本條ニハ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シトアリ故ニ刑ノ言渡ヲ爲サ、ル判決ニ對シテハ被告人ノ利益ノ爲メニモ再審ノ

訴ヲ許サ、ルナリ又本條ノ法文ニ依レハ再審ノ訴ハ刑ノ言渡ニ對スルモノナルヲ以テ刑ニ關係ナキ點ニ於テ誤謬アリトシテ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許サス然レトモ本刑ニハ誤謬ナキモ沒收其他附加刑ノ言渡ニ誤謬アル時ハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得何トナレハ假令附加刑ト雖モ一个ノ刑ノ言渡タルニ外ナラス果シテ刑タランニハ本刑タルト附加刑タルトヲ論センヤ

第二 裁判ノ誤謬カ法律ニ於テ限定シタル六ヶノ原因ニ依リテ證明セラル、コトヲ要ス此六ヶノ原因ハ本條ニ規定スルモノナリ其原因アルニ非サレハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス何レノ場合ニテモ原裁判ニ誤謬アリトシテ之ヲ許スモノニアラス充分ノ審理ヲ經テ確定シタルヲ動かサントスル訴ナレハ隨テ十分ナル證據アルニ非サレハ之ヲ許サス

第三 判決確定ノ後ナルコトヲ要ス 再審ハ原判決カ對席ナルト欠席ナルトヲ問ハス其確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ上訴ヲ爲スノ途アルトキハ其上訴ニヨリ判決ノ誤謬ハ之ヲ更正スルコトヲ得ヘシ故ニ再審ヲ必要トセス假ハ第二審ノ判決ヲ受ケ上告期間内ニアル時ハ其判決ハ未タ確定セサルモノニシテ上告ナル上訴アリテ法律ノ點ニ付テ誤謬ノ判決ヲ正スコトヲ得ルヲ以テ再審ヲ爲スヲ得然ルニ再審ハ事實ニ對スル攻撃ナルヲ以テ假令上告期間内ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキカ如シ

茲ニ注意スヘキハ此再審ト云フ語ニハ再審ト再審ノ訴トノ二様ノ意義アルコト是レナリ再審トハ確定判決ヲ經タル事件ヲ再ヒ審理スルノ義ナリ再審ノ訴ハ其再審アランコトヲ上告

裁判所ニ請求スルノ訴ナリ本法第二百一一條以下ニ規定シ上告裁判所ノ權限ニ屬スルモノハ再審其ノモノニ非スシテ再審ノ訴ヲ云フナリ

第二百一一條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

- 第一 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事
- 第二 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事
- 第三 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事但司法大臣ノ命ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ
- 第四 刑ノ言渡ヲ受ケタル者
- 第五 刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタルトキハ其親屬

(註)本條ハ再審ノ訴ヲ爲スコト得ル者ヲ明規シタリ即チ左ノ如シ

- 第一 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事 檢事ハ獨リ公益ノ爲メ刑ノ適用ヲ求ムルモノニ非スシテ被告人ノ利益ヲモ保護ス故ニ裁判所其當ヲ失ヒ冤罪ノ者アルトキハ檢事ハ法律ニ從テ再審ヲ請求スルノ責務アルモノナリ
- 第二 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事 刑ノ言渡ヲナシタル裁判所ノ檢事ヲシテ再審ヲ爲スコトヲ許スト雖モ法律ハ之ヲ以テ被告人ノ利益ヲ保護ス

ルニ十分ナリトセス其檢事ヲ管轄セル控訴裁判所檢事ニモ亦再審ノ訴ヲ爲スノ權利ヲ與ヘタリ

- 第三 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル上告裁判所ノ檢事モ亦自ら再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得而シテ此檢事ハ司法大臣ノ命又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スモノナリ司法大臣ハ常ニ司法行政ノ全体ニ付テ管轄スルモノナルヲ以テ諸般ノ報告ニ付テ再審ノ理由ヲ發見スルコトアルヘシ然レトモ自ら再審ノ訴ヲ爲スノ權ヲ有スルモノニ非サレハ上告裁判所ノ檢事ニ命シテ再審ノ訴ヲ爲サシムルナリ而シテ司法大臣ノ命ナシト雖モ上告裁判所ノ檢事ハ自己ノ職權ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ
- 第四 再審ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲メニ許スモノナレハ其本人ヨリ之ヲ爲スヲ得ルハ當然ナリトス是レ再審ニハ上訴通則ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サレハナリ
- 第五 刑ノ言渡ヲ受ケタル者已ニ死去シタルトキハ再審ヲ爲スモ死去シタル受刑者ニ對シテ一ノ實益ナキカ如シト雖モ其人ノ名譽上之ヲ回復シ一家ノ汚名ヲ除クノ利益ヲ有ス故ニ法律ハ其親族ニ許スニ再審ヲ爲スノ權ヲ以テセリ

第二百一三條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラズ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

(註)再審ノ訴ハ判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス而シテ判決ノ確定後ハ此訴ヲ

爲スニ付テハ期間ノ規定アルコトナシ蓋シ再審ハ確定判決ヲ動かカス所ノ訴ナル故ニ其確定シタル裁判宣告アリテヨリ一ヶ月後ニアルト一ヶ月又ハ十ヶ月ノ後ニアルトニヨリテ相違ヲ生スルモノニ非ス彼ノ普通上訴ノ如キハ裁判ノ確定ヲ妨クルカ故ニ一定ノ期間ヲ規定シアルモ再審ノ訴ハ一ノ確定裁判ニ對スルモノナルカ故ニ確定ヲ遅延スルノ結果ヲ生スルモノニ非ス

第三百四條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原判決ノ謄本及

證憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢事ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢事及ヒ控訴裁判所ノ檢事自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル

トキハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

(註)上告ヲ爲スモノハ其申立書ヲ差出シ而シテ後チ不服ノ點ヲ明示セル趣意書ヲ差出スヘキモノトス然レトモ再審ノ訴ニ至リテハ別段ニ申立テ書ナルモノヲ差出スヲ要セス直チニ趣意書ヲ差出スヲ以テ足レリトス上告ニハ期間アリテ之ヲ經過スレハ訴權ヲ失ヒ其期間ハ短キヲ以テ完全ナル趣意書ヲ差出ス能ハス故ニ先ツ上告ヲ爲スノ申立ヲ爲シテ以テ其意思

ヲ表明シ後ニ完全ナル趣意書ヲ呈出セシム然レトモ再審ノ訴ニ於テハ期間ノ定ナク法律ノ許シタル再審ノ原因ノ存在スルトキハ何時ニテモ爲スコトヲ得ヘケレハ時期ヲ失フノ憂ナク從テ再審ノ理由ヲ發見スルニ十分ナル時日ヲ有ス故ニ直チニ趣意書ヲ差出スヘキモノトス

第三百五條 上告裁判所ニ於テハ檢事ノ請求ニ因リ速ニ受命判事一名

ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

(註)上告裁判所ノ第一着ニ爲スヘキ手續ハ受命判事ヲ命シテ其事件ノ取調ヲ爲サシムルコトナリトス本條ニハ檢事ノ請求ニヨリ受命判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトアリ故ニ常ニ受命判事ヲ命スルモノニ非スシテ只檢事ノ請求アリタル時ニ於テノミ受命判事ヲ命スヘキモノ、如シト雖モ本條ノ所謂檢事ノ請求ニヨリトアルハ上告裁判所ノ檢事ヨリシテ事件ノ審理ヲ請求シタルコトヲ云フモノニシテ受命判事ノ任命ヲ請求スルノ意ニ非ス上告裁判所ノ檢事ノ手ヲ經テ再審ノ訴ヲ差出シタル時ニハ別ニ檢事ノ請求ナキモ受命判事ニ其取調ヲ命スルハ敢テ差支アルモノニ非ス如何トナレハ受命判事ヲ任スルコトハ審理上ノ便宜ニ出ツルモノニシテ敢テ他ノ請求ニヨリ動かカスヘキモノニ非サレハナリ

第三百六條 上告裁判所ニ於テハ受命判事ノ報告及ヒ檢事ノ意見ヲ聽

キ判決ヲ爲ス可シ

第三百七條 上告裁判所ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ
原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スコトヲ言渡シ其
事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移スコシ

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スコシ
(註)上告裁判所ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ原判決ハ之ヲ破毀シテ其裁判
ノ確定力ヲ失ハシメサルヘカラス已ニ上告裁判所ニ於テ再審ノ理由アリト認メタルトキハ
原判決ノ不當ナルコト明カナリト雖モ未タ刑ノ言渡ヲ受ケサルモノハ無罪ナリトハ云フヲ
得ス死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ上告裁判所ニ於テ其判決ヲ破毀スルニ止マ
ルハ次條ノ規定ニ見ル如ク特例ナリトス一般ノ場合ニ於テハ無罪ナリトハ速斷スルヲ得サ
ルヲ以テ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スヘキコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判
所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移シテ再審ヲ爲サシムルモノトセリ蓋シ再審ノ原因アリト確認
シタル時ハ事實ヲ審理セサルヘカラス然ルニ事實ハ上告裁判所ニ於テ之ヲ審理スルコトヲ
得サルヲ以テ更ニ事實裁判所ニ其事件ヲ移送シテ審理判決ヲ爲サシムルモノナリ

第三百八條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ上告裁判
所ニテ再審ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ
移スコトナク原判決ヲ破毀スコシ

(註)死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ上告裁判所ハ再審ノ原因アリト認メタルトキハ事件ヲ
事實裁判所ニ移スコトナク原判決ヲ破毀スルニ止マルモノトス上告裁判所カ再審ノ原因ア
ルコトヲ認メタルトキハ原判決ノ不當ナルコトハ明白ナルヲ以テ其判決ヲ破毀スヘシ然レ
トモ刑ヲ受ケタル者死亡シタル後ナレハ事件ノ審理ヲ爲サス例ヘハ殺サレタリト認メタル
人カ猶ホ存在スルコトヲ原因トシテ死者ノ親族ヨリ再審ヲ求メタルニ上告裁判所ハ其人ノ
存在スルコトヲ確認シタルトキハ死者ニ殺人罪ノ所爲アリト爲シタル原判決ハ之ヲ取消シ
無罪ヲ言渡スヘシ若シ受刑者尙ホ存在スルトキハ他ノ犯罪アルヤモ知レサルヲ以テ事實裁
判所ニ移シテ再審ヲ爲サシムヘキモ其人已ニ死亡シ自カラ防禦スルコトヲ得サルモノナレ
ハ事實ノ審理ヲ爲サス只原判決ヲ破毀スルニ止マルモノナリ

第三百九條 再審ノ判決ニ因リ無罪ノ言渡アリタルトキ又ハ前條ノ場
合ニ於テ破毀ノ言渡アリタルトキハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其判決
ヲ揭示スコシ

(註)死者ノ親族ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ其原因アリトシテ原判決ヲ破毀シタルトキハ其上告裁
判所ノ判決ハ其死者ノ無罪ヲ言渡シタルモノナレハ之ヲ揭示シテ以テ名譽ヲ回復セシムヘ
シ又原判決ヲ破毀シ以テ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタルトキハ無罪ヲ言渡シタルモノ
ニ非ス故ニ之ヲ揭示スヘキモノニ非ス而シテ其移送ヲ受ケタル後審理ノ上無罪ノ言渡ヲ爲

シタルトキハ之ヲ揭示スヘキモノナリ

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

(註)裁判所構成法第五十條第二號ニ依レハ大審院ハ左ノ犯罪ニ付テハ第一審ニシテ終審トシテ豫審及ヒ裁判ヲ爲スモノトス

第一 皇室ニ對スル重罪

第二 國事ニ關スル重罪

第三 皇族ノ犯シタル犯罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノ

裁判所ニ審級ヲ置キ最上級ハ大審院ナリトシタルヲ以テ此重大ナル犯罪ニ付テハ特例トシテ大審院ノ權限ニ屬セシメタリ而シテ大審院ハ此事件ニ付テハ第三審トシテ之ヲ裁判スルニ非ス全ク事實裁判トシテ第一審ノ裁判ヲ下スモノナリ然ルニ大審院ノ上ニ上級裁判所ナキヲ以テ其裁判ハ終審ナリトス

大審院ノ特別權限ニ屬スル犯罪ノ種類ハ其罪ノ輕重ニ付キ區別ヲ爲セリ皇室ニ對スル犯罪及ヒ國事ニ關スル犯罪ハ重罪ニ限レリ故ニ是等ノ犯罪ト雖モ輕罪ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス又皇族ノ犯シタル罪モ禁錮以上ノ犯罪ニ限リ特別權限ニ屬シ禁錮以下ノ輕罪ハ普通裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリ

第三百十條 裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル大審院ノ特別

權限ニ屬スル犯罪ニ付テハ檢事總長其搜查ヲ爲ス可シ

地方裁判所、區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官モ亦其犯罪ニ付キ搜查ヲ爲シ檢事總長ニ報告ス可シ

(註)大審院ハ上ニ述タル犯罪ニ付テハ獨リ審理判決スルノ裁判權ヲ有スルノミナラス豫審ヲ爲スモノナリ然ラハ其豫審ノ前ナル犯罪ノ搜查モ亦下級裁判所檢事ニ任セスシテ檢事總長ヲシテ之ヲ爲サシメサルヘカラス是レ本條第一項ノ規定ナリ

檢事總長獨リ其搜查ヲ爲スノ任アリト雖モ元來檢事ハ同一体ナルヲ以テ地方裁判所ノ檢事區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官モ亦檢事總長ヲ補佐シテ搜查ヲ爲スヘシ是レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第三百十一條 前條ニ記載シタル犯罪ノ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ

要スルトキハ地方裁判所、區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官ハ第四百四十七條第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ爲スコトヲ得但豫審判事ニ通知スルコトヲ要ス

(註)現行犯ノ場合ニ於テハ普通事件ニ付テモ檢事司法警察官ハ豫審處分ヲ爲スコトヲ得蓋シ其犯罪ヨリ生スル危害ノ大ナルト且速ニ着手セサレハ證據湮滅ノ恐アルニ依ル特別權限ニ屬スル事件ト雖モ現行犯ノ場合ニ於テハ同シク檢事及ヒ司法警察官ヲシテ豫審處分ヲ爲

サシムルノ必要アリ即チ本條ハ前條ニ記載シタル犯罪ノ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ地方裁判所區裁判所ノ檢事及ヒ司法警察官ハ第四百四十四條第四百四十七條第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス但豫審判事ニ通知スルヲ要セス

(意義)普通事件ニ於テハ檢事及ヒ司法警察官ハ現行犯ニ付テ豫審處分ヲ行フコトヲ得其處分ヲ行フハ急速ナル場合ナルヲ以テ豫審判事ヲ待タズシテ着手ヲ爲シ豫審判事已ニ處分ニ着手スル前ニ豫審判事ニ通知スルコトヲ要スルモノトス然レトモ特別權限ニ屬スル犯罪ニ付テハ普通事件ト同一ニ檢事及ヒ司法警察官ハ第四百四十四條第四百四十七條ノ第一項ノ規定ニ從ヒ豫審處分ヲ行フコトヲ得ルモノ未タ通知ヲ爲スヘキ豫審判事ナキヲ以テ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第二百三十二條 前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ヨリ證憑書類ニ意見書ヲ添へ之ヲ檢事總長ニ送致ス可シ

(註)檢事及ヒ司法警察官ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲ行フタル時ハ如何ナル手續ヲ爲スヘキカ本條ハ即チ地方裁判所檢事ヨリ證憑書類ニ意見書ヲ添へ速ニ檢事總長ニ送致スヘキモノトス又地方裁判所ノ檢事現行犯アルヲ知リ豫審處分ヲ行フタル時ハ其處分ニ因リテ得タル證據及ヒ證憑書類ニ意見ヲ添へテ速ニ之ヲ檢事總長ニ送付スヘク若シ區裁判所檢事又ハ司法警察官ニ於テ現行犯ニ付キ豫審處分ヲ行フタルトキハ其證憑書類ヲ地方裁判所檢事

ニ送致シ該檢事ヨリ檢事總長ニ送致スヘキモノトス

第二百三十三條 檢事總長ハ何レノ場合ニ於テモ其事件大審院ノ特別權限ニ屬シ且起訴ス可キモノト認メタルトキハ豫審判事ヲ命ス可キコトヲ大審院長ニ請求ス可シ

(註)檢事總長ニ於テ捜査ヲ爲シタル上ハ檢事總長ハ先ツ起訴スヘキモノナルヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス若シ起訴スヘカラサルモノト認メタルトキハ檢事ノ全權ヲ以テ其事件ヲ不問ニ附シ刑事上ノ訴訟ヲ起スヘカラス若シ大審院ノ特別權限ニ屬セサルモ下級裁判所ニ屬スルモノトスル時ハ其事件ハ固ヨリ下級裁判所ノ檢事ニ屬スルヲ以テ之ヲ移シテ以テ起訴ヲ爲サシムヘシ若シ又其事件ハ大審院ノ特別權限ニ屬スルモノニシテ起訴ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ一切ノ書類ヲ該院ニ差出シ起訴ヲ爲スヘシ然レトモ未タ起訴ヲ受クヘキ豫審判事ナキヲ以テ起訴ト同時ニ豫審判事ノ任命ヲ請求セサルヘカラス

第二百三十四條 大審院長ヨリ命ヲ受ケタル豫審判事ハ豫審ヲ爲シタル上ニテ他ニ取調ヲ要スルコトナシト思料シタルトキハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ大審院ニ差出ス可シ

(註)大審院長ノ任命シタル豫審判事ニ於テ檢事總長ノ差出タル書類ニ依リテ事實ノ調査ヲ

十分ナリトシ他ニ取調ヲ要スル事ナシト爲シタル時ハ訴訟記録ニ意見ヲ附シ大審院ニ差出スヘシ若シ取調ヲ要スルトキハ普通ノ手續ニ依リ豫審ヲ爲スヘシ普通事件ニアリテ豫審判事ハ取調ノ結果ニヨリ有罪ナリト認メタルトキハ公判ニ移スノ言渡ヲ爲シ罪責ナシトスルトキハ免訴ノ言渡ヲ爲スモノナルモ此特別事件ニ付テハ豫審判事ハ豫審決定ヲ爲スノ權力ナキヲ以テ公判ニ付スルノ言渡又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス又普通事件ニシテ管轄ニ屬スル事件ニ非スト認ムルモ他ノ裁判所ノ公判ニ附スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ス是等ノ言渡ハ皆大審院ノ爲スヘキモノトス

第三百十五條

大審院ニ於テハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ先ツ其事件ヲ公判ニ付ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

其事件地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シタルトキハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ送致ス可シ若シ特別裁判所ノ權限ニ屬スルモノト認メタルトキハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第百六十五條ニ記載シタル場合ニ於テハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

(註)豫審判事ヨリ訴訟記録ニ意見ヲ附シ差出シタルトキハ大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聞キ先ツ其事件ノ公判ニ付スヘキヤ否ヤヲ決定スルモノトス若シ大審院カ調査ノ上自己ノ特別權限ニ屬スヘキモノナリト認メタルトキハ其決定ヲ爲ス其決定ニ依リテ事件ハ大審院ノ公判ニ附セラルモノナリ是レ本條第一項ノ規定ナリ

若シ大審院カ其事件ヲ地方裁判所又ハ區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シタル時ハ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ其裁判所ニ送致スヘシ此場合ニ於テハ大審院ハ豫審決定ヲ爲スニ非スシテ管轄裁判所ヲ指定シ事件ヲ送付シテ其裁判所ノ公判ニ付スルモノナリ故ニ管轄裁判所ニアリテハ管轄ノ指定ヲ受ケタルモノナルヲ以テ公判ヲ爲スヘク管轄違ヲ言渡スヘカラス是レ本條第二項ノ規定ナリ

若シ大審院ハ事件カ第百六十五條第一乃至第六ノ場合ニアルモノト認メタル時ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリ是レ本條第三百十五條第三項ノ規定ナリ

第三百十六條 前數條ニ於テ特ニ規定シタルモノヲ除ク外豫審、公判ノ手續ハ第二編第四編ノ規定ヲ準用ス

(註)大審院ニ於テ事件ヲ特別權限ニ屬スルモノト爲シタル上ハ公判ヲ開キ審理判決ヲ爲スヘシ而シテ其手續ハ普通事件ト異ナルコトナキヲ以テ特ニ之ヲ規定セス前數條ニ於テ特ニ之ヲ規定シタルモノヲ除ク外豫審公判ノ手續ハ第三編第四編ノ手續ヲ準用ストアリテ本編

ハ普通ノ手續ト異ナルモノヲ規定シタルニ止マリテ特別權限ニ屬スル凡テノ事件ノ刑事訴訟手續ヲ定メタルモノニ非ス依テ公判ノ手續ノ如キハ別ニ本編ニ規定ナキヲ以テ普通事件ト同一ナルコトハ勿論ニシテ欠席判決ニ對スル故障及ヒ再審ノ如キ亦此特別權ノ判決ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ルモノナリ

第八編 裁判執行

第一章 裁判執行

(註)刑ノ執行ハ判決確定ノ後ニ非サレハ爲スコトヲ得ス民事訴訟法ニアリテハ裁判ノ假執行ヲ爲スコトアリト雖モ刑事訴訟法ニアリテハ其刑ノ輕重如何ニ拘ハラズ假ニ執行スルトキハ回復スルコト能ハサルヲ以テ其裁判確定セサル間ハ執行ヲ許サ、ルモノトス而シテ如何ナル時期ニ於テ判決ハ確定スルモノナルヤ法律ニ許シタル上訴ヲ爲シ盡シテ其上訴ノ判決アリタルトキ又上訴ヲ爲サ、ルモノニ付テハ上訴スヘキ期間ノ終了ヲ以テ確定ノ時ナリトス然レトモ上訴ノ場合ニ於テ上訴裁判所ノ判決ニ依リテ確定スルハ上告裁判所カ棄却ノ判決ヲ爲シ又ハ自ら刑ノ適用ヲ爲シタル時ナリトス若シ破毀シテ事件ヲ他ノ下級裁判所ニ移シタル時ノ如キハ未タ確定スルニ至ラス其事件ハ第二審ノ裁判所ニ繫屬シアルヲ以テ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得サルナリ控訴抗告ノ判決アルマテハ未タ上訴ヲ爲シ盡シタルモノニ非サルヲ以テ確定セサルハ勿論ナリ

第二百二十七條 刑ノ執行ハ判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

監獄ニ於テ執行スヘキ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得(刑法施行法ニ依リ追加ス)

(註)本條ハ二個以上ノ刑ノ執行ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノナリ監獄ニテ執行スヘキ刑ハ罰金及ヒ科料ノ外ハ皆監獄ニ於テ執行スルモノトス而シテ其主刑ノ執行ノ前後ハ重キモノヲ先キニスルモノトス唯タ特別ノ事由アルトキニ限り檢事ニ於テ輕キ刑ヲ先ツ執行スルコトヲ得セシメタリ

第二百二十八條 死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ速ニ訴訟記録ヲ

司法大臣ニ差出ス可シ
司法大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キ命令アリタルトキハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

(註)本條ハ死刑ノ言渡確定シタルトキハ檢事ヨリ速カニ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出スベシ司法大臣ヨリ死刑ヲ執行スヘキ命令アリタルトキハ三日内ニ其執行ヲ爲スヘシトアリ故ニ

死刑ノ言渡確定シ再審ノ訴ヲ爲スモノアラサル時ハ檢事ヨリ訴訟記録ヲ司法大臣ニ差出シテ其命令ヲ待ツヘシ司法大臣ハ其訴訟記録ニヨリ特赦非常上告及ヒ再審ヲ爲スヘキモノニ非サルヤ否ヤヲ審査シ其特例ニ依ルヘキモノニ非スト認メタルトキハ執行命令ヲ下スヘキモノナリトス此命令アリタルトキハ執行官ハ三日内ニ死刑ノ執行ヲ爲スヘシ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊愈ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サルハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十九條 死刑ヲ除ク外刑ノ言渡確定シタルトキハ直ニ之ヲ執行ス可シ

體刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ遁レタル者ニ對シ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效ヲ有ス其闕席判決ニ係ル場合ニ於テ發シタル者亦同シ

懲役禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

- 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
- 二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
- 三 受胎後七月以上ナルトキ
- 四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ(刑法施行法ニ依リ追加ス)

(註)判決確定シタル後ニ在リテハ何時ニ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノナリヤ本條ハ刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行スルモノトセリ故ニ一般ニ於テハ判決確定スルヤ猶豫ナク執行スルコトヲ得ルナリ然レトモ左ノ例外アリトス

第一 死刑ノ執行 死刑ヲ除ク外刑ノ言渡ノ確定シタル時ハ直チニ執行スヘシト云フヲ以テ見レハ死刑ノ執行ハ例外ナルコトヲ知ルヘシ

第二 罰金 刑法第十八條ニ曰ク罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ三十日内ニ本人ノ承諾アルニ

非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得スト然ラハ罰金ハ刑ノ言渡確定後直チニ徴收スルコトヲ得サルモノニシテ一ヶ月ハ執行ヲ爲スコトヲ得サルモノトス
刑ノ執行ハ檢事ノ職務ニ屬スルヲ以テ若シ体刑ノ言渡ヲ受ケ(体刑トハ禁錮以上ノ自由刑ヲ云フ)其執行ヲ免カレタルトキハ執行ノ爲メニ檢事ハ逮捕狀ヲ發スヘシ其ノ逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノナリ欠席判決ノ場合ニ於テハ判決執行ノ爲メニ檢事ヨリ逮捕狀ヲ發スルコトアリ此場合ニ於テモ逮捕狀ノ效力ハ勾留狀ト同一ニ勾引留置スルコトヲ得蓋シ刑事訴訟法ニ於テハ人ヲ拘引留置スルノ權ハ豫審判事ニアルヲ以テ通例トス檢事ヨリ發スル所ノ逮捕狀ハ法律ニ於テ勾留狀ト同一ノ效力ヲ附スルニ非スンハ勾留スルコトヲ得ス故ニ法律ハ特ニ其效力ヲ明示ス

第二百三十條 刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ
罰金、科料、訴訟費用及ヒ沒收物品、追徴金ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徴收ス可シ
破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢事之ヲ處分ス可シ
前項ノ徴收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス(刑法

施行法ニ依リ追加ス)

(註)刑ノ執行ハ裁判所ノ職掌ニアラス裁判所構成法第六條ニ於テ各裁判所ニ檢事局ヲ置キ檢事刑事ニ付キ判決ノ適當ニ執行セラル、ヤ否ヤヲ監視ストアリ本條ハ刑ノ執行ハ其刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ上告裁判所ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢事ノ指揮ニ依リ之ヲ爲スヘシトアリ故ニ刑ノ執行ハ皆檢事ノ監視及ヒ指揮ノ下ニ之ヲ執行スルモノナリ
罰金科料訴訟費用及ヒ沒收物品追徴金ハ檢事ノ命令ニヨリ之ヲ徴收スルハ是等ハ主刑又ハ附加刑ノ執行ナルヲ以テ檢事ノ司ル所ニシテ執行官吏ハ檢事ノ指揮ニヨリテ之ヲ實行スルモノナリ訴訟費用モ亦刑ノ執行ニ附帶スル者ナレハ檢事ノ命令ニヨリテ徴收スルハ當然ナリ然ルニ第二百二十三條ニ依レハ訴訟關係人ニ辨濟スヘキ訴訟費用ニ付テハ其判決ノ執行ハ民事訴訟法ニ從フヘキモノト規定シタリ凡ソ公訴費用ハ刑法附則ニ定ムル如ク證人鑑定人等ニ辨濟スヘキモノナルヲ以テ訴訟關係人ニ辨濟スヘキ費用ニ非ス故ニ民事訴訟法ノ規定ニ從ハシムルモノハ私訴費用ニシテ公訴費用ノ執行ニ非ストス
沒收シタル物品ハ或ハ其存在ヲ以テ社會ニ危害ヲ與フルモノアリ例ヘハ偽造貨幣及ヒ人ヲ殺スカ爲メ用ヒ又ハ用ヒント爲シタル爆發物ヲ裝置セル器械ノ如キハ之ヲ沒收シタル後ハ破壊又ハ廢棄シテ存在セシメサルヲ要ス

第二百三十一條 死刑ノ執行ニ付テハ裁判所書記其始末書ヲ作り刑ノ

執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ

(註)死刑ノ執行ニ付テハ裁判所書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規定ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印スヘシトス死刑ハ最モ重大ナル刑ナルヲ以テ特ニ裁判所書記ヲシテ之ヲ證明セシメ置クナリ其他ノ体刑ニ付テモ刑ノ執行セラレシコトヲ證明シ置クノ必要アルモ敢テ裁判所ノ吏員ヲ煩ハスヲ要セス刑ノ執行ヲ受クヘキ監獄署ノ帳簿ニ被刑人ヲ登錄シタルヲ以テ其執行ヲ證明スルヲ得ルナリ又罰金科料沒收物品追徴金等ニ至リテハ檢事ノ命令ニヨリ執達吏ニ於テ之ヲ執行スルカ故ニ執達吏ノ作リタル文書ニヨリ證明シ得ルモノトス

第三百二十二條

刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(註)疑義ノ申立トハ執行官ノ處分ヲ不當ナリトシテ其處分ノ更正ヲ求ムルモノニアラス判決ノ意義ニ疑ヲ生シタルニヨリ其言渡ノ解釋ヲ求ムルモノナリ其判決中何レノ部分ニ付テモ疑ノアル時ハ申立ヲ爲シテ決定ヲ受ケルコトヲ得ルモノ、如シト雖モ決シテ然ラス判決ノ理由ハ確定前ニ在リテハ若シ明瞭ヲ欠ク時ハ上訴シテ之ヲ更正スルノ道アリト雖モ已ニ確定シタル以上ハ其理由ニ付テ受刑人カ意義ヲ解釋セサルトテ疑義ノ申立ヲ爲スヲ得ス然ラハ疑義ノ申立ハ判決ノ主文ニ關スル疑義ナリトス之ヲ細別スレハ主文ヲ以テ言渡シタル

刑ノ性質範圍及ヒ其刑ヲ受ク可キ人ニ關スル解釋ヲ求ムルモノナリ若シ判決中ノ如何ナル部分ニ對シテモ疑義アル時ハ申立ヲ爲シ得ルモノトスルトキハ裁判所カ法律ノ解釋ヲ誤リタルトキノ如キ被刑人ハ疑義ヲ生シ之ヲ論難シテ止マサルヘシ決定ヲ與フヘキ裁判所モ其論スル所ヲ相當ナリトセサルヲ得ス然レトモ最早其判決ハ更正スヘカラサルモノナレハ其説明ヲ爲スモ刑ヲ受ケタル者ニ在リテハ何等ノ利益アルコトナカルヘシ然ラハ則チ確定前ニ在リテハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ヘキモ確定ノ今日ニ至リテハ之ヲ如何トモスルヲ得ス故ニ疑義ノ申立ヲ爲スモ決定ヲ與フヘキノ限ニ在ラス

異議ノ申立ニ付テモ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定スヘシト規定セリ此ノ異議ノ申立ハ執行處分ヲ不當ナリトシテ更正ヲ求ムルモノナリ
疑義及ヒ異議ノ申立ニ對シ決定スルモノハ本條ニ明示スル如ク刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ナリトス而シテ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所トハ執行スヘキ判決主文ヲ言渡シタル裁判所ナリトス故ニ上訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル控訴裁判所及ヒ上告裁判所ハ其内ニアラス
疑義又ハ異議ニ對スル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス是レ此疑義異議ニ對スル決定ハ其判決ト殆ト同一ノ結果ヲ被刑人ニ及ホスモノニシテ事重大ナルカ故ニ上訴ヲ爲スコトヲ許シタルナリ

(理由)疑義又ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノミナリトス故ニ

檢事ハ此申立ヲ爲スコトヲ得ス何故ニ法律ハ檢事ニ此權利ヲ附與セサルカ執行ノ異議ハ其執行ヲ受クル者ニ於テ不服ナルカ故ニ生スルモノナリ然ルニ檢事ハ執行ヲ受クル者ニ非シテ自ラ刑ヲ執行スル者ナレハ異議ヲ申立ツルノ必要ナシ然レトモ免訴ヲ言渡シタル判決ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ檢事ヨリ異議ヲ申立ツルノ場合アルモノ、如シ例ヘハ判決ノ理由ニ依レハ甲者コソ放免トナルヘキニ主文ニヨリテ見レハ乙者ヲ放免トストアルカ如キ是ナリ然レトモ執行ハ檢事ノ爲ス所ナレハ自己ノ所爲ニ對シテ自身ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘカラス此場合ニ於テハ甲者ハ或ハ執行ニ對シテ異議ヲ申立ツルヲ得ヘキナリ故ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノミニ疑義異議ノ申立ヲ許シ檢事ニハ其權利ヲ附與セサルナリ

第二百二十三條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ辨濟ス可キ訴訟費用ニ付キ判決ノ執行ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

「注意」 第二百二十四條ヨリ第二百三十四條ニ至ル復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ刑法施行法ニ依リ削除セラル

附 則

第一條 此法律施行前ニ受理シタル豫審ノ故障及ヒ其故障ノ判決ニ對スル上告ハ之ヲ受理シタル地方裁判所又ハ大審院ニ於テ抗告トシテ之ヲ裁判ス可シ

第二條 大審院ニ於テ既ニ受理シタル哀訴、裁判管轄ヲ定ムルノ訴及ヒ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ治罪法ノ手續ニ依リ大審院之ヲ裁判ス可シ

第三條 既ニ發シタル勾留狀收監狀ハ此法律ニ定メタル勾留狀ノ效ヲ有ス

第四條 此法律ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第五條 此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

改訂刑事訴訟法釋義終



監獄法

(明治四十一年三月
法律第二十八號)

第一章 總則

第一條 監獄ハ之ヲ左ノ四種トス

- 一 懲役監 懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 二 禁錮監 禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 三 拘留場 拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 四 拘置監 刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス
- 拘置監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得
警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得

第二條 二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歳未満ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歳ニ至ルマテ又滿二十歳ニ至リタル後三月内ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得
心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齢ニ拘ハラサルコトヲ得

第三條 監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス

○監獄法第一章總則

懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘留監ノ同一區劃内ニ在ルモノハ之ヲ分界ス
第四條 主務大臣ハ少クトモ二年毎ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡閱セシム可シ
判事及ヒ檢事ハ監獄ヲ巡視スルコトヲ得

第五條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限
リ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第六條 本法ニ依リ没入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄慈惠ノ用ニ充ツ

第七條 在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閱
官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第八條 勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス

前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第九條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除外刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ死刑ノ言渡ヲ
受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之
ヲ準用ス

第十條 本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第二章 收 監

第十一條 新ニ入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及ヒ執行指揮書其他適法ノ文書ヲ查
閱シタル後入監セシム可シ

第十二條 新ニ入監スル婦女其子ヲ携帶センコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限り滿
一歳ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得

監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

第十三條 新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リ
タルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十四條 新ニ入監スル者アルトキハ其身體及ヒ衣類ノ検査ヲ爲スコシ在監中ノ者ニ付キ
必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章 拘 禁

第十五條 在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除外之ヲ獨居拘禁ニ付スル
コトヲ得

第十六條 雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其監房ヲ別異
ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス

十八歳未滿ノ者ハ第二條第二項ノ場合ヲ除外十八歳以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心身
發育ノ狀況ニ因リ其必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

前三項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於

○監獄法○第四章戒護

テモ其交通ヲ遮斷ス

第十八條 懲役監、禁錮監、拘留場、拘留監及ヒ勞役場ノ同一區劃内ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ教誨堂ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監房若クハ座席又ハ診察若クハ教誨ノ時間ヲ異ニス

病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セサルコトヲ得

第四章 戒 護

第十九條 在監者逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

戒具ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 法令ニ依リ監獄官吏ノ携帯スル劔又ハ銃ハ左ノ各號ノ一ニ該ル場合ニ限り在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得

- 一 人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ
- 二 危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ肯セサルトキ
- 三 逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ
- 四 逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

第二十一條 天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシムルコトヲ得

前項ノ用務ニ就キタル者ニハ第二十八條ノ規定ニ準用ス

第二十二條 天災事變ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス可シ若シ護送スルノ途ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ監獄又ハ警察官署ニ出頭ス可シ解放後二十四時間内ニ出頭セサルトキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷ス

第二十三條 在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後四十八時間内ニ限り之ヲ逮捕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ妨ケス

第五章 作 業

第二十四條 作業ハ衛生、經濟及ヒ在監者ノ刑期、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス

十八歳未滿ノ者ニ課ス可キ作業ニ付テハ前項ノ外殊ニ教養ニ關スル事項ヲ斟酌ス

第二十五條 大祭祝日、一月一日、二月一日及ヒ十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス
父母ノ訃ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免ス

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得

炊事、洒掃、看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業ニ就ク者ニ付テハ就業ヲ免セサルコトヲ得

第二十六條 刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚作業ニ就カンコトヲ請フトキハ其選擇スルモノニ就キ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條 作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得
作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シテ其額ヲ定ム

第二十八條 在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章 教誨及ヒ教育

第二十九條

受刑者ニハ教誨ヲ施ス可シ其他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條

十八歳未満ノ受刑者ニハ教育ヲ施ス可シ其他ノ受刑者ニシテ特ニ必要アリト認めルモノニハ年齢ニ拘ハラヌ教育ヲ施スコトヲ得

第三十一條

在監者文書、圖畫ノ閱讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス
文書、圖畫ノ閱讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 給 養

第三十二條

受刑者ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但拘留囚ニハ白衣ノ著用ヲ許シ其他ノ者ニハ襦袢ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第三十三條

刑事被告人及ヒ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ衣類臥具ハ自辨トシ其自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

自辨ノ衣類臥具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條

在監者ニハ其體質、健康、年齢、作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第三十五條

刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第八章 衛生及ヒ醫療

第三十六條

在監者ノ頭髮鬚髯ハ之ヲ剪剃セシムルコトヲ得但刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ衛生上特ニ必要アリト認めル場合ヲ除ク外其意思ニ反シテ之ヲ剪剃セシムルコトヲ得ス

第三十七條

在監者ハ其拘禁セラル、監房ノ清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服ス可シ

第三十八條

在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十九條

在監者ニハ種痘其他傳染病豫防ニ必要ト認めル醫術ヲ行フコトヲ得

第四十條

在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療セシメ必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス

○監獄法○第九章 接見及ヒ信書

第四十一條 傳染病者ハ嚴ニ之ヲ離隔シ健康者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ス但懲役囚ヲシテ看護セシムルハ此限ニ在ラス

第四十二條 病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシメンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第四十三條 精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス

第四十四條 妊婦、産婦、老衰者及ヒ不具者ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章 接見及ヒ信書

第四十五條 在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條 在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受クルコトヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十七條 受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ其發受ヲ許サス

前項ニ依リ發受ヲ許サ、ル信書ハ二年ヲ經過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十八條 裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書ハ披閱シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十九條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ本人閱讀ノ後之ヲ領置ス

第五十條 接見ノ立會、信書ノ檢閱其他接見及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章 領置

第五十一條 在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

保存ノ價值ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在監者相當ノ處分ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第五十二條 在監領置物ヲ以テ其父、母、配偶者又ハ子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其差出人ノ氏名若クハ居所不明ナルトキ、其差入ヲ許ス可カラスト認ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十四條 在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ沒收又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十五條 領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第五十六條 死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相續人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス

第五十七條 死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前條ニ掲ケタル者ノ請求ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內ニ居所分明セサルトキハ亦同シ

第十一章 賞 罰

第五十八條 受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコトヲ得

賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス

第六十條 懲罰ハ左ノ如シ

一 叱責

二 賞遇ノ三月以内ノ停止

三 賞遇ノ廢止

四 文書、圖畫閱讀ノ三月以内ノ禁止

五 請願作業ノ十日以内ノ停止

六 自辨ニ係ル衣類臥具著用ノ十五日以内ノ停止

七 糧食自辨ノ十五日以内ノ停止

八 運動ノ五日以内ノ停止

九 作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削

十 七日以内ノ減食

十一 二月以内ノ輕屏禁

十二 七日以内ノ重屏禁

屏禁ハ受罰者ヲ罰室内ニ晝夜屏居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得重屏禁ニ在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス

第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第六十一條 前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事被告人及ヒ十八歲未滿ノ在監者ニ之ヲ科セス

第六十二條 懲罰ニ處セラレタル者疾病其他特別ノ事由アルトキハ其懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第十二章 釋 放

第六十三條 在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令又ハ刑期ノ終了ニ因リ關係文書ヲ査閱シテ其手續ヲ爲ス可シ

第六十四條 恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ許可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間內ニ之ヲ釋放ス

第六十五條 前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ釋放ヲ爲ス可キ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタル後十時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十六條 假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證票ヲ交付ス

第六十七條 假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間左ノ規定ヲ遵守ス可シ

一 正業ニ就キ善行ヲ保ツコト

二 警察官署ノ監督ヲ受クルコト但警察官署ハ監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ委任スルコトヲ得

三 住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト

主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スヲ許スコトヲ得

第六十八條 滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午後六時マテニ之ヲ釋放ス

第六十九條 釋放セラル可キ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其請求ニ因リ仍ホ在監セシムルコトヲ得

第七十條 釋放セラル可キ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セザルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費ノ増加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得

第十三章 死亡

第七十一條 死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス

大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス

第七十二條 死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得ス

第七十三條 在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス

死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得

死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得

第七十四條 死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在ラス

第七十五條 受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

附 則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

監 獄 法 終

監獄法施行規則 (明治四十一年六月司法省令第十八號)

第一章 總則

第一條 逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁ス可キ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス
外國艦船乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準
ス

第二條 監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但司法大臣ヨリ特別ノ
許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス
外國人監獄ヲ參觀スルニハ司法大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三條 監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其氏名、身分、職業、住所、年齢及ヒ參觀ノ目
的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知ス可シ

第四條 司法大臣ニ情願ヲ爲スニハ其旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出スコトヲ要ス
情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閱スルコトヲ得ス
情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ進達ス可シ

第五條 巡閱官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ得
巡閱官吏ニ情願ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其者ノ氏名ヲ情願簿ニ記載

シ置ク可シ

前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條 巡閱官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除ク外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシム可
カラス

第七條 巡閱官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ司法大臣ノ裁決ヲ乞フコト
ヲ得

巡閱官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其要旨ヲ記載ス可シ

第八條 情願ニ對スル裁決ハ典獄速ニ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第九條 典獄ハ每週一回以上面接日ヲ定メ獄監ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付キ申立ヲ爲サン
コトヲ請フ在監者ニ面接ス可シ

前項ノ申立ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ其氏名ヲ面會簿ニ記載シ置キ其順序ニ
從ヒ面接シタル後本人ニ開示シタル意見ノ要旨ヲ面會簿ニ記載ス可シ

第十條 本則中別段ノ規定アルモノヲ除ク外懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡
ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章 收 監

第十一條 新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年月日時及ヒ領收官
吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付ス可シ

第十二條 新ニ入監スル婦女ニ子ノ攜帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其子ヲ監獄所在地ノ市區町村役場ニ引渡ス可シ

攜帶ヲ許シタル子カ滿一歳ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許ス可カラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十三條 新ニ入監スル者アルトキハ監獄醫其健康ヲ診査ス可シ

第十四條 監獄ニ於テ避病監其他傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹ル者ト雖モ之ヲ入監セシム可シ

第十五條 監獄法第十三條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及ヒ監獄所在地ノ警察官署ニ通報シ仍ホ其事情ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十六條 新ニ入監スル者刑事訴訟法第二百十九條第二項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメタル上監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ檢事ニ通報ス可シ

第十七條 新ニ入監スル者アルトキハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外入浴ヲ爲サシム可シ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之レニ立會ヒ婦女ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ハ女監取締之レヲ爲ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及ヒ身體衣類ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第十八條 入監者ニハ番號ヲ付シ在監中其番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシム可シ但本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條 典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項竝ニ刑期ノ起算及ヒ終了ノ日ヲ入監者ニ告知ス可シ

典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其結果ヲ身上票ニ記載ス可シ

前項ノ調査ヲ爲スニ付キ必要アリト認ムルトキハ裁判所、警察官署、市區町村役場又ハ本人ニ縁故アル者ニ照會ヲ爲ス可シ

第二十條 典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ亦同シ

第二十一條 新ニ入監シタル者ハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外三日以内之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

前項ノ受刑者ニハ文書圖畫ノ閱讀ヲ許サス懲役囚ニハ作業ヲ課セサルコトヲ得

第二十二條 入監者ノ身分帳簿、名籍原簿、在監人人名簿及放免曆簿ハ收監後三日以内ニ整理シ必要ナル事項ヲ記載ス可シ

在監者遵守事項ハ冊子トシテ之ヲ監房内ニ備ヘ置ク可シ

第三章 拘 禁

第二十三條 獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接

見、教誨、診療又ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外常ニ一房ノ内ニ獨居セシム可シ
第二十四條 刑事被告人ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ
第二十五條 受刑者ハ本則ニ於テ特ニ規定アル場合ヲ除ク外左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

- 一 刑期二月未満ノ者
- 二 二十五歳未満ノ者
- 三 初犯ノ者
- 四 入監後二月ヲ經過セサル者

餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ
獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖モ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十六條 在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ在監者ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十七條 獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス
十八歳未満ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁

ニ付スルコトヲ得ス

第二十八條 典獄及ヒ監獄醫ハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノ監獄官吏ハ毎日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視ス可シ

第二十九條 典獄、監獄醫、教誨師及ヒ女監取締ヲ除ク外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付キ亦同シ

第三十條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其視察シタル事項ヲ典獄ニ報告ス可シ

第三十一條 第二十五條第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル受刑者ニシテ監房不足ノ爲メ獨居拘禁ニ付スルコト能ハサルモノ及ヒ獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十二條 夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在房セシム可シ

第三十三條 勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得ス

第三十四條 病者又ハ不具者ト健康者トハ之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但看護ニ從

事スルモノハ此限ニ在ラス

第三十五條 雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス可シ但療養其他已ムコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第三十六條 雜居監房、工場、教場及ヒ教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止ス可シ

第三十七條 監房ニハ疊ヲ數クコトヲ得ス但拘置監、女監及病監ハ此限ニ在ラス

第三十八條 雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條 監房ノ前ニハ小札ヲ掲ケ其上部ニ在房者ノ氏名、年齢、罪質、刑名、刑期、留置

期間及ヒ犯數其下部ニ番號及ヒ入監ノ年月日ヲ記載シ上部ハ之ヲ蔽掩シ置ク可シ

第四十條 雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ掲ク可シ

第四章 戒護

第四十一條 監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ検査ス可シ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條 監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及ヒ現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置ク可シ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其要所ヲ守衛ス可シ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ニ非サレハ其授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開

扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但病監ニ在リテハ此限ニ在ラス

第四十四條 監獄ノ構内ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其他戒護ノ障礙ト爲ル可

キ物ヲ置ク可カラズ

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其他攀越ノ用ニ供シ得可キ物ヲ構内ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施ス可シ

第四十五條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ毎日一回監房ノ検査ヲ爲サシム可シ

第四十六條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ノ檢

査ヲ爲サシム可シ

第四十七條 在監者ニシテ戒護ノ爲メ離隔ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第四十八條 戒具ハ左ノ五種トス

- 一 窄衣
- 二 鈇
- 三 手錠
- 四 聯鎖
- 五 捕繩

鈇ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ線帶セシメ線帶ノ所ニ下鍵ス

聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ纏帶セシメ纏帶ノ所ニ下鍵シ二人毎ニ連縛ス

第四十九條 戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條 窄衣ハ危険ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、欵ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠及ヒ捕繩ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得
窄衣ハ六時間以上、兩脚施欵ハ六月以上、一脚施欵ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ窄衣及ヒ欵ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 監獄官吏在監者ニ對シテ劔又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第五十二條 典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所ヲ告知ス可シ

第五十四條 在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可シ
護送ヲ停止シタルトキハ其旨ヲ關係官廳ニ通報ス可シ

第五十五條 護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラズ刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノ亦同シ

刑事被告人及ヒ十八歳未満ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分ス可シ

第五十六條 在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及ヒ其附近並ニ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添へ逃走ノ事實ヲ通報ス可シ

第五十七條 前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ爲ス外逃走及ヒ逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報ス可シ

第五章 作業

第五十八條 在監者ノ作業時間ハ左ノ如シ

十一月	七月	時間	十一月	八月	時間
十二月	九時	時間	十二月	十月	時間
一月	九時	時間	一月	十時	時間
二月	九時	時間	二月	十時	時間
三月	九時	時間	三月	十時	時間
四月	九時	時間	四月	十時	時間
五月	九時	時間	五月	十時	時間
六月	九時	時間	六月	十時	時間
七月	九時	時間	七月	十時	時間
八月	九時	時間	八月	十時	時間
九月	九時	時間	九月	十時	時間
十月	九時	時間	十月	十時	時間
十一月	九時	時間	十一月	十時	時間
十二月	九時	時間	十二月	十時	時間

作業時間ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以内短縮スルコトヲ得

教育、教誨及ヒ運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十九條 作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ
第六十條 在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ
第六十一條 作業科程ハ普通一人ノ仕上高及ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ
第一ニ之ヲ定ム可シ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作業
科程トス

十八歳未満ノ受刑者、老者、病弱者及ヒ不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付キ相當ノ作
業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條 作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併
課スルコトヲ得

第六十三條 一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖モ作業時間内ハ繼續シテ作業ニ就カシム
可シ

第六十四條 請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其作業ヲ中止シ若クハ
之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條 典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得
第六十六條 刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

刑期六月ニ滿タヌ又ハ受刑後三月ヲ經過セサル受刑者ハ司法大臣ノ認可ヲ受クルニ非サ
レハ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但十八歳未満ノ受刑者ヲ監外ノ農業ニ就カシム
ルハ此限ニ在ラス

第六十七條 典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ検査セシム可シ
第六十八條 仕上高ハ毎月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作
業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十一條第二項ノ作業ニ付テハ一月毎ニ其就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ作業科程
ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條 前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ス可シ

第七十條 左ニ掲クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一 累犯ノ懲役囚ニシテ入監後三月ヲ經過セサルモノ

二 監獄法第六十條第六號乃至第八號及ヒ第十號乃至第十二號ノ懲罰ニ處セラレ其執
行中ニ在ル者

三 就業三十日ニ滿タサル者

四 釋放ノ月ニ於ケル就業日ノ全部ヲ通シ就業セサル者

第七十一條 作業賞與金計算高ハ各就業者ノ成績ヲ普通ノ傭工錢ニ見積リ行狀犯數及ヒ作
業科程ノ了否ヲ斟酌シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム可シ

一 刑事被告人、拘留囚及び禁錮囚ハ見積額ノ十分ノ四乃至十分ノ七
二 懲役囚ハ見積額ノ十分ノ一乃至十分ノ四

第七十二條 監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ就業ノ當日ニ限り前條ニ掲ケタル割合ノ外見積額ノ十分ノ三以内ヲ増加スルコトヲ得

第七十三條 在監者惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ内ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條 就業者ニハ毎月十五日マテニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知ス可シ

第七十五條 作業賞與金ハ就業者釋放ノ際之ヲ給與ス可シ

第七十六條 十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條 作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條 作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月内ニ其居所分明セサルトキハ其計算高ヲ抹消ス可シ

第七十九條 監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依リ手當金ヲ給ス可キ情狀アリト認ムルトキハ典獄ハ調査書類ヲ添ヘ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

第六章 教誨及ヒ教育

第八十條 教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲ス可シ

必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條 病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲ス可シ

第八十二條 受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲ス可シ

第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲ス可シ

第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以内小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應シ毎日二時間以内相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ

第八十六條 文書圖書ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限り之ヲ許ス
新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サス

第八十七條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ増加スルコトヲ得

第八十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房内ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章 給 養

第八十九條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

- 衣類
- 一 單衣
- 二 裕
- 三 綿入
- 四 襦衣
- 五 帶
- 六 褌

七 股引

婦女ニハ股引ニ代ヘ前垂ヲ用キシム

臥具

- 一 蒲團又ハ毛布
- 二 敷布
- 三 枕
- 四 蚊帳
- 雜具
- 一 手巾
- 二 雨具
- 三 冠物
- 四 履物

股引又ハ前垂ハ作業ニ就ク者ニ限り之ヲ交付ス
用紙ハ之ヲ給與ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ増加スルコトヲ得

第九十條 在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但蚊帳ハ此限ニ在ラス

作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス
用紙ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム

病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ増減スルコトヲ得
已ムコトヲ得サル事情アルドキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ第一項及ヒ第二項ニ定メ
タル箇數ヲ増減スルコトヲ得

第九十一條 受刑者ニ著用セシムル衣類ハ赭色トス
左ニ掲タル衣類臥具ハ淺葱色トス

一 刑事被告人ニ貸與スル衣類

二 勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類

三 十八歳未満ノ受刑者ニ著用セシムル衣類

四 蒲團

第九十二條 自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衛生ニ害ナキ物ニ限ル
自辨ノ衣類臥具ノ品目及ヒ箇數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條 自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交換補綴又ハ澀濯セシム可シ
監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ澀濯シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條 在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ
一 飯 下白米十分ノ四
麥 十分ノ六 一人一回三合以下

二 菜

一人一日五錢以下

地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄ハ
司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ増加スルコト
ヲ得

第九十五條 在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコ
トヲ得

第九十六條 在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條 病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條 自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條 自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其者
ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第一百條 自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其検査ヲ爲ス可シ

第一百一條 雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用ヰシ
ム可シ

第八章 衛生及醫療

第二百二條 監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用ヰテ之ヲ清淨ナラシム可シ

第二百三條 受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ剪剃セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要ナル場合ヲ除ク外之ヲ剪剃セシムルコトヲ得ス

第二百四條 頭髮鬚髯ヲ剪剃セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ
婦女ニハ膏油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第二百五條 在監者ノ入浴ノ度数ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第二百六條 在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以内戶外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ム可キ者ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限り一時間以内ニ伸長スルコトヲ得
受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歳未満ノモノハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第二百八條 十八歳未満ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ異ニス可シ

第二百九條 獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ル可ク病監内ノ獨居監房ニ拘禁ス可シ

第二百十條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其攜帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第二百十一條 傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血清注射ヲ施スコトヲ得

第二百十二條 傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第二百十三條 在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ市區町村役場及ヒ警察官署ニ其事實ヲ通報ス可シ

第二百十四條 監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送ス可キトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送ス可キ病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第二百十五條 在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其狀況ヲ視察セシム可シ

第二百十六條 病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ司法大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ